

平成29年度糸島市地域力強化推進事業

住民アンケート調査報告書

平成30年3月31日提出

社会福祉法人糸島市社会福祉協議会

■調査概要■

調査名	地域福祉や地域共生社会に関するアンケート調査
調査目的	平成30年度は、第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画（平成31年度～平成35年度）策定の年であり、市民の皆様の「地域福祉」や「地域共生社会※1」に対するご意見を計画に反映させるため、糸島市が住民基本台帳に登録している20歳以上の中から2,000人を無作為で選ばせていただき、「地域福祉や地域共生社会に関するアンケート調査」を実施しました。
対象地区	糸島市全域
調査対象	無作為に抽出した市民2,000人（満20歳以上）※2
回答数	785人（回収率：39.3%）
調査項目	<ol style="list-style-type: none">1 基本情報について ①年代 ②性別 ③住所地 ④居住期間 ⑤家族構成2 共生社会づくりへの意識調査について ①近所付き合い ②相談できる人 ③自治会加入の有無 ④自治会のメリット ⑤自治会のデメリット ⑥自治会の問題点 ⑦自治会加入のきっかけや仕組み ⑧身近な地域の生活課題 ⑨解決課題の優先度 ⑩初期対応 ⑪支援への気持ち ⑫関心がある支援対象 ⑬我が事になるきっかけ ⑭有効な手段3 情報共有の仕組みについて ①福祉サービスの入手の程度 ①-1 情報の入手先 ②知りたい情報 ③情報の手段 ④情報発信のアイデア4 相談支援の体制について ①相談機関の認知度 ②福祉団体等の認知度
調査方法	郵送調査法（無記名式）
調査期間	平成29年12月8日～平成29年12月31日

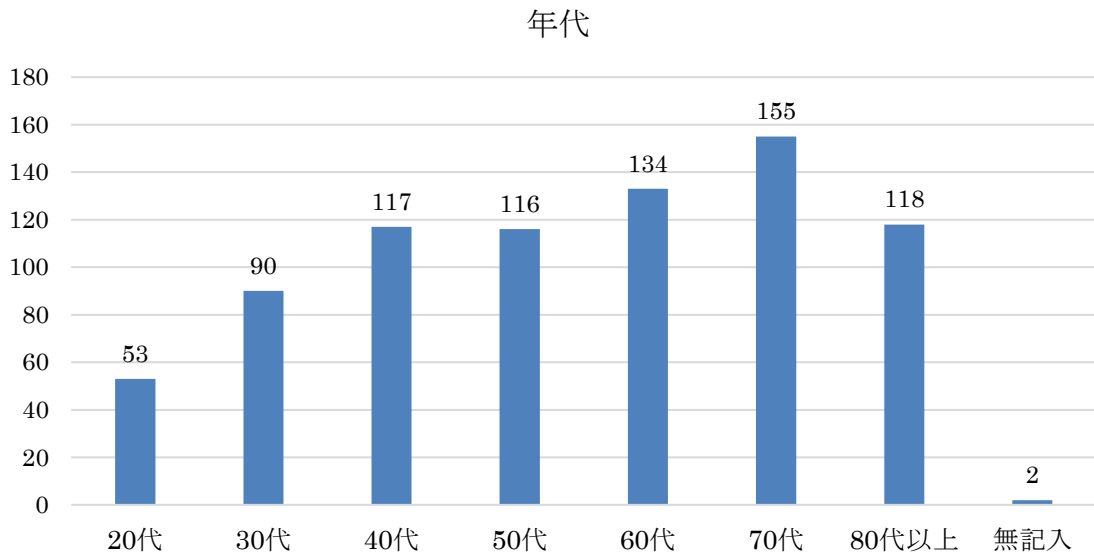
※1「地域共生社会」とは、住民一人ひとりが地域の課題に関心を持ち、住民や地域の多様な団体・事業所が主体的に参画し、世代や分野を超えて、地域・暮らし・生きがいを共に創り、高めあうことができる社会を言います。

※2 糸島市個人情報保護条例第14条（目的外使用）第2項第5号の規定に基づき、糸島市個人情報保護審議会の承認を受け、住民基本台帳から抽出を行っています。

（抽出基準日 平成29年11月20日）

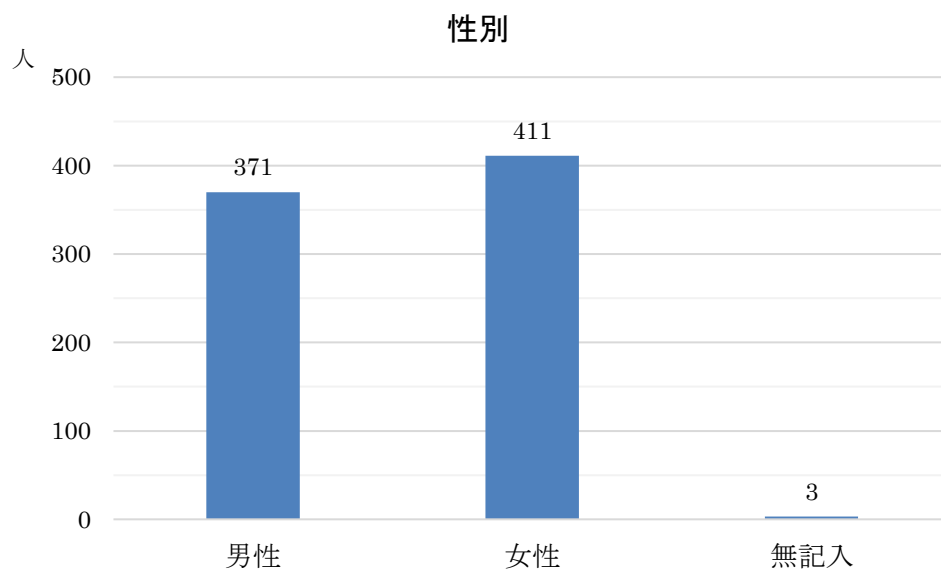
1 回答者の基本情報について

問1 年代



年代では、「70代」が最も多く、次いで「60代」が多い。

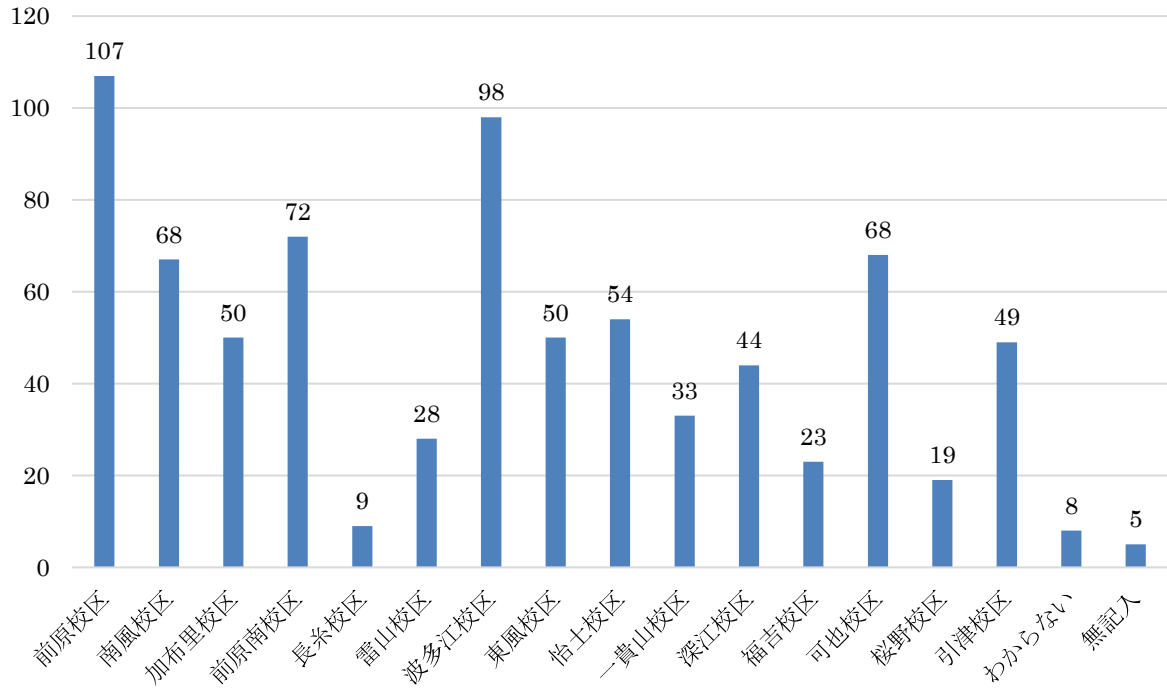
問2 性別



性別では、女性の方が全体の5%程度多い。

問3 住所地

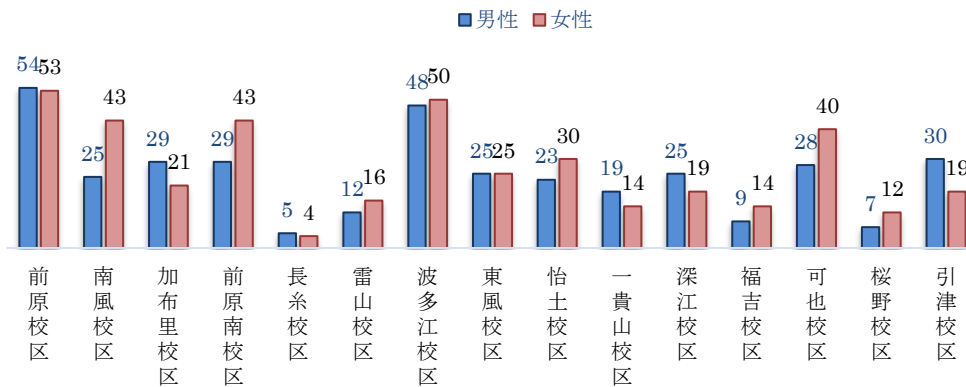
校区別



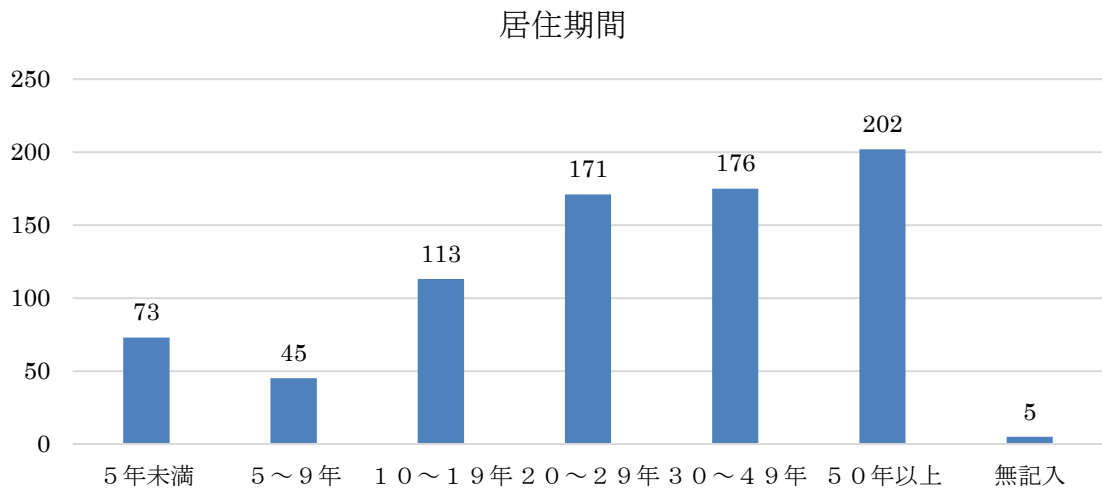
住所地では、「前原校区」が最も多く、次いで「波多江校区」が多い。

【参考】

住所地での性別

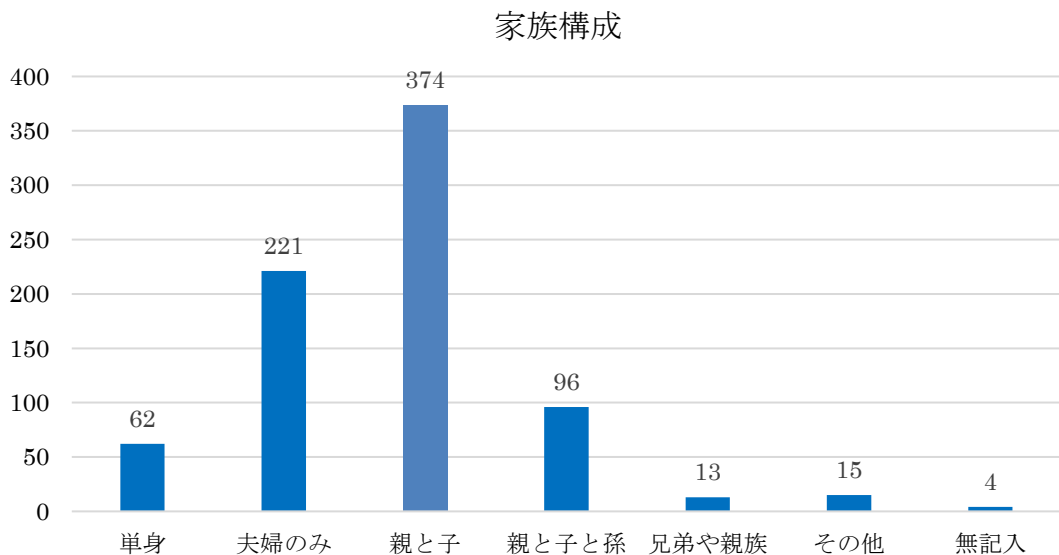


問4 糸島市に住んでどのくらいになりますか



糸島市での居住期間では、「50年以上」が最も多く、次いで「30~49年」「20~29年」が多い。

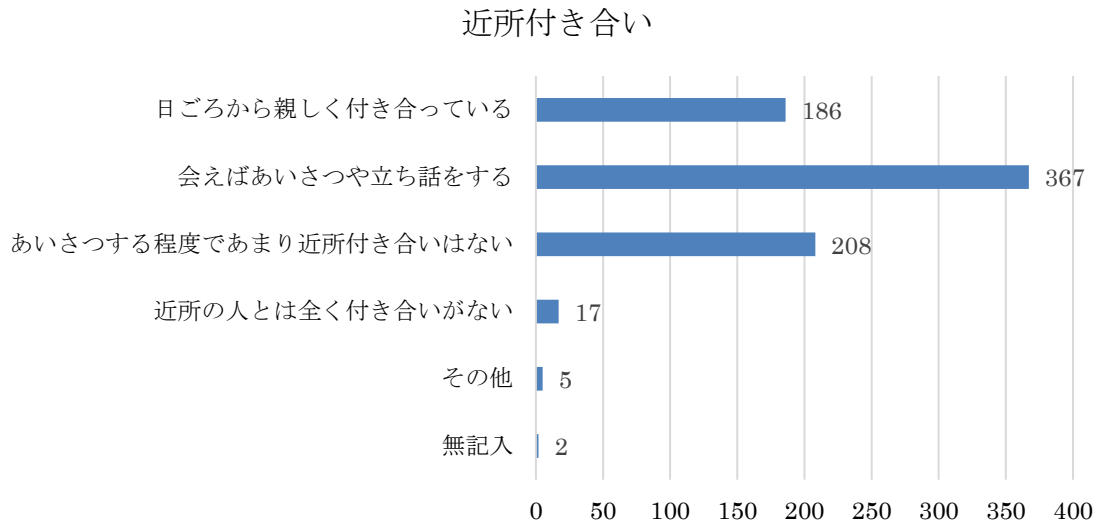
問5 現在の家族構成



家族構成では、「親と子」が最も多く、次いで「夫婦のみ」が多い。その他は、祖父母と親と子など4世代等です。

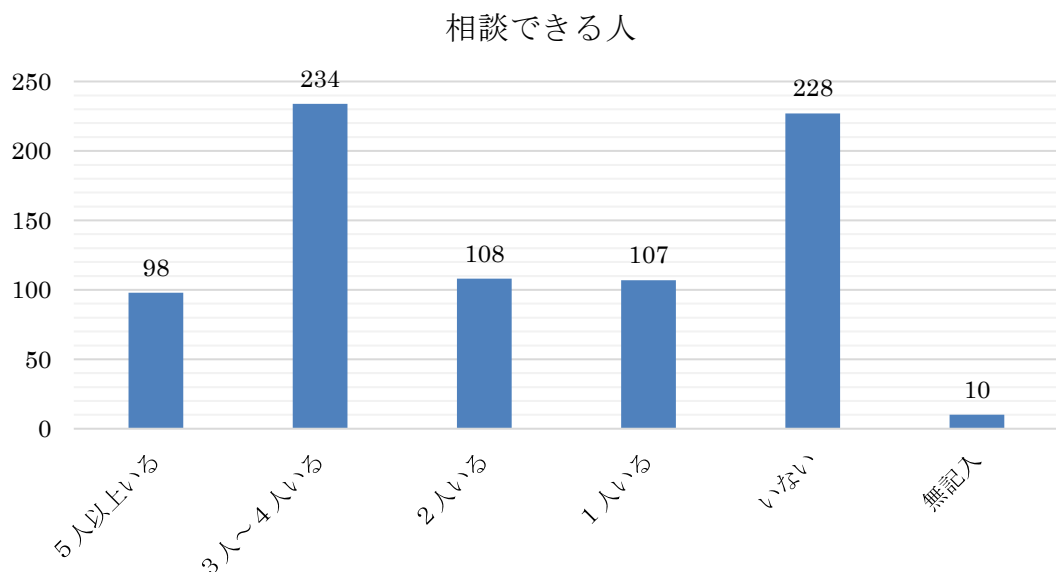
2 共生社会づくりへの意識調査について

問6 近所の人と普段どのような付き合いをしていますか



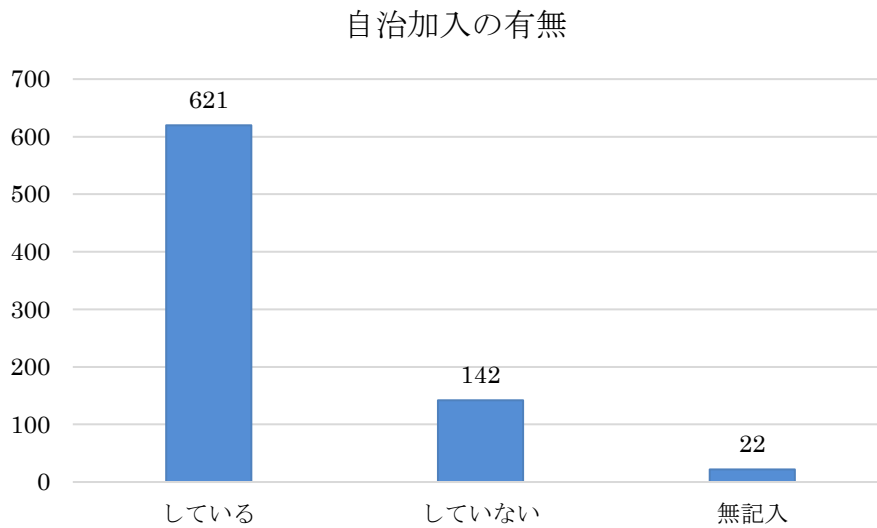
近所の人との付き合いでは「会えばあいさつや立ち話をする（地域行事も含む）」が最も多い。

問7 困ったことがあるとき、近所で気軽に相談できる人はいますか



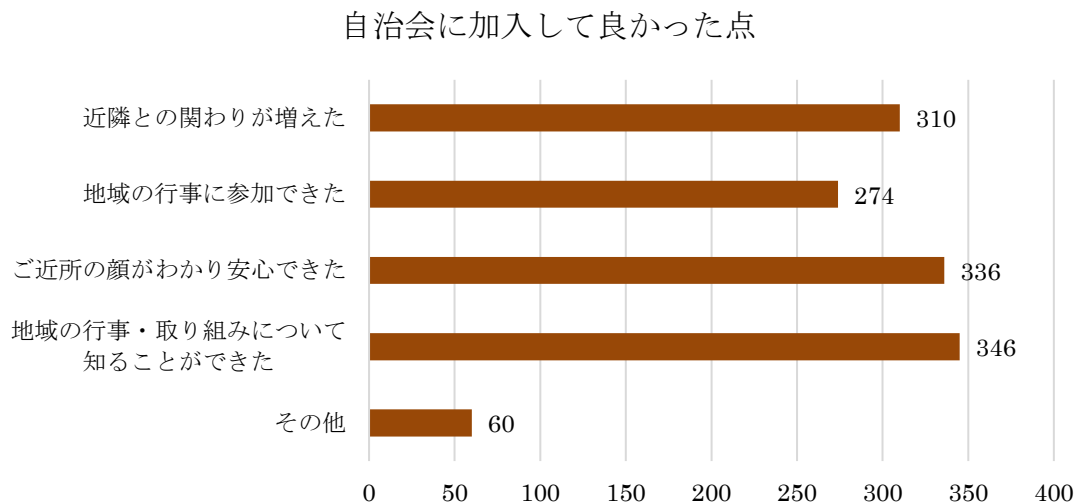
近所で気軽に相談出来る人は「3人~4人いる」が最も多い。
次いで「いない」が多い。

問 8 自治会に加入していますか



自治会に加入している人は全体の 80% となった一方、加入していないと回答した人は 20% となった。

問 9 自治会に加入している方へお聞きします。自治会に加入して良かった点は何ですか（あてはまるものすべて）

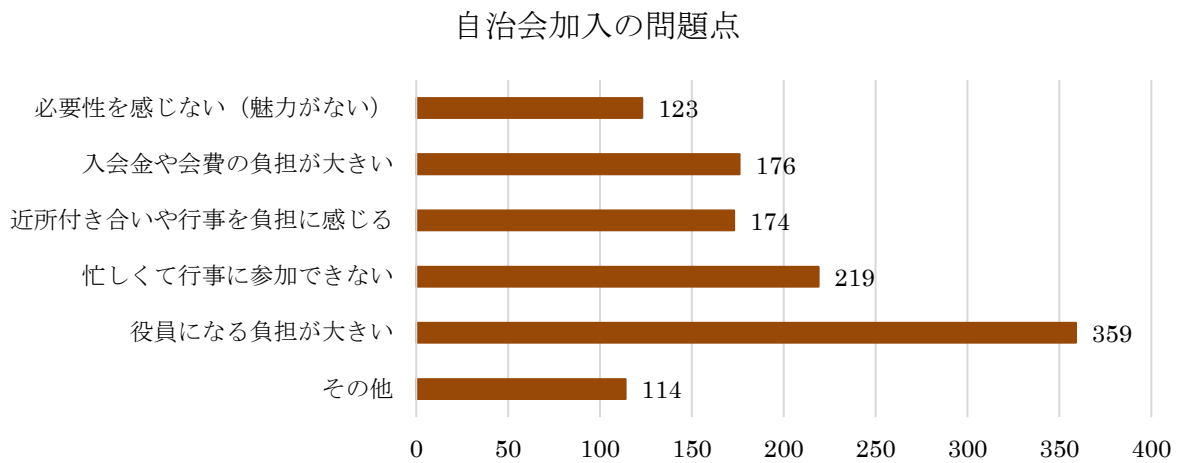


自治会に加入して良かった点では、「近隣との関わりが増えた」「ご近所の顔が分かり安心できた」「地域の行事・取り組みについて知ることができた」と自治会に加入している人の約 50% 以上が良かったと回答。

【その他の記述】

- ・ 長年住んでいると強制的に加入させられ、面倒！ときに人の悪口とか言う人がいるから
- ・ 特にない。入るべきものと思っていたし嫁いできたので…
- ・ アパートの家賃から強制的にひかれているが、何も届かないし、何の連絡もない。市広報、選挙公報など
- ・ 必要な時に協働できる
- ・ 行事多すぎ
- ・ 結婚して住むようになったときは昔からその自治会に入っている状態の地域だったため自治会が当たり前前の感覚でした
- ・ 糸島に来たときから入っているのだから当たり前と思えば何も思わない
- ・ 相互に助け合いができる
- ・ 何もなし・別にない・わからない
- ・ 当たり前だと思っている
- ・ 古い言い方をすれば村八分にならずに地域の一員として認識してもらえる
- ・ 連帯感があって楽しい
- ・ 知人が増えた
- ・ 社会福祉法人香月福祉会 MUKA に行っています。
- ・ 老人会(シニアクラブ)に加入していますが両股関節を 28 年に手術して行動範囲が狭くなりました。
- ・ 高齢になり行事への参加を強制されないのが良かった。自治会の行事以外に近隣との付き合いがないので仕方なく加入している。
- ・ 生活に喜びを感じる。
- ・ 自治会役員に知己が出来ました。
- ・ 自治会に加入しないという概念がなかった。
- ・ 強制加入。全ての行事がほぼ強制である。
- ・ 自治会加入は町づくりの基本である
- ・ 家族が参加しているので自分はほとんど関わりがない
- ・ 昔からいる。出られればなんでも出る
- ・ 義務として加入している
- ・ 自治会組織の結成以前より、自治は機能していた。
- ・ 長男と同居し、自治会の活動は長男夫婦が行っているのだから私自身は参加していない。
- ・ 加入のみでありあまり交流がない。

問 10 自治会加入の有無にかかわらず自治会加入の問題点は何ですか



自治会加入の問題点では、「役員になる負担が大きい」が最も多く、次いで「忙しくて行事に参加できない」が多い。

【その他の記述】

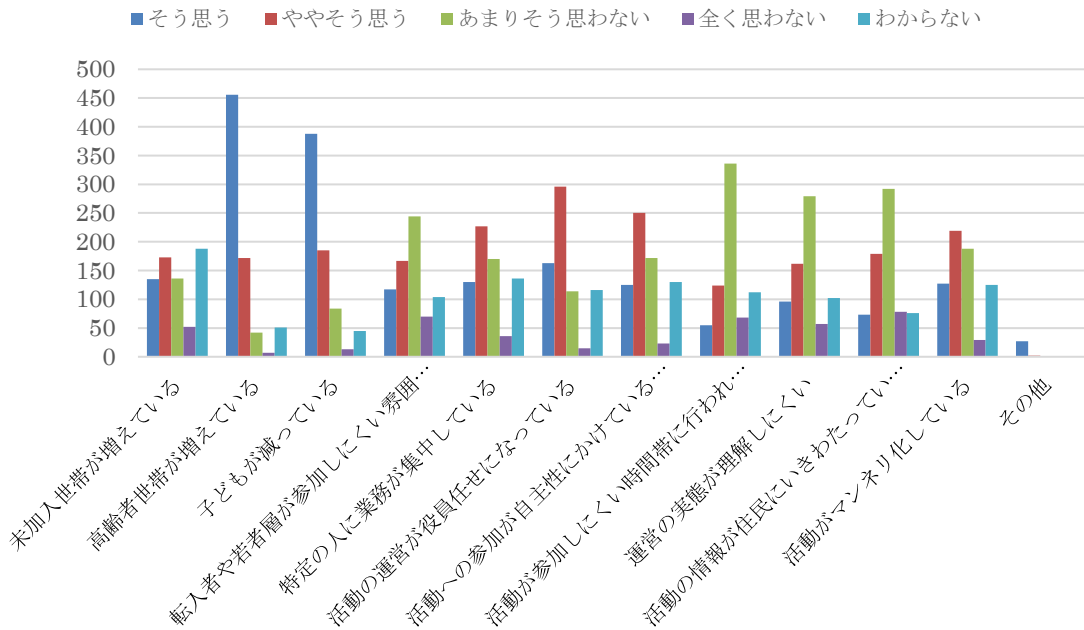
- ・ 身体が悪い、夫婦共、車なし、自転車なし・体調により参加できないこともある（年齢とともに）
- ・ ありもしない噂を立てる人がいるから
- ・ 親睦会の酒宴が負担
- ・ 特にありません。問題点なし。良くわからないため。まだよくわからない。
- ・ 役員の後任が決まらない
- ・ 良く知らないから。存在自体を知らない
- ・ 大きい行事は協力し合って出来る
- ・ 福祉の仕事に長くかかわってきたので、その関係の奉仕活動をしようと思ったが、人間関係で止めることとなり、今はシルバーに入会し福祉の仕事をしている。私はケアマネ、介護福祉士資格を持っているのでそれを役立てる仕事をとてもやりたかったです。やきもち、嫉妬などを感じました。
- ・ 二度加入の声がかかったが、入るからには全て同等にお願いしたいと言ったら、そのまま返答なく今になっている。
- ・ 時代錯誤 運営目的が不明確 住み良い町になっていないため、意味をなしていない
- ・ 昔からいる人が、自発的に行事に参加し準備しているが、高齢化に伴い、負担を感じる。やはり不公平感を持ってしまう。
- ・ 自治会を運営するためその必要額があり、その予算について全自治会員に於いて可決されたものであると解する
- ・ 町内会がある
- ・ 自治会費を集めて、その金で飲食すること、参加しない人はメリットがない
- ・ 入会金や会費の大きいのは良いが、何に使われているか不明、役員報酬が高すぎ
- ・ 若い人、世代間の交流が少ない。
- ・ 自治会内で亡くなった方がいた時に組の人全員からお金を集めなくてはならないのが、不在なことがあり面倒（面識ない方ばかりで負担に思う）
- ・ 自治会には一応入っていますが、役員はできる方が、適応力のある方がすばいと思います。長く住んでいるからとか順番だからとか言って役員をさせられることはいやです。
- ・ 家族が加入している為自分は加入していない。居候の為、親に任せている
- ・ ないと困るし、わずらわしいところもある。特に必要性を感じていないから

その他の記述（続き）

- ・ 旧前原市は、環境整備作業は行政(市)でしているのにわずかの補助で自分の地域は年3回出方があり、欠席すると5000円×3=15,000円支払うことになるのは不公平。
- ・ 自治会そのものがわからない。存在を知らない・自治会加入の連絡が来ていない
- ・ 自治会の年中心行事が多すぎる。本来、市役所等行政が行うもので自治会へ押しつけられている。時代は変わってきているのであるから、高齢化する会員にあまり負担をかけるべきではない。(小生は転勤族であったので全国の状況を体験する機会があったが、特に糸島は自治会の仕事が多い)
- ・ 回覧配布は月1回でいいと思う。速く回さなければと負担に感じます・回覧板の回数が多い
- ・ 高齢になり行事に参加できない。高齢により加入なし。
- ・ 親が加入しているので今のところ必要性を感じていない
- ・ 自治会の当事者が欠席する人が増えてきた
- ・ 高齢者のみの世帯増に伴い運営がむづかしくなる
- ・ 特に会費など地域差
- ・ 強制的にさせられる当番制の役員は支援を受けている高齢家族には無理
- ・ 高齢者、障がい者等の世帯の脱会、免除などいかがなものかと思う
- ・ ミゾ掃除、草刈等出方があり、病気通院等法事等で欠席すれば1000円の罰金が課せられる。この作業は糸島市がする仕事でありますので罰金等は糸島市が行政指導を行って罰金制度無くして欲しい。(下水使用料も払い税金も払っています)
- ・ 自治会と神社行事が一緒になっている。明確に分離すべき
- ・ 仕組みすらわからない。内容がよくわからない。役員としてやるべき事がよくわからない
- ・ いや事言われるので、楽しみをなくして行く気がしない
- ・ 新興住宅地のため、まだ伝統等が根付いていない
- ・ 高齢者世帯が増えているので、みんなが参加できる行事等。行事になるべく参加したいけど、難しいかも。(ゆっくり話し合える場所等、そういう場所が欲しいです)
- ・ 老人へのサポート、補助が多いが子どものいる家庭へのサポート、子どもへ予算を充てることが全くない。若い力を必要とされるが、体力を求められるだけでその負担(時間・労力)に対する補助がない
- ・ 私的な行事と重なった時、地域に迷惑をかけ申し分けなく感じてしまう
- ・ 活動の内容が不明(お金の動きは総会で説明有)
- ・ 体調不良につき参加不可。腰が悪く、会場まで行けない
- ・ 仕事等は福岡市内へ通っている人が多く、若者の参画が低くなっている
- ・ 個人の情報の保護等が優先されすぎてマンション等名前もわからない
- ・ 行事が多すぎる。過疎化傾向なのに不必要な行事がある(地域の運動会など)必要なものと不必要なものの整理がいると思う
- ・ 加入しないと、ゴミを収集してもらえないと聞いた。本当なら入らざるを得ないのでは？
- ・ 校区内の行事等の簡素化や削除も含め会費の縮小にもつながる
- ・ 役員の負担は大きい、それに見合う報酬がなされていない
- ・ 自治会そのものの説明がない
- ・ 必要性はあるがきつと体がついていかないので…
- ・ 年をとれば何も出来ず、若い時は役員をしたり楽しかったです
- ・ 自治会活動は必要な事であるとは存じますが趣味や他の活動が多く参加できない。今の私にとっては、自治会活動が多すぎると思います。(私的感想です)
- ・ 年を取って行けなくなった。高齢化への不安がある。年をとってホームにいるためお役に立ちません
- ・ マンション生活以前は、全て問題点なし
- ・ 会費がどこに消えているか分からなくて会費も高いと思います。前の居住が大阪で入会金無しで年会費約千円くらいだったので金額にビックリしました
- ・ まだ運動会などがあり、だんだん皆年齢を重ねて選手を集めるのに大変だったりするので行事を見直してほしい
- ・ 自治会あるのがよい。入会するのは当然。
- ・ 強制的に加入させられる

問 11 現在の自治会・町内会活動に以下のような問題があると思いますか

現在の自治会・町内会活動について



回答結果

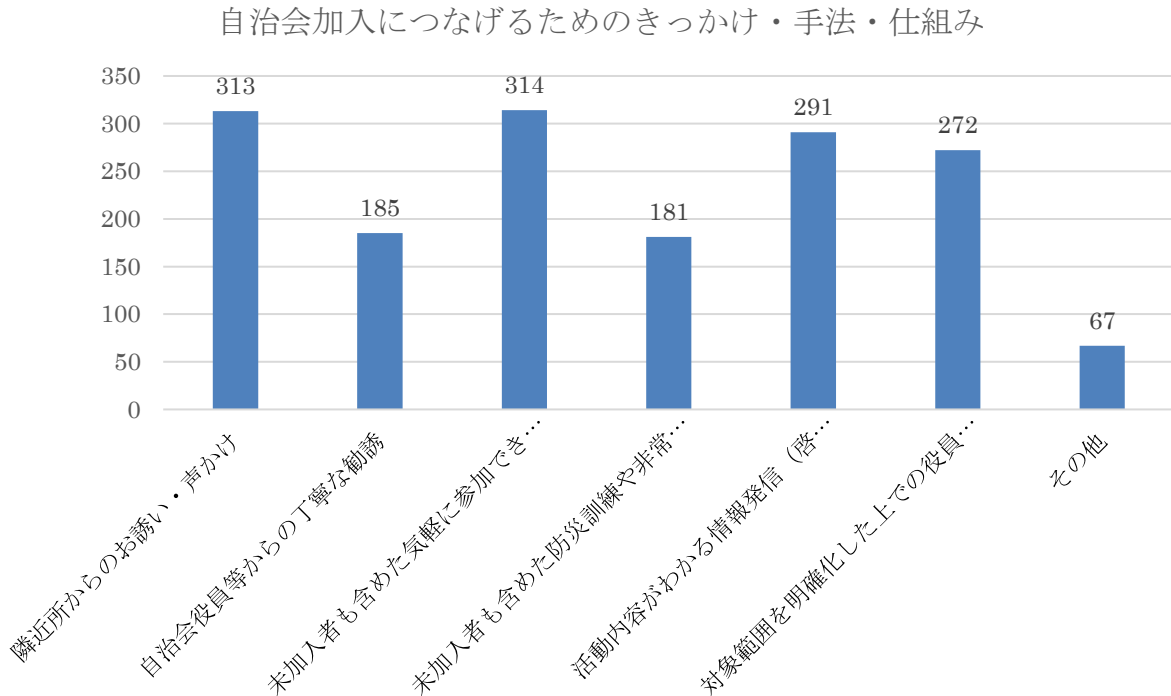
No.	問題点	①	②	③	④	⑤
1	未加入世帯が増えている	135	173	136	52	188
2	高齢者世帯が増えている	456	172	42	7	51
3	子どもが減っている	388	185	84	13	45
4	転入者や若者層が参加しにくい雰囲気がある	117	167	244	70	104
5	特定の人に業務が集中している	130	227	170	36	136
6	活動の運営が役員任せになっている	163	296	114	15	116
7	活動への参加が自主性にかけている(動員型)	125	250	172	23	130
8	活動が参加しにくい時間帯に行われている	55	124	336	68	112
9	運営の実態が理解しにくい	96	162	279	57	102
10	活動の情報が住民にいきわたっていない	73	179	292	78	76
11	活動がマンネリ化している	127	219	188	29	125
12	その他	27	2	0	0	0

①そう思うでは、「高齢者世帯が増えている」、「子どもが減っている」という問題点が最も多い。②ややそう思うでは、「活動の運営が役員任せになっている」「活動への参加が自主性にかけている(動員型)」「特定の人に業務が集中している」「活動がマンネリ化している」が最も多い。③あまりそう思わないでは、「活動が参加しにくい時間帯に行われている」「活動の情報が住民にいきわたっていない」「運営の実態が理解しにくい」が最も多い。④全く思わないでは全体的に二桁以下となっている。⑤分からないでは、「未加入世帯が増えている」という問題点が最も多い。

【その他の記述】

- ・ 一度も総会議案の説明も受けていませんし、参加もしていませんのでわかりません
- ・ 移住者の方は必要がないと思っている
- ・ 行政区単位での参加が必要であり、参加必須の雰囲気がある。
- ・ 自治会費から飲食費を出すこと
- ・ 別荘地であるため町内会活動に関心が少ない。
- ・ 先に述べたが、自治会の仕事(行事)が多すぎる一度整理してみるべきである)
- ・ 団体活動を強制化している
- ・ 役員や活動に参加しても「いつもどおりで」「昨年と同じで」が多い、全てにおいて丁寧な説明が足りないので新参加者がなじみにくい。
- ・ 活動内容が女性差別的等人権的な面で問題がある。
- ・ 区長が強制的であり草刈、水路掃除等は糸島市へ相談して決めるべきである。(70才以上が大多数の為)
- ・ スポーツ大会後の飲食会に女性の手伝いは負担。簡単にすべき。
- ・ 土日に行われても仕事で参加できない 土、日曜日が休みとは限らない人がいる
- ・ 行事に参加できない時は物で還元してほしい。
- ・ 加入者が力を合わせて美化運動等行っているのに未加入者は何も参加しないこと。
- ・ 役員が多すぎる。(少人数の町内会である)
- ・ 市の代行機関化しているように思う。
- ・ 町内の高齢化/90%以上
- ・ 自治会・町内会活動は長男夫婦が活動しているので詳しいことはわからない。
- ・ 若い人の意見をどんどん取り入れてほしい。
- ・ 校区の掃除くらいしか行事は分からない。日中は勤めに出ているため
- ・ 役員の運営がいつも同じところを回っていて活性化がない
- ・ 役員の質により自治会の活動が左右される
- ・ 今は仕事をしている人が殆どだが、転職によっては休みがシフト性で定期に休みが定まっていないため、活動に参加できない時もあるがそんな中でも大役を任せられ、家庭、仕事、行事を行っていき、精神的にも負担が大きい。
- ・ 私は年を取り足も悪く、なんのお役に立ちません。

問 12 実際に加入につなげるためには、どのようなきっかけや手法・仕組みが必要ですか（あてはまるものすべて）



実際に加入につなげるための手法・仕組みでは、「未加入者も含めた気軽に参加できるイベント」と「隣近所からのお誘い・声かけ」が 40%で最も多く、次いで「活動内容が分かる情報発信」が 37%、「対象範囲を明確化した上での役員免除や負担金の軽減対策」が 35%と多い。

【その他の記述】

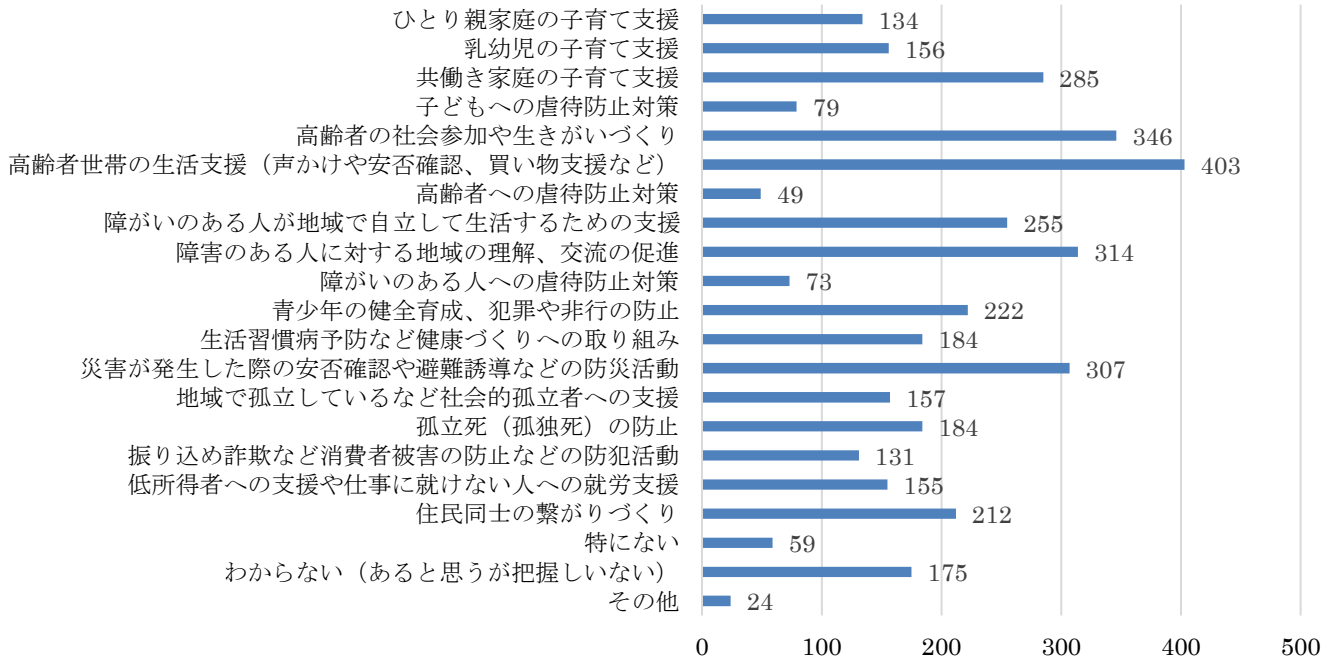
- ・ 役員負担の軽減 学校、子ども会、地域役員と役員ばかり多すぎる
- ・ 学生も参加できる楽しい行事の試み
- ・ お金を払う
- ・ 公営住宅には全員参加 自治会加入 全員加入
- ・ 転入の際、市民課からの説明もしたらどうか
- ・ 市の方からも積極的な呼びかけやペナルティも含めた啓発活動
- ・ 参加できない時のことへの理解
- ・ 日常生活の中での人間としての信頼関係を作りいれてやっているというようなことでなく、むしろ未加入者が入りたいというような自治会にすることが大切だと思います
- ・ 負担金はやむを得ないが役務を代償により免除してほしい
- ・ チラシを配り、まずは知ってもらう
- ・ 自治会費が高い。一部の人にしか還元されていない。
- ・ クラブ活動などに加入してないと他人のようになる
- ・ メリット、デメリットの明確化、「加入すればよいことがある!」と発信
- ・ 古い伝統を守る事と新しい文化の交流が望まれる。
- ・ インターネットを使った情報発信

その他の記述（続き）

- ・ 脱退した人は共同参加に全く関心がない。
- ・ 入るのが当たり前という意識にすればよい。隣近所からの声かけは、実際に声かけがしにくい気がする。未加入も含めた気軽に参加できるイベントは、参加しない人は参加しないと思う。
- ・ 自治会加入の必要性を理解させる
- ・ 加入者のみに限定しては入会のタイミングを失う。こちらからの情報発信は常にすべき。興味を持たせる事が出来ていないと考える事も必要。
- ・ 年をとっても出て手伝いたいという方もいらっしゃるので、はっきり決めず、班とか話し合いを持つ事。
- ・ 市政日より等郵送されるものは年3～4回に分けて郵送されたら良いと思う。
- ・ 新住民と旧住民の考え方(生活)の違いは大きい。無理です。
- ・ 自主性。積極的に参加する。内容充実。
- ・ 役員の負担軽減→行事の縮小
- ・ カラオケ会、親睦会、茶話会等の楽しい活動を活発化する必要を感じます。
- ・ 未加入も含めた気軽に参加できるイベントも含め、地域の行事に参加することの負担感を上回る楽しさや繋がりの良さを実感してもらうことにより加入したいと思ってもらえるのでは。
- ・ 市がもっと積極的に!!入らなくて良いとは言わない!!
- ・ 自治会には無条件で加入するものだと思う。
- ・ 義務教育期での自治会の重要性を説く教育プログラム
- ・ 役員免除は高齢者には必要。負担金は、そもそもそんなに高額ではいけない。入会しにくいと思う。月々の会費より入会金の軽減は必要です。
- ・ 転入時、市からの周知と自治会が負担している業務への理解をしてもらう
- ・ 地域を自らの宝とし愛郷心のさらなる高まりを願う。
- ・ 市役所からの指導をもっとやって下さい。自治会加入の条例などが必要。
- ・ 強制はなしにする、無理は不要
- ・ 今の時代に合った情報の発信とイベント事業のプランと実行
- ・ 集金された会費等の使い道が知りたい。糸島市内で引越したが、会費の金額に大きな差があり、支払うのに抵抗があった。
- ・ 持家でない、アパート、マンションなど未加入が多くて、あの人が入っていないのだから我が家もという所が多い。
- ・ 自治会に加入していない人がいない(全員加入している)
- ・ 特に希望がなければ加入する必要はないと思う
- ・ 自治規約、年間行事、区費等を、はっきり詳細に資料を準備し説明する

問 13 あなたの身近な地域には、どのような課題があると思いますか
(あてはまるものすべて)

身近な地域の課題



身近な地域の課題では、「高齢者世帯の生活支援」が51%で最も多く、次いで「高齢者の社会参加や生きがいづくり」が44%、「障がいのある人に対する地域の理解、交流の促進」が40%、「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が39%の順に多い。

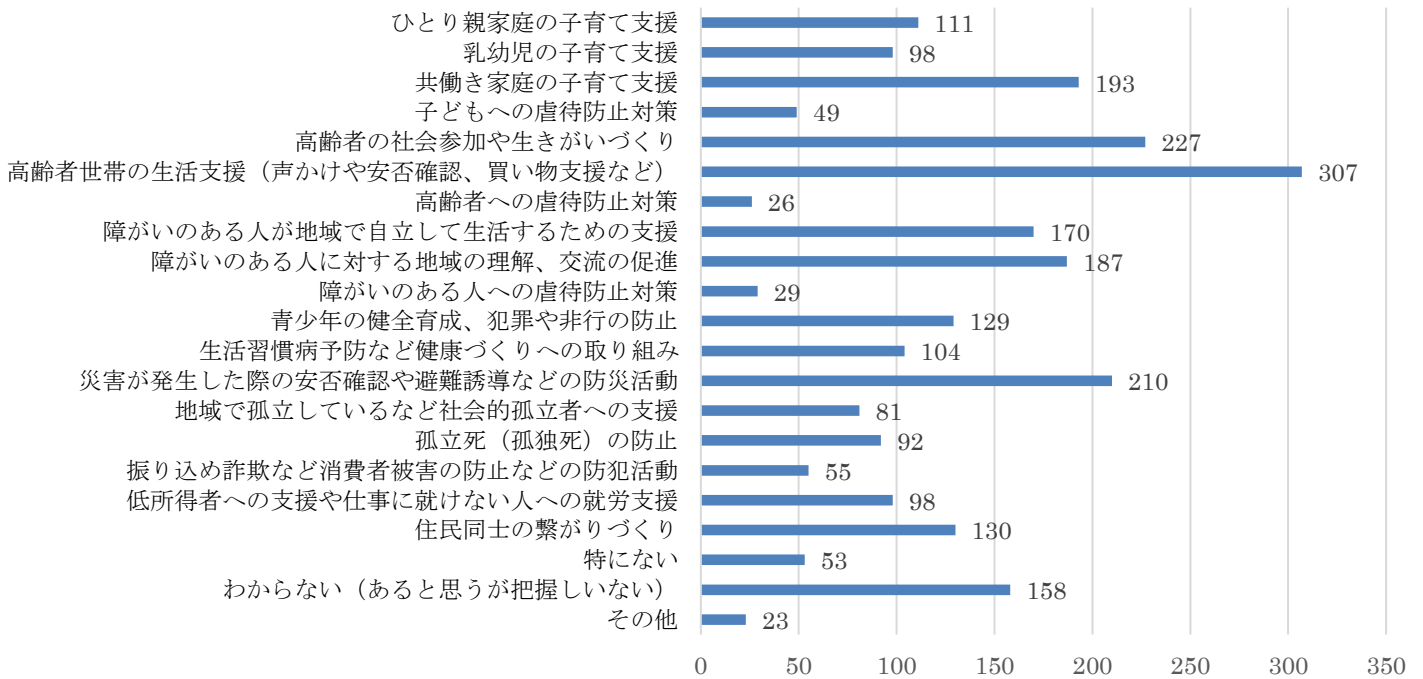
【その他の記述】

- ・ マンションに夫婦のみで地域とのつながりが少ないので実際には分からないが必要と思う
- ・ お互いのあいさつ、年配者に特に無視が多い
- ・ どの項目も課題があると考えなければならないと思っています
- ・ 交通インフラの整備が出来ていない、街灯が少ない
- ・ 交通の便が悪く、バス(くるりんバス)など足の悪い方、年寄は乗降しにくいそうです。
- ・ 近所に少し変わった方がいる。近所の子供たちが遊んでいると暴言を吐いてくるので怖くて子どもたちを外で遊ばせられない。市役所、警察へも一応相談はしているが、特に何かまだされたわけではないので、何も動きはない。
- ・ 外国人生活者の実態がわからない。自転車の並び運転およびスピード運転があり危険。無灯もあり。誰が指導しているのかわからない。
- ・ 産業振興、就労先の拡大、過疎化
- ・ シルバー人材センターの30分以内軽作業300円は助かっています。(その他)仕事では頼んで失敗したともありました。
- ・ 高齢者世帯が増えているので、みんなが声かけし合える街
- ・ 通学路の安全性を高める(子ども及びドライバーのマナーの向上、街灯の充実、防犯カメラ)
- ・ 個人情報保護条例があるのでわからない
- ・ 新住民と旧住人との交流
- ・ 転入者の為の住居情報、支援、住居(家マンション)などが無い
- ・ 自転車等のマナーが悪い。自己中心運転が多い。特に自転車は無灯火運転、自動車は左、右折の指示器が遅く事故につながりやすいかもしれない。歩道のカーブミラーを見やすくしてほしい。
- ・ 私はホームに居ますので良いが一人ぐらしの人は大変
- ・ 結婚していない人が多い

問 14 あなたの地域で優先的に解決しなければならない課題

(優先度の高いもの3つに○)

解決課題の優先度



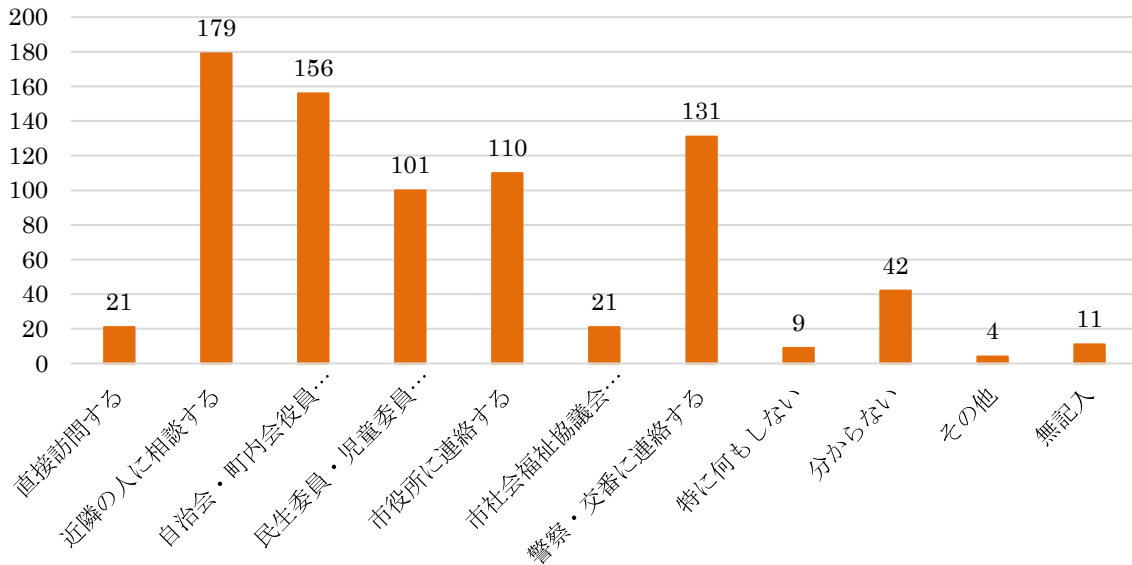
優先的に解決しなければならない課題では、「高齢者世帯の生活支援」が40%と最も多く、次いで「高齢者の社会参加や生きがいづくり」が29%、「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が27%、「共働き家庭の子育て支援」が25%の順となった。

【その他の記述】

- ・ 小中学校から福祉や健康についての教育、地域活動についての教育が必要、現役世代は仕事や家事で地域活動までは負担が大きい。共働き世帯が多く、人的余裕が家庭にない
- ・ 優先順位をつけるだけの地域に対する理解も力も今の私にはありません。ただ、今私が一番恐ろしいと思うのは、原子力発電の容認や再稼働です。いかに地域福祉や地域共生社会の取り組みをしてもすべて無になるからです
- ・ 交通インフラ整備、街灯の設置・安全に歩行者が通行できるようにしてほしい
- ・ ペットの野生化、このごろ野良猫やペットの犬の放し飼いが増えている
- ・ 口を出せない。悪口を言われる。
- ・ 美咲が丘駅の階段をエスカレーターに。お年寄り、けがをした人などとても困っている。
- ・ 保育園と産婦人科の増設
- ・ 地区の行事等で一齐に留守になる。空き巣などの防犯対策(パトロール等)車の運転が乱暴な人が多い。
- ・ 街灯が少なく防犯観点に欠ける。特に、消防署前の道路(ココは中学校の通学路)。平成建設の前の道路
- ・ 過疎化対策。高齢化・人口減。結婚していない人が多い
- ・ 子育て世代への対応、子どもの数(割合)の維持、向上
- ・ 健康でもなく障がい者として認められない病弱な人のための雇用に充実してほしい
- ・ 高齢者が多く組合の戸数があっても色々の行事・出ごとに出席できない人が多く、組長する方も同じ人ばかりになっているので困っています

問 15 もしあなたの周辺で孤独死や虐待（児童、高齢者、障がいがある人）などおこる恐れがある状況を知ったら最初に対処しますか

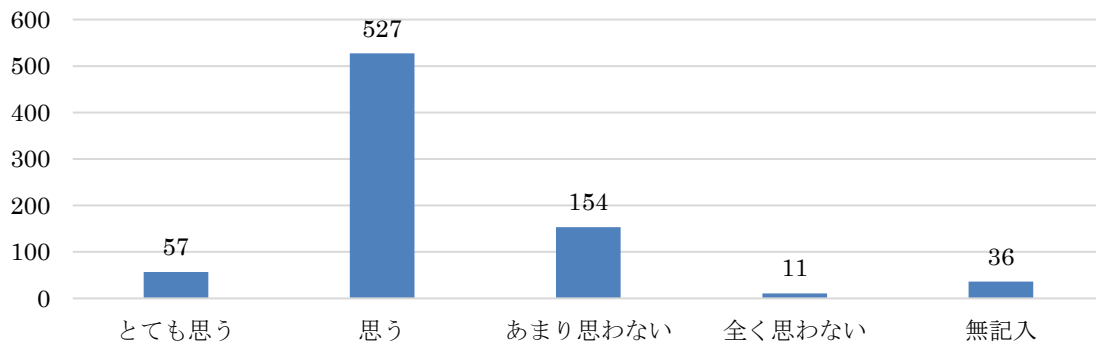
初期対応



最初にする対応では、「近隣の人に相談する」が最も多く、次いで「自治会町内会役員」、「警察・交番」に連絡するが多い。
 その他では、「何も行動に起こすことができない」、「ネットで調べて関係するところへ匿名で知らせる」などがあつた。

問 16 地域で困りごとを抱えている人や世帯に対し、何か自分に出来ることがあれば支援をしたいと思いませんか

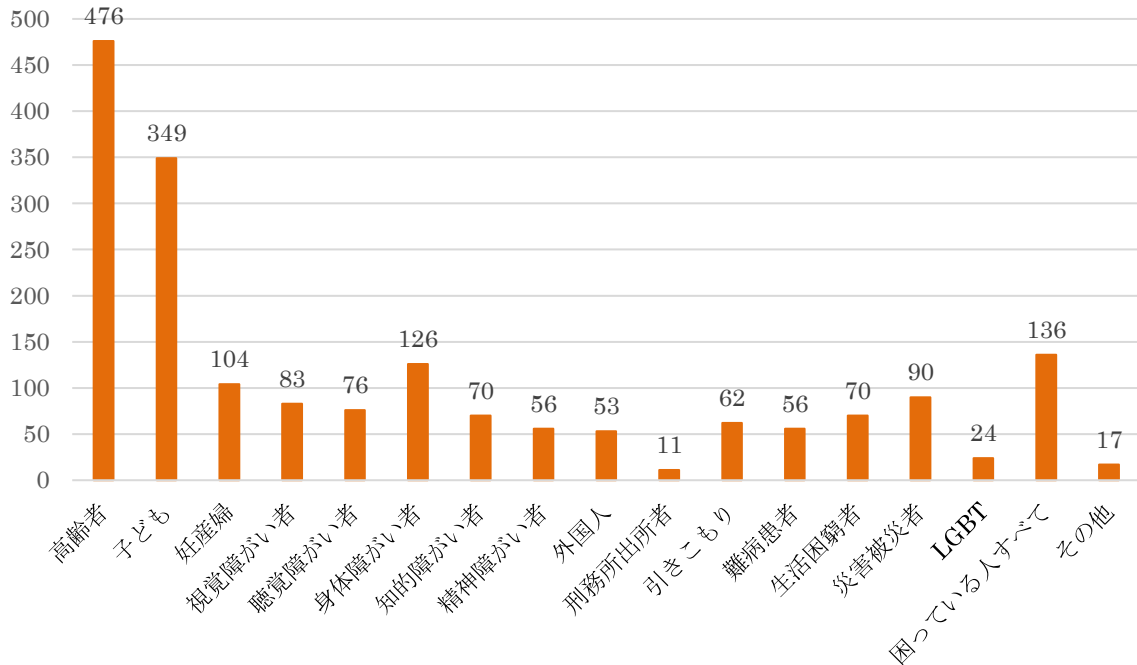
支援への気持ち



何か自分に出来る事があれば支援をしたいと思いませんかでは、「思う」が最も多く、「とても思う」と「思う」が全体の74%で、「あまり思わない」は20%となった。

問 17 どのような方の支援に関心がありますか（あてはまるものすべて）

関心ある支援対象



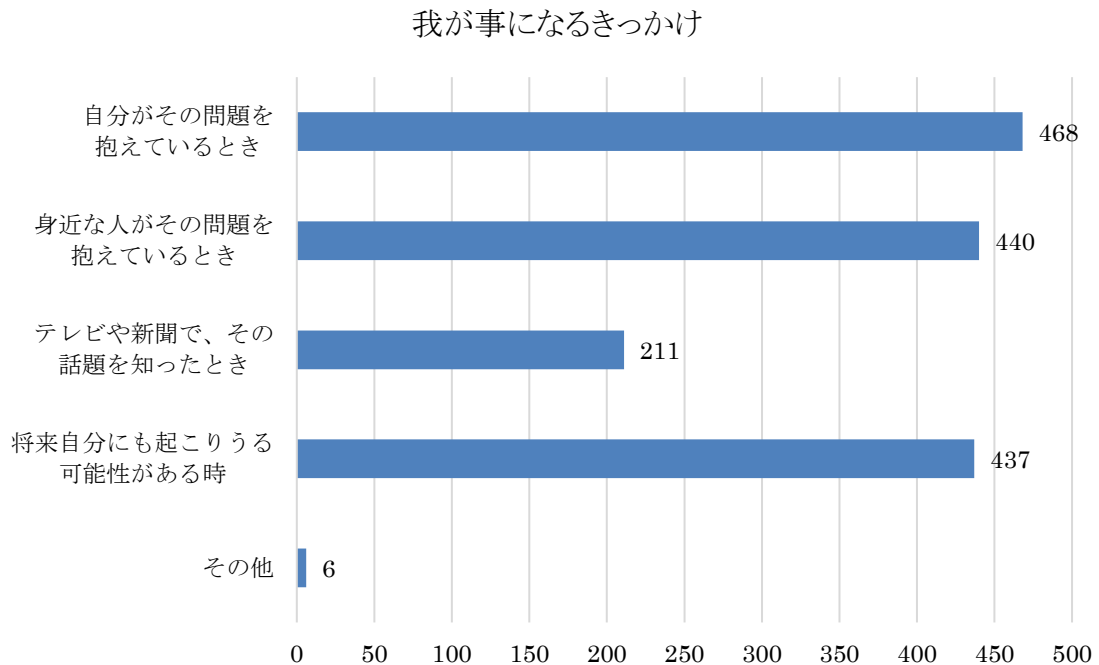
どのような方の支援に関心があるかでは、「高齢者」が 61%と最も多く、「子ども」が 44%で関心が高い。

次いで、「困っている人すべて」が 17%、「身体障がい者」が 16%、「妊産婦」が 13%となった。

【その他の記述】

- ・ 差別がある日本ですね。すべて人間、すべて個性なのに
- ・ 私自身が高齢だから
- ・ 支援したい気持ちは有るが我が多忙でできない
- ・ 年齢的に他を支援できない
- ・ 関心がない
- ・ 自分で解決すべき
- ・ 求められた時に考える
- ・ 自分が人の世話にならないように
- ・ よくわからない。具体的には
- ・ 自分に出来る事が何かわからないが、自分に出来る事は関心あります。

問 18 「地域で困っている人や世帯の問題」を「我が事＝自分のこと」として、とらえるのはどんな時ですか（あてはまるものすべて）

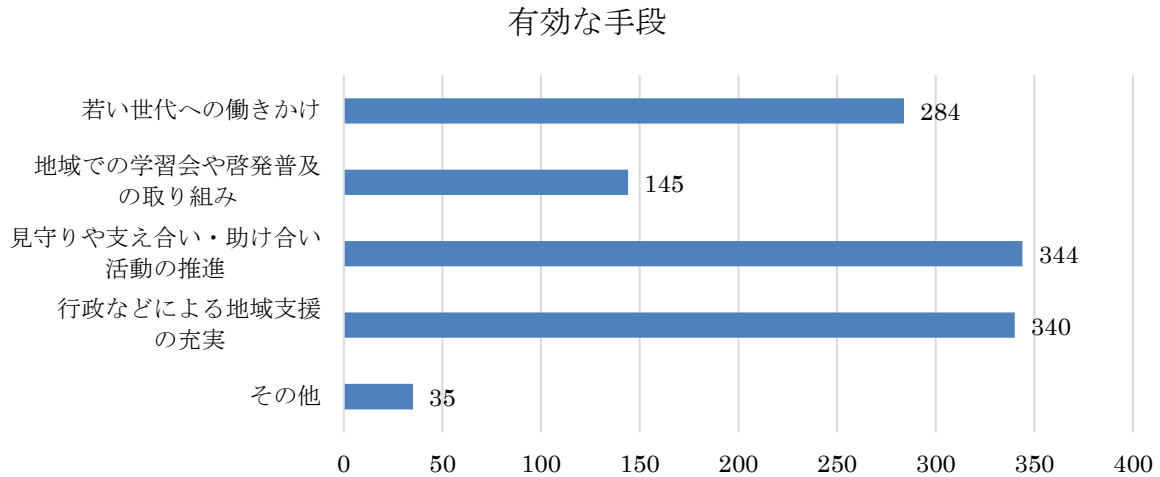


「我が事＝自分のこと」として、とらえるのはどんな時ですかでは、「自分（家族や親族も含む）が、その問題を抱えているとき」、「身近な人（友人や知人）が、その問題を抱えているとき」、「将来自分にも起こりうる可能性があるとき」の3つが回答者数の55%を超えている。

【その他の記述】

- ・ 高齢化社会のなか、地域の出ごが多いと思う。特に若者世代や子育て世代は、仕事・育児で忙しい中、地域の出ごとで休みを取ったりして、家族との時間が減っている
- ・ 毎日（聖書をよむ時に感じる）が黄金律
- ・ 困った時はご近所に助けてもらっている。
- ・ 人間として当然

問 19 地域の活動において、「役員任せ」になりがちな現状に対して、地域住民が「我が事＝自分のこと」として主体的に取り組んでもらえるための有効な手段は何だと思えますか（あてはまるものすべて）



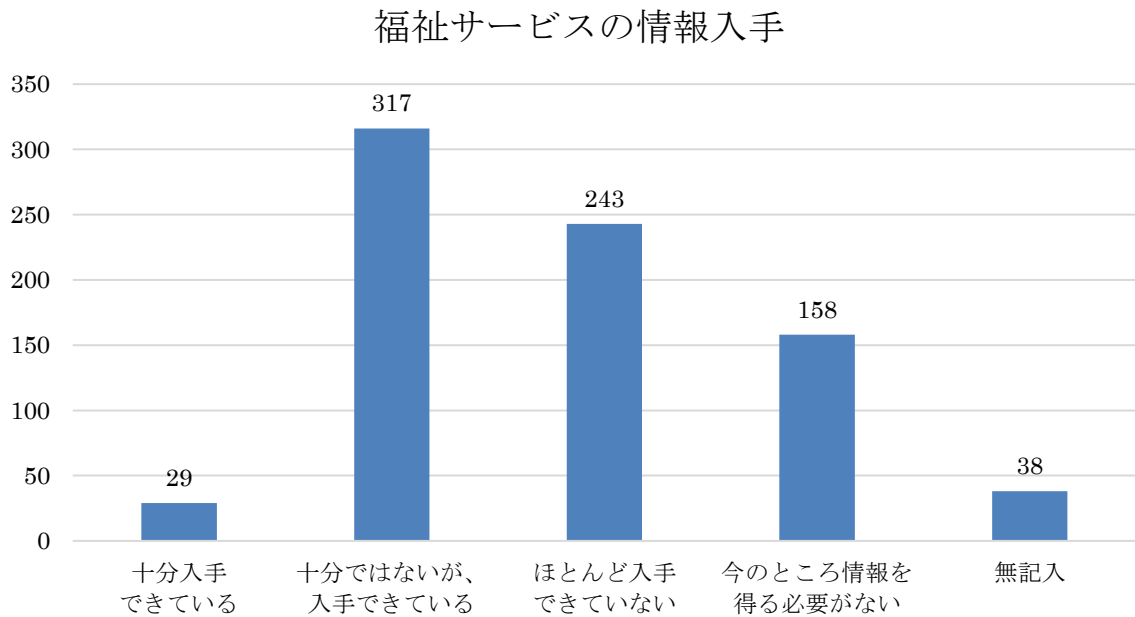
有効な手段では、「見守りや支え合い・助け合い活動の推進」、「行政などによる地域支援の充実」が回答者数の44%と最も多く、次いで「若い世代への働きかけ（学校での福祉教育など）」が36%と多い。

【その他の記述】

- ・ 役員に対する負担の重さ 役割を減らすことで参加しやすい状況を作る
- ・ 参加活動者への減税などのメリット。ボランティア的なことでは進まない何かしらの活動への意欲を促すメリットがあれば
- ・ 全員加入、必ず運営費の負担を住民にさせる
- ・ 何パーセントとかの手当が有ったらいいと思います
- ・ 皆で話し合い、決める(役員を決めない)
- ・ 有資格者についてのダメ出しが多すぎる。もっと有効に使われたいと思う。
- ・ 日々の人間関係づくり(互いに認めあう)
- ・ 自分の意識の持ち方の改善、各々の意識次第
- ・ 個人情報と関連するので我が事として手を出す、口を出すのは難しい。役員任せは仕方ない。
- ・ 負担をかけないよう配慮が必要。子育て、共働き世帯は働き育てるのに精一杯です。
- ・ 子どもの頃から地域の行事に積極的に参加することで大人になってからも参加することが自然になるのでは
- ・ 糸島で永住できる環境づくり、仕事の確保等
- ・ 生活することで気持ちにも金銭的にも余裕がない
- ・ 自分の困り事は、自分で解決すべきと云う地域の体質、意識改革が必要。
- ・ 楽しみやメリットがある事を伝える
- ・ 輪番制～例外有・役員をさせる事が一番理解できる
- ・ 年間行事の流れを分かりやすい手引きなどにしてほしい。
- ・ まずは、アンケートから発信する
- ・ 役員をするメリットを増やす。例えば行政から報酬として特産品を任期の終わりにプレゼント…とか。(あまり豪華だと×)
- ・ 行事を減らす。役員以外の人へも仕事を分担させる。
- ・ 国の有り方自体に問題があるため、このスペースだけでは書ききれない。

設問3 情報共有の仕組みについて

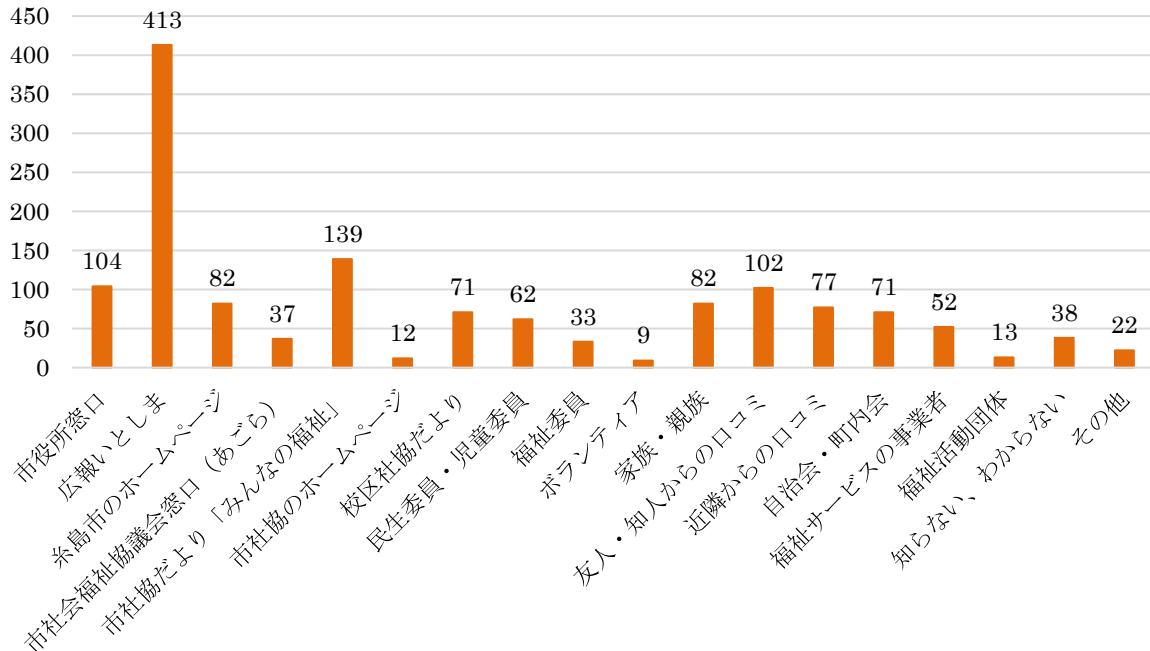
問20 あなたは、自分に必要な「福祉サービス」の情報をどの程度入手できているとお考えですか



「福祉サービス」の情報をどの程度入手できているかでは、44%の方が「十分ではないが入手できている」、「十分に入手できている」と回答され、31%が「ほとんど入手できていない」と回答され、「今のところ情報を得る必要がない」では20%の回答でした。

問 20-1 糸島市の福祉についての情報は主にどこから入手しますか
(問 20 で①②③を回答した方は、あてはまるもの 3 つまで)

福祉についての情報

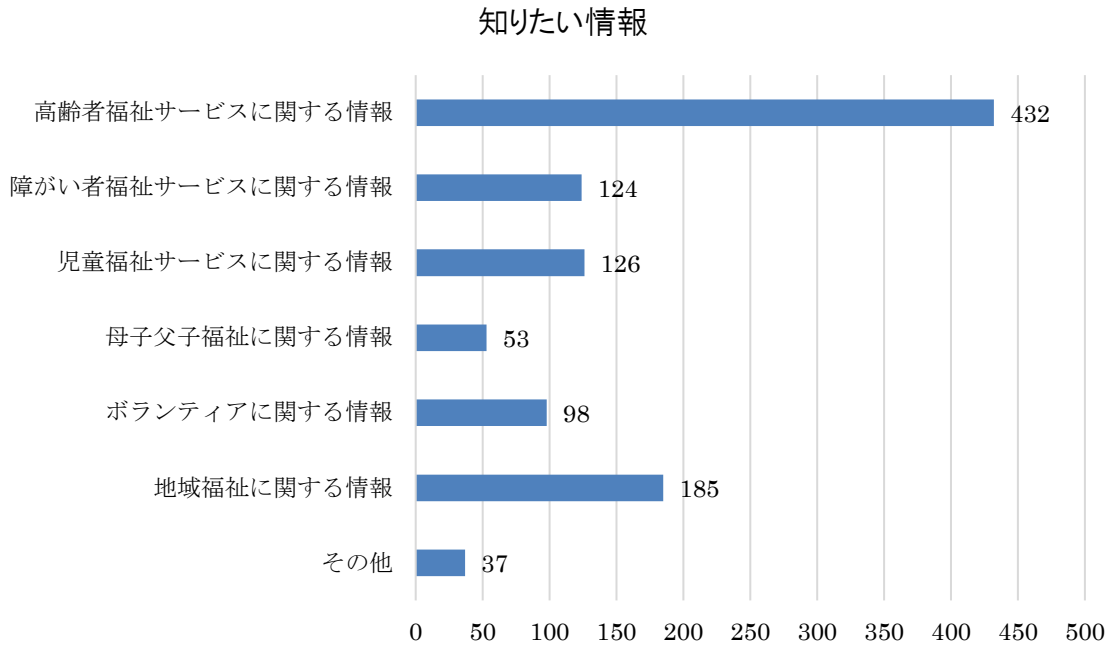


糸島市の福祉についての情報入手先としては、「広報いとしま」が最も多かった。(問 20 で①②③を回答した方は 589 名で、その 70%の方が「広報いとしま」と回答された) 次いで、24%の市社協だより「みんなのふくし」となった。

【その他の記述】

- ・ ケアマネージャー・地域包括センター
- ・ 公民館便りが、ある時点から配布されません。糸島市、地域振興課(?)公民館、行政区長にも伝えましたが解決していません。
- ・ シニアクラブ・伊都タウン・母子会
- ・ 広報いとしまは、とてもよいと思っています。ただ視覚障害の為読みづらく、ほとんど読んでいません。
- ・ 郵便で届く冊子?
- ・ インターネット・回覧板
- ・ 行政や社協は、夜に相談できない。急に相談事が起こった時は、やはり組長(町内、自治会)さんが聞きやすい。組長さんに情報の電話番号表を配布して、おしえてもらえるとありがたい。
- ・ ニュースや新聞で福岡市の情報が入り、糸島市も同じだから(だと思っている)情報を知りえる
- ・ 子どもの健診時や母親が入院した時に病院で収集
- ・ 福祉の仕組み等、大卒は厚生労働省の HP もしくは、解説している HP。糸島市の HP の情報は薄くてあまり参考にならない。
- ・ 月 1 回の「みんなの広場」に出席参加
- ・ 市役所から書面が届いて問い合わせ連絡をして初めてわかります。
- ・ 糸島市の福祉は分からない

問 21 糸島市の福祉において、知りたい情報はなんですか（複数回答）

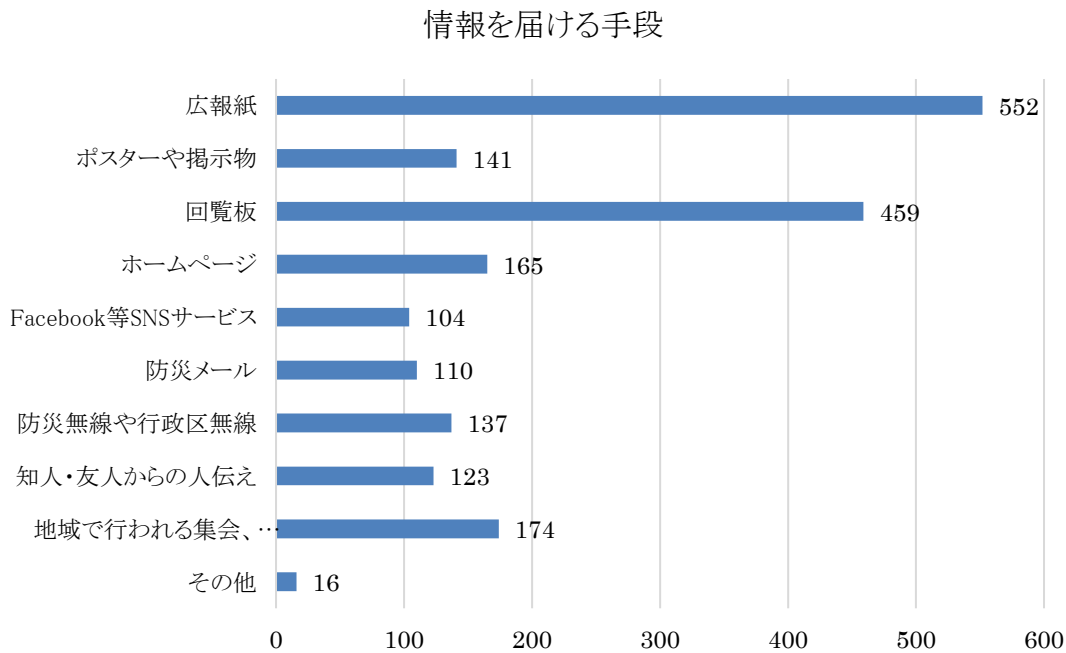


知りたい情報では、「高齢者福祉サービスに関する情報」が最も多く、次いで「地域福祉に関する情報」となった。

【その他の記述】

- ・ 現在ボランティア活動中
- ・ 特になし。ネットで見ると必要な時に調べる
- ・ 生活保護を受けている方の認定条件、現在の人数給付の高い等の情報
- ・ 食の安全、安心に関する情報(例、無農薬野菜販売供給先等)
- ・ 交通手段の情報が不足。バスはあるけど、利用が難しい。
- ・ 情報を必要とする時がきたら活用できる物は知りたい
- ・ 医療関連
- ・ 包括支援センター・就労支援
- ・ 市の便りで知ることができています。
- ・ 福祉に携わる支援員の方の(現場で働く人)のサポートなども大事です。大変な仕事ですし、その人たちのこと等も考える事によって福祉施設が充実して運営できると思います。

問 22 情報を届ける手段として、有効だと思うものは何ですか（複数回答）



情報を届ける手段として有効だと思うものでは、「広報紙」が最も多く、次いで「回覧板」が多い。

【その他の記述】

- ・ 対象世帯を絞ったチラシ
- ・ 防災無線を各世帯に設置すれば有効だと思う。高齢者は、ホームページ、メールなど縁が薄い。
- ・ Eメール
- ・ 行政区無線(個人宅に必要だと思う)
- ・ TVのCM、ポスティング
- ・ 安易に16才以下の子供に携帯をもたせてはならない。
- ・ 放送があっても聞き取りにくいので考えてほしい。無線は分かりやすくゆっくりとしゃべってほしい
- ・ マスコミ[テレビ、ラジオ]の活用。北九州市は上手です。
- ・ 糸島インフォ、いとごんだよりとかメールで気軽に知れるDMを作り、月1～週1で配信する…はどうでしょう？
- ・ 校区公民館だより・近所

問 23 すべての人々に情報を届けるための具体的なアイデア（自由記述）

- ・ 全世帯への防災無線の設置
- ・ 市役所の窓口で、もう少し丁寧な説明が必要だと思います。”知らない”ことは聞きようがありません。人から聞いて初めて知るサービスが多くあります。もう少しわかりやすいパンフレットがあればいいのに、と常々思っています。「福祉のしおり」も良くできていますが、もう少し「高齢者向け」「知的障がい向け」「身体障がい向け」と分野を分けた資料(イラストや図を入れ視覚的にわかりやすいもの)があっても良いのではないのでしょうか。
- ・ 回覧板ははやく回す。回覧板であれば確実に見るのでよいと思う
- ・ 高齢者については自宅訪問で個別に伝えていくしかない。すべての人々ではなく必要な人に必要な情報でよいか。高齢者、子育て、障がい者、各々、求めていることが違う。必要以外のことは不要で邪魔でしかない。子どものいない家庭に子育てどうこうとか言われるのは、はっきり言ってつらい。必要なことから、関心が持てるように興味を引くような情報にするべき
- ・ 高齢になるとインターネット情報はほとんど利用できないと思う。目で活字を追うと印象に残りやすい。広報紙でひと工夫して、バインダーなどに保存できればなおいい。問 22⑦は期待できない
- ・ マイナンバーとメールアドレスを連携させる。一斉メールで各個人に伝える
- ・ 他の県や市のアイデアも取り入れ今、考えられる方法で最善を尽くすことだと思います
- ・ 糸島市のホームページは、必要な情報を検索しにくい。AI(人工知能)までとは言わないが、知りたい情報を分かりやすいものが、システムのプロに頼むのではなく、ユーザー視点で使いやすい、知ることが容易にできるホームページが必要
- ・ 娘が嫁いでいる鹿児島県出水市西出水町には各戸に無線が設置されていて、連絡(市や行政区などの情報)や子供会、老人会などの各方面の情報を流すことができる。高齢者は、ホームページ、メール、ポスター掲示板(町内に掲示板などない!)もっと住民目線で物事を考えるべきだ。行政の為ではなく、住民の為になる市政をください。
- ・ 防災無線や行政区無線は、いつも聞き取りが難しい。話し方もしっかり練習してわかりやすくはっきりと伝えてほしい。何を言っているのかわからない。(マンション間の反響や天候が悪い時などは特に注意して、ゆっくりと言葉をはっきりと発音すること)また、無線の設置位置が適正かどうかサイト確認してほしい
- ・ テレビで市の広報番組を作る。又は、地域情報発信番組に積極的に参加する
- ・ 広報紙は各家庭配布が望ましい
- ・ 町内会、集会、学習会、イベント等小さな活動の中でも糸島市の支援の在り方を啓発する必要があると思う。役員のための活動になっている。情報がなく苦しんでいる人も多いように思う。窓口をもっと周知させること。そのためにコミュニケーションの場を広げること
- ・ 質問の回答にはなりませんが、安住の地を求めてきた糸島市はあまりにも福岡市に比べ高齢者に対する優遇制が悪いのではと痛感しています。少子化の影響ということで子育て重視で老人は置いてきぼりの感あり、福岡市のように交通費などの手当があれば(現在はとても少なく何の足しにもならないと聞きます)自分の足でバス、電車に交通費の心配なく都心部へ行き活力が養えます。そうすることにより家に引きこもることなく病氣も少なくなり医療費の軽減にも、不便なうえ(曾根)交通費が高く自家用車でないと外出もできません。実際ここ数か月の間に二人、年を取ったら住めない町ということで狭くても市内のマンションにと引越されました。もっと高齢者の住みやすい町づくりを考えて頂きたいです。税収の違いと言われればそれまでですが、年をとっても糸島に安心して住めるんだという環境を作って行けば若い人も集まるのでは…運転してくれる人がいなくなるとどうなるのかお先真っ暗に思っています
- ・ ネットは素晴らしいツールですが、高齢者にはやはり難しいです。ヤクルトさんのような優しい声かけ運動をシルバー人材の方とかボランティアとかの方々に口添えしていくほうが地道ですが確実だと思います
- ・ 糸島市のホームページは分かりにくいので、もう少し改善してほしいです。情報量も少ないし、遅い
- ・ 今(現在)毎月 2 回の広報いとしま、市社協便り「みんなのふくし」等全部読んでるので幅広い情報が欲しいと思います
- ・ 地域の防災無線の音声聞き取りづら、反響してしまう非常時の情報だと、認識できないのでは
- ・ とにかく、町内回覧と関係団体からの適宜、積極的な広報があればよいと思う
- ・ ネットワークを使用した E メールにしていれば、PC 操作は毎日のようにしますので新しい情報を入手できます。重要項目についてはプリンターにて印刷してキープしておきます
- ・ チラシはよく見ます。特に、家にいる高齢者の方はポストに入っているチラシさえも隅から隅まで見ます。家にいて時間があふれ過ぎからです。そして、戻ってきた家族に教えてくれたりします。家族も情報を得、何かのきっかけをつかみます。出かけられない人の為にまずはポスティングをお願いします。又、ネットは高齢者、忙しい人間には無理です
- ・ 個人情報の管理がきちんとしているなら自治体担当者からのチェーンメールも有効かと思えます。携帯を持っていない方もいるので、課題もありますが
- ・ 10代 20代等、フェーズ(側面)に分けてアプローチする→各世代が交流する場をつくる。

情報を届けるためのアイデア（続き）

- ・ 一定の年齢になったら世代に合わせた内容の資料を送付する。例) 20代→ボランティア、子育て支援、就職に関する資料。30代→介護福祉、健康、子育て支援に関する資料。50代→人材派遣、ボランティアに関する資料。※市役所の封筒のイメージは”堅苦しい言葉、解りづらい、事務的”なので、中に何かの資料が入っているのかわかりやすく、見やすい(明るい)色の封筒が開けてもらいやすいと思います。「緑色に黒→見えづらい、赤に黒→督促状や税金のイメージで開けたくない。黄みがかかった色の封筒→お知らせ」など昔からのイメージを強く感じます。
- ・ 行政区に入っていなくても広報紙を各家庭に配ってほしい。
- ・ 回覧等のアナログの手法が確実だと思います。防災無線は、当地域においては反響がひどく内容が全く聞き取れません。改善を望みます
- ・ 一人暮らしや、1人で行動できない人への地域ぐるみの関心を高め、自治会や民生委員の活動に協力する体制を強めること、行政の手だてを充実すること。民生委員の活動に対する住民の意識の高揚を図る。
- ・ 老人会の誘いもないし実態も知らない状態。敬老会の参加の有無さえ最初から来るか、来ないかの連絡だけ、地域の行事は子ども、若い人向けの行事になっているのでは(主に)
- ・ 回覧板は、安否確認にはなっているが、1、2枚を回すことは無駄になっていると思う。相談支援体制、地域福祉団体について具体的に(わかりやすい)本にしてもらいたい。活用したいから。ホームページでも見たい。義務教育の中で教えておいた方が速い(相談支援体制、地域福祉団体について)
- ・ 定期的に読む内容が(文字が)少ないお知らせを発行し回覧板にはさみ1枚ずつ取ってもらう。バックナンバーも請求できるシステム作り。若い方へは、Facebook 友達の追加を依頼し、定期的に発信。
- ・ 福祉に対する意識高揚が必要…社会教育の充実啓発が必要
- ・ ホームページ,SNS は、本当に高齢者にとって使いやすいものとは思っていません。発信するために必要な技術がある事は仕事の成果としてあらわれやすい。データとしての収集はやりやすいでしょう。しかしながら、本当に高齢者にとって理解できるものでしょうか？英単語にはリストラのように広い解釈があり単純なものでないことを理解してほしいものです。もう一度、初めに原点に戻ってみたいかがでしょうか。拙い意見で申し訳ございません。
- ・ 糸島市広報紙少しでも大切な事を書いてほしい。
- ・ 駅に公知スペース確保 or ビラ配り。高齢者はデジタルより紙媒体で大きい字だと読みやすいと思います。
- ・ 各項目別(高齢者、障がい者、児童福祉)などに関するどういったサービスがあるのかなどを記載した雑誌を作り、各家庭に配布したらいいのでは…今は、ネット社会だが、パソコンが家にあっても使えない高齢の人もいるし、情報の手段が分からないのも現実です。
- ・ 広報紙やポスター等、使えるものは全て使うのがいいかと思います。ホームページや Facebook 等、若い人は利用するだろうけど、年が上の世代にはまだまだ、なじみにくいものだと思うのである程度アナログな電卓手段は残した方が助かります。あと、防災無線ですが、何を言っているのか分からない時がとて多いです。(音が重なってしまうとか「じつらは～」と聞こえた後、その上にまた「こちらは～」が重なってしまうので聞き取れない。風向きのせいかもしれません)すべての人々に情報を～とのことですが、それは無理だと思います。興味のない情報に関してはスルーしてしまう人が多いと思うので。回覧板などならいろいろな家庭に届くだろうけど、見ない人は見ないだろうとも思います。
- ・ 順番性の広報、連絡システムを作っています。かなりスムーズに行っています。区長以下役員さんのご尽力によるものです!!
- ・ 高齢者の寄り合い場所がほしい。買物弱者に手厚いサービス
- ・ 福祉を必要としている人を早く把握して(見つける)関係機関へ紹介できるようにする。
- ・ 各戸配布の広報紙に載せ、市役所に相談窓口があれば十分と考える
- ・ 広報紙に項目ごとに連載する。例えば老人、障害者福祉など
- ・ 広報いとしまに公民館の活動内容を記載する。1年を通して(公民館活用術)の名のもと記載。回覧板もいいかもしれない(新しい校区に対して)
- ・ 防災無線をかねた各戸に設置された無線、ラジオが必要と思う。防災スピーカーは聞きとりにくい。(聞こえない)
- ・ 私は70才以上です。主人が病気になって初めて地域包括支援センターを知りました。その時病院でこういう所があると知り、一人で介護しました。本当に大変でした。おむつの仕方も知らないで何回も夜中に起き、とうとう救急車で運ばれる事となり詳しく細かくおしえてほしいと思う。老健センターに入るにはお金の問題が有り考えます。年金ではとてもやっていけません
- ・ 友人からの連絡、となり近所よりの連絡
- ・ 情報を得ても、どう判断、理解、活用するかという点が難しいケースが多いように思います。身近に支援する方がいないと生活が続かないと思います。
- ・ スマホを使える人にはホームページ、SNSを通して。アナログな方には Fax サービスを通して情報を届ける。

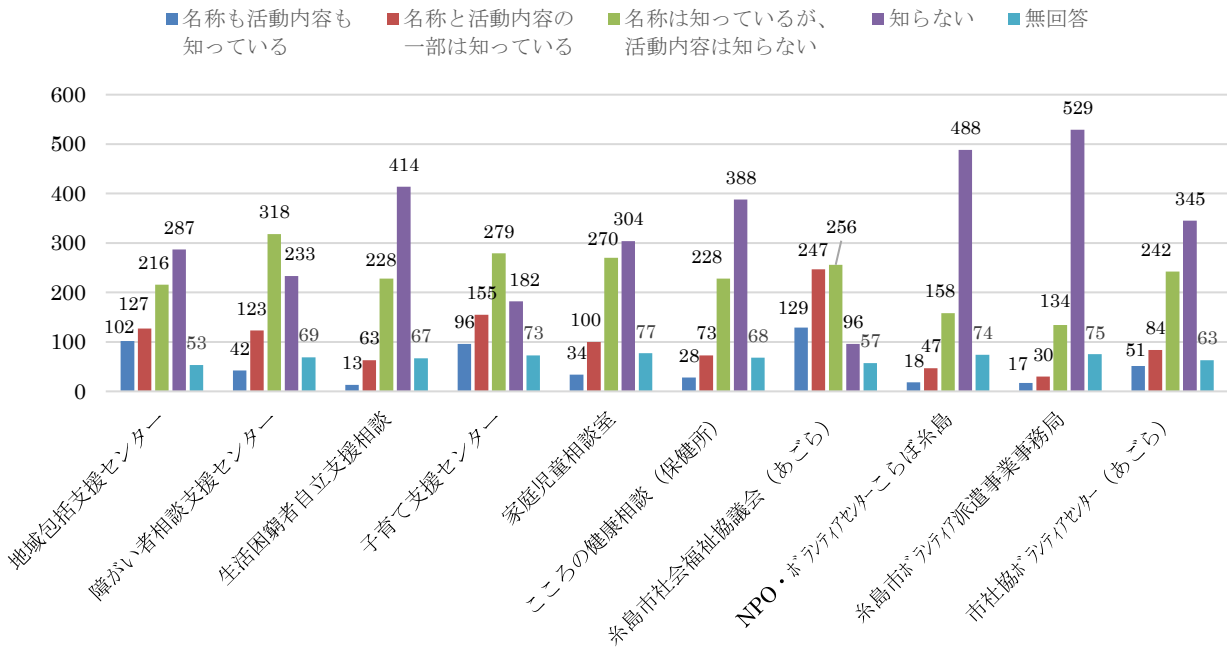
情報を届けるためのアイデア（続き）

- ・ ゴミの出し方のようなポスターで、困った時の相談や支援センターの電話番号を一覧表で見られると良い。有料でも良いから、そのようなポスターがあれば手に入れたい。
- ・ 今の自分が置かれている状況を考えると…。今自分が知りたい！活用したい！と言う事に関しては調べます。どこに聞けばよいのか？人に聞いて分からなかったら…。その時は、まず市役所…という頭があるので、とりあえず今は今のことしか考えられません。その時になったら考えます
- ・ 泥棒が2年9ヵ月入って玄関の鍵をあけて品物や米を取られて警察に何度も来てもらっていますが中々終わりません。家を開けて出かけられません。色んな行事に参加したくても出来ないのがくやしいです
- ・ スーパー等の掲示板や糸島市専用の SNS アプリ(病院、学校)
- ・ インターネットや携帯パソコンなど充分使いこなせない。世代の高齢者に対して何かいい方法はないものかと悩みます。時代にとり残されていくのではないかと不安な気持ちになります。
- ・ SNS または LINE を活用して欲しい。専用タブレットの配布、SNS 発信
- ・ 自治体(町内会)単位でなく、全世帯に無償にて市政だよりを配布すべき。自治体に町内会に加入してないと入らないなんて信じられない。福岡市は充実している町内会費が高すぎ!福岡市は 1 か月 300 円です。1 か月＝800～1000 円とか誰も加入しない。若い世帯は！
- ・ 現在月 2 回「いとしま」糸島市広報が届けられています。さらに、各家庭に回覧板が随時、回報されています。これらは行政区が業務を担っていますので、この行政区を活用すれば、「すべての人々に情報を届けられる」とおもいます。既存の組織を有効活用が肝要かと思えます。
- ・ 現在、自分が働いているので、皆さんと話したり、旅行したりできますが、1 人になった時、やっぱり地域で行われる集会など参加できるようなことがあればいいですね。とても難しい事だと思います。糸島市でもっとあごら等の集会場が近くに欲しいです。
- ・ 高齢者の人はまだまだパソコンなどを持っていないので、今までのように市、社協、校区からの便りや回覧が頼りです。変わらず発信をお願いします。
- ・ SNS の活用・主要な建物(駅、役所、病院、スーパー等)に掲示板(電光掲示板でもよい)を設置する(待ち時間に見られるから)。バス停や駅にポスター掲示
- ・ 引っ越してきて 1 年過ぎてきても校区がどこかわからない
- ・ 商業施設での PR を実施する。テレビ・ラジオでの広報番組の放送
- ・ 「広報いとしま」は、さすがに読んでいる人が多いと思うので、イベント、学習会などのスケジュールや内容の掲載を充実させたいと思う。市、校区の社協よりは既に終わったイベント等の報告だと思っているのでざっとしか見ない
- ・ 私は夫と、今年の 4 月に他県から糸島市の方に転入してきたばかりですので、まだ糸島市のことは詳しくわからないことが多いです。地域の行事、イベント、ボランティアなどには参加したいと思いますが、情報が伝わってきません。糸島市広報誌はよく目を通しますが、イベント事等、もっと声かけをしていただくと、ぜひ参加したいのですが？糸島市の福祉、ボランティア活動等にも情報が伝われば参加させていただきたいです。
- ・ 全ての人々を対象にする場合であれば、設問にあるあらゆる方法を活用する手段が有効だと思います。若者から高齢者では情報を得る手段は違うので 1 つの方法で情報を拡散することは難しいと思います。
- ・ 特定の情報を入手したい時にどの機関の誰に相談(質問)すればよいのかわかりづらい。よくある相談(質問)なら〇〇に聞けば分かる様な一覧表のようなものを HP や広報紙に掲載。すべての人々に届けるというより情報をもっと入手しやすい形を構築した方がよいのでは。
- ・ 自宅に放送が聞こえないため、市から放送用の機械を各家に着けていますが、ここ数年、どこの家にも放送が入らず、市役所に言っていますが、そのまま何も対応されず…災害が起きた時は、どうするんだと皆で話しています。どうか対応をお願いします。
- ・ 高齢者、障がい者の方々に情報が入りにくい場合があると思います。一般の元気な人は、設問にあるものでもほとんど良いと思いますが、そうではない方々には直接伝えるしかないと思います。人の力が必要だと思います。
- ・ 広報紙をもっと読みやすく、見たいと思えるような内容にしてほしい。
- ・ 糸島市広報「いとしま」の内容を充実させる(もっと楽しく、もっと読ませる)には、福祉や社会活動の詳しい情報を載せる。事業やイベントなどを参加したくなるようなプロモーション・デザインで展開し、回覧板と連動した参加促進につなげる。回覧板と各地域の組織役員をフルに活用し情報の周知を高めるとともに参加促進の反応を向上させる。パソコン(SNS など)のメールアドレスを(個人の承諾を取り)市役所に届ける。市役所は必要部門に登録し、必要な情報をタイムリーに個人宛に発信する。
- ・ 情報を届ける手段は、回覧板が有効だと思われる。確実にサインをしまわしていくため、まわしていないもれがない(伝達の)但し、遅い。

設問4 相談支援の体制について

問24 糸島市にある相談支援機関について

相談支援機関の認知度

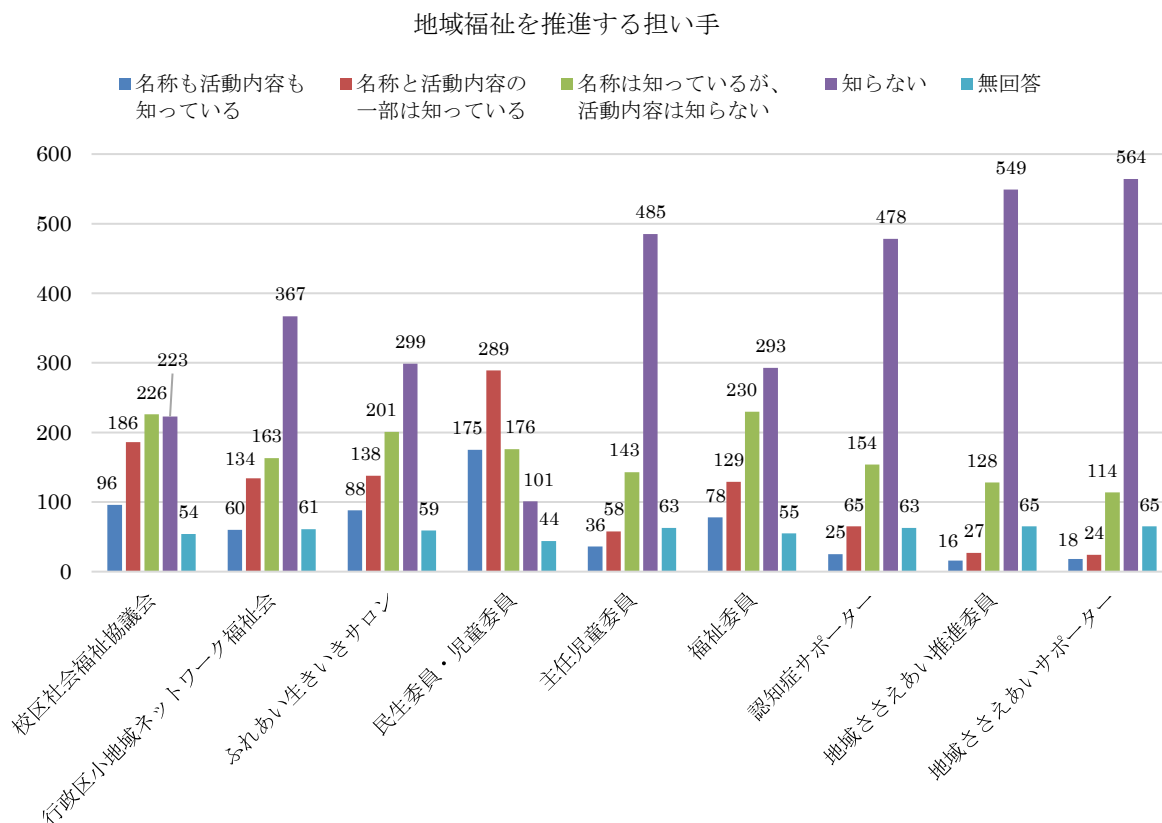


糸島市にある相談支援機関について①～④の中からの回答は以下のとおりとなった。

地域包括支援センター	「知らない」が最も多く、次いで「名称は知っているが、活動内容は知らない」が多い
障がい者相談支援センター	「名称は知っているが、活動内容は知らない」が最も多く、次いで「知らない」が多い
生活困窮者支援センター	「知らない」が最も多く、次いで「名称は知っているが、活動内容は知らない」が多い
子育て支援センター	「名称は知っているが、活動内容は知らない」が最も多く、次いで「知らない」が多い
家庭児童相談室	「知らない」が最も多く、次いで「名称は知っているが、活動内容は知らない」が多い
こころの健康相談（保健所）	「知らない」が最も多く、次いで「名称は知っているが、活動内容は知らない」が多い
糸島市社会福祉協議会（あごら）	「名称と活動内容の一部は知っている」と「名称は知っているが、活動内容は知らない」が多い
NPO・ボランティアセンターらぼ糸島	「知らない」が最も多い
ボランティア派遣事業事務局	「知らない」が最も多い
市社協ボランティアセンター（あごら）	「知らない」が最も多く、次いで「名称は知っているが、活動内容は知らない」が多い

「名称も活動内容も知っている」の回答では『糸島市社会福祉協議会(あごら)』の16%が最も多く、次いで『地域包括支援センター』が13%・『子育て支援センター』が12%となった。

問 25 糸島市にある地域福祉を推進する担い手（団体-人）について



糸島市にある地域福祉を推進する担い手について①～④の中からの回答は以下のとおりとなった

校区社会福祉協議会	「知らない」と「名称は知っているが、活動内容は知らない」が多く、次いで「名称と活動内容の一部は知っている」が多い
行政区小地域ネットワーク福祉会（見守り）	「知らない」が最も多い
ふれあい生きいきサロン	「知らない」が最も多く、次いで「名称は知っているが、活動内容は知らない」が多い
民生委員・児童委員	「名称と活動内容の一部は知っている」が最も多く、「知らない」は少ない
主任児童委員	「知らない」が最も多い
福祉委員	「知らない」が多く、次いで「名称は知っているが、活動内容は知らない」が多い
認知症サポーター	「知らない」が最も多い
地域ささえあい推進員	「知らない」が最も多い
地域ささえあいサポーター	「知らない」が最も多い

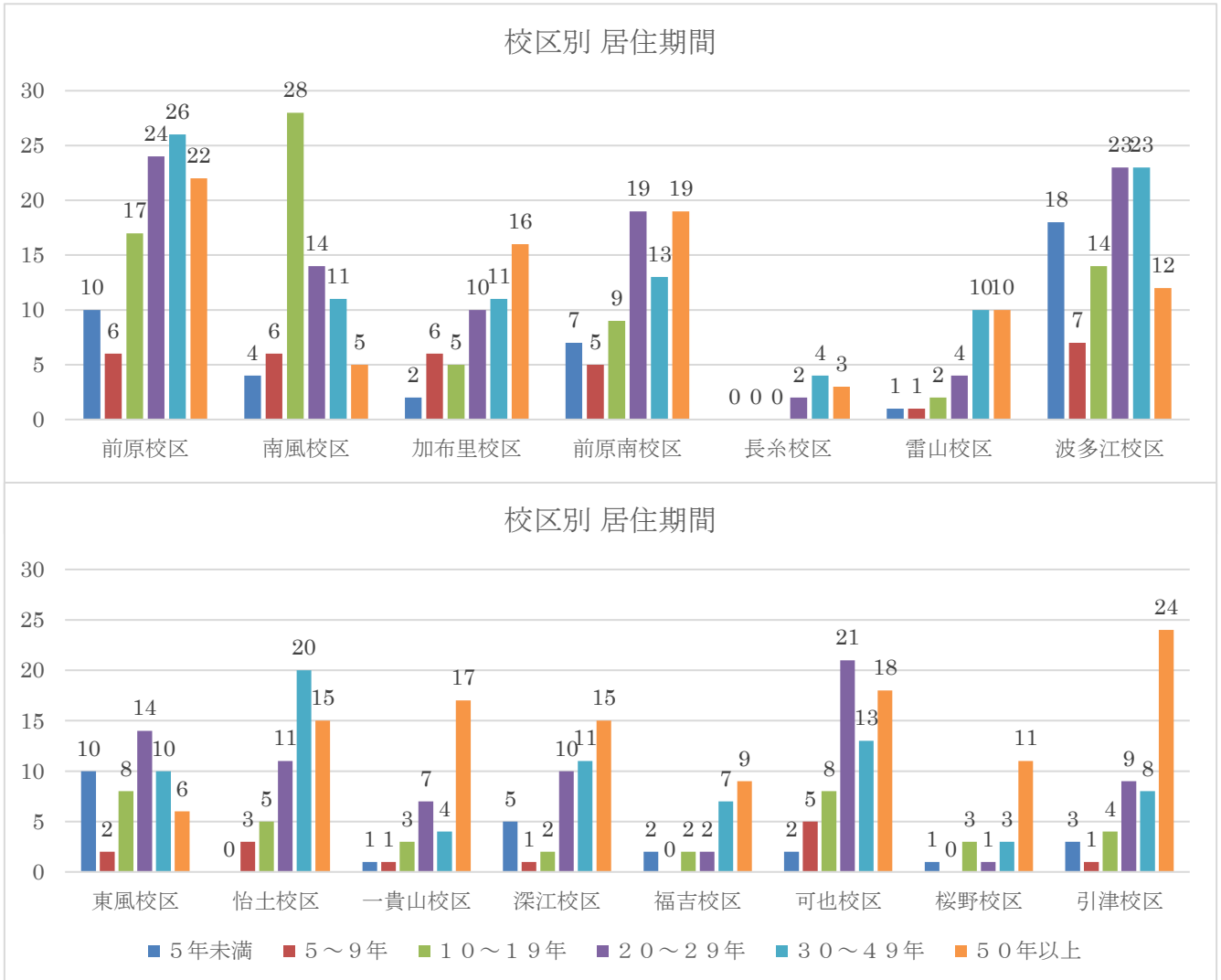
「名称も活動内容も知っている」の回答では『民生委員・児童委員』の22%が最も多く、次いで『校区社会福祉協議会』が12%・『ふれあい生きいきサロン』が11%となった。

参考資料

下記の設問の校區別結果

- 問4 あなたは糸島市に住んでどのくらいになりますか
- 問5 あなたの現在の家族構成
- 問6 近所の人とは普段どのような付き合いをしていますか
- 問7 困ったことがあるとき、近所で気軽に相談できる人はいますか
- 問8 自治会に加入していますか
- 問13 あなたの身近な地域には、どのような課題があると思いますか（複数回答）
- 問14 あなたの地域で優先的に解決しなければならない課題はありますか（3つ）
- 問15 あなたの周辺で孤独死や虐待などおこる恐れがある状況を知ったら、最初にどのように対応しますか
- 問16 地域で困りごとを抱えている人や世帯に対し、何か自分に出来ることがあれば支援をしたいと思いますか
- 問17 どのような方の支援に関心がありますか（複数回答）
- 問20 自分に必要な「福祉サービス」の情報をどの程度入手できているとお考えですか
- 問21 糸島市の福祉において、知りたい情報は何か（複数回答）
- 問22 情報を届ける手段として、有効だと思うものは何か（複数回答）

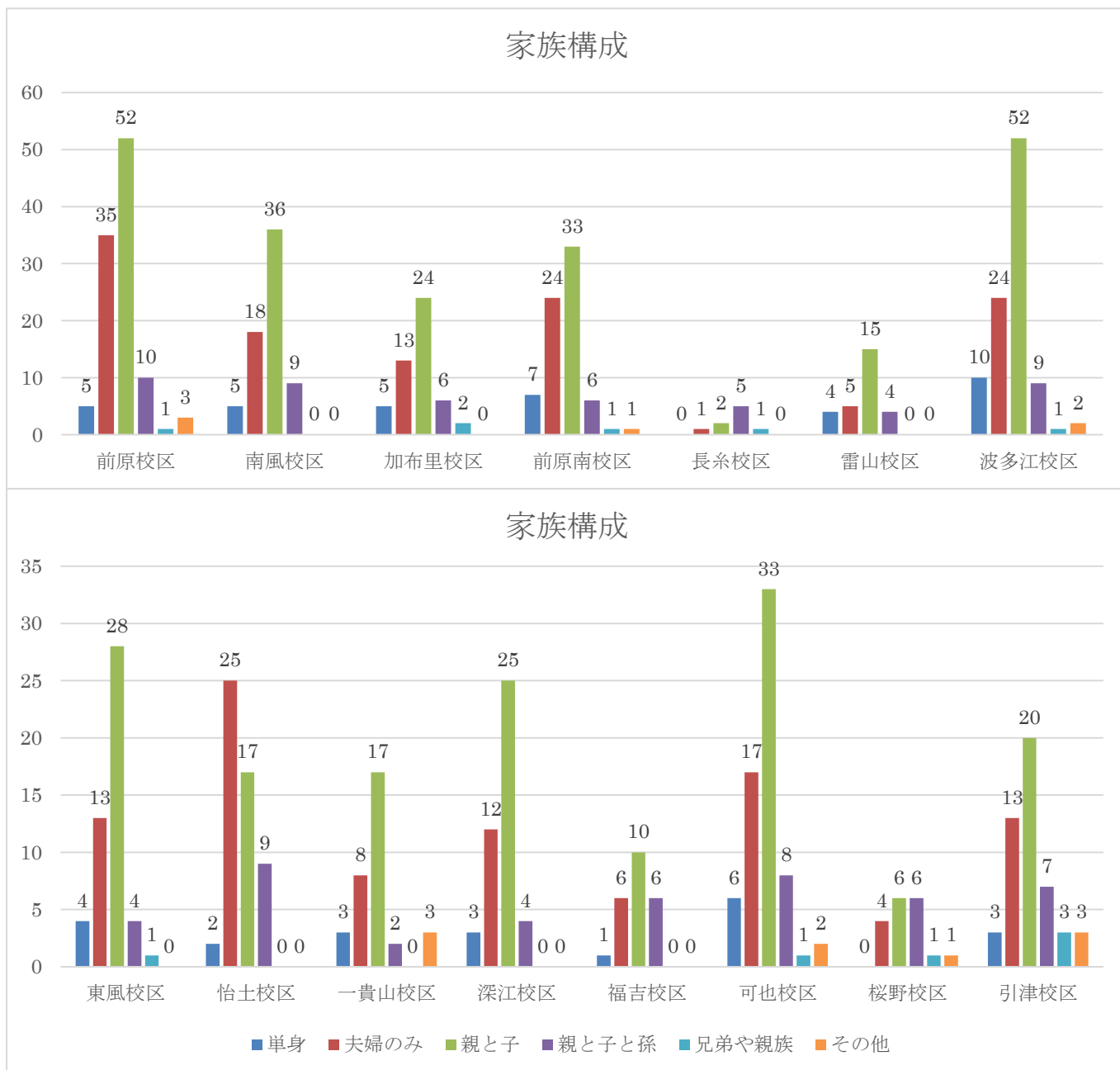
問 4 糸島に住んでどのくらいになりますか(校区別)



【校区別の居住期間】

前原校区では、「30～49年」、「20～29年」が多く、「5～9年」が少ない。
 南風校区では、「10～19年」が最も多く、「5年未満」「50年以上」が少ない。
 加布里校区では、「50年以上」が多く、「5年未満」が少ない。
 前原南校区では、「20～29年」「50年以上」多く、「5～9年」が少ない。
 長糸校区では、「30～49年」、「50年以上」多く、他は0です。
 雷山校区では、「30～49年」、「50年以上」が多く、「5年未満」「5～9年」が少ない。
 波多江校区では、「20～29年」「30～49年」が多く、「5～9年」が少ない。
 東風校区では、「20～29年」が多く、「5～9年」が少ない。
 怡土校区では、「30～49年」が多く、「5年未満」はない。
 一貴山校区では、「50年以上」が最も多く、「5年未満」、「5～9年」が少ない。
 深江校区では、「50年以上」が多く、「5年～9年」は少ない。
 福吉校区では、「50年以上」が多く、「5年未満」は少なく「5～9年」はない。
 可也校区では、「20～29年」「50年以上」が多く、「5年未満」が少ない。
 桜野校区では、「50年以上」が多く、「5年未満」は少なく「5～9年」はない。
 引津校区では、「50年以上」が多く、「5～9年」は少ない。

問5 家族構成(校区別)



【校区別の家族構成】

全体的に「親と子」が最も多く、次に「夫婦のみ」が多い。

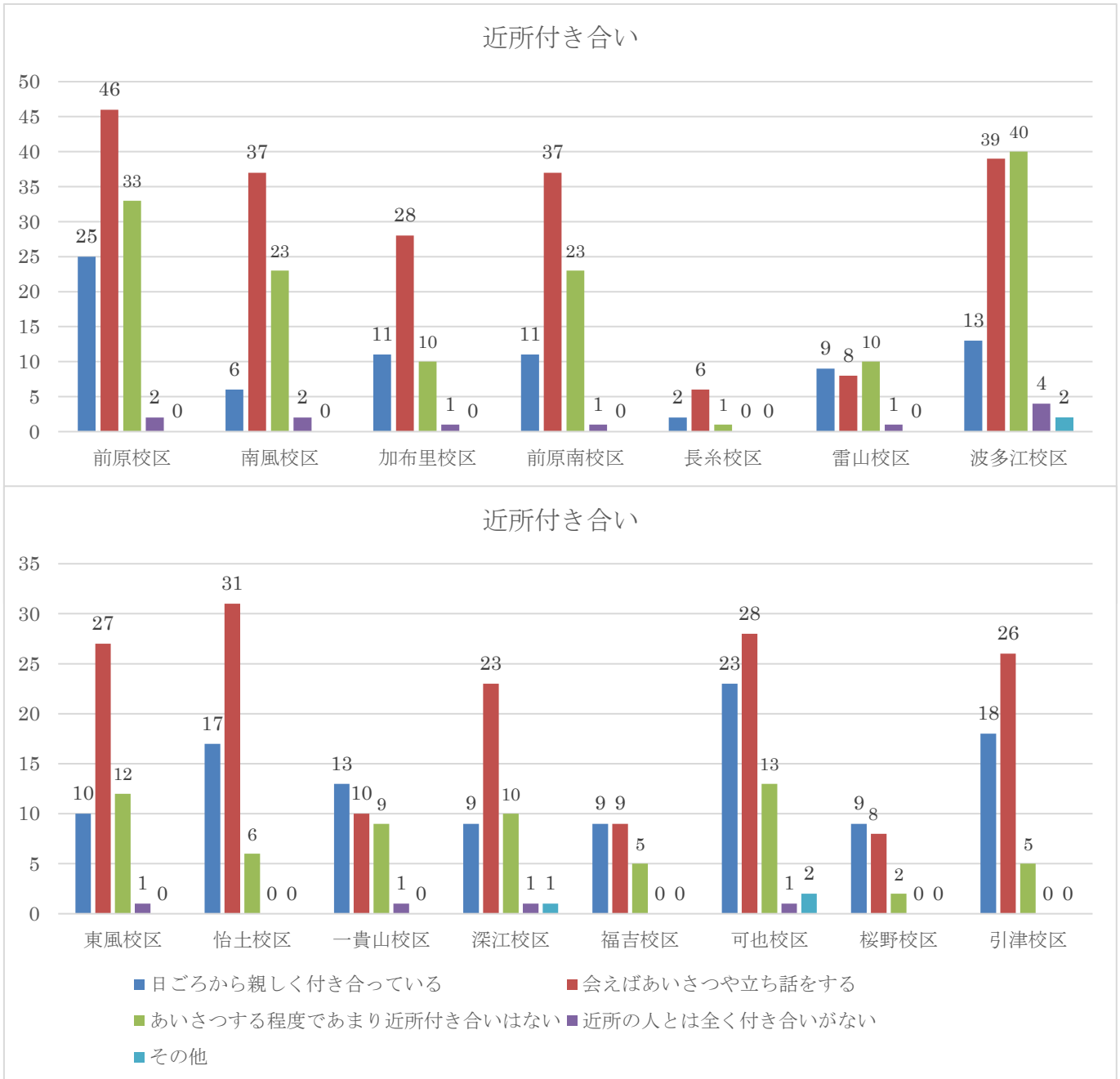
長糸校区は、「親と子と孫」が多い。

怡土校区は「夫婦のみ」が多く、次に「親と子」が多い。

桜野校区は、「親と子」、「親と子と孫」が多い。

長糸校区と、桜野校区は「単身」はない。

問6 近所付き合い(校區別)

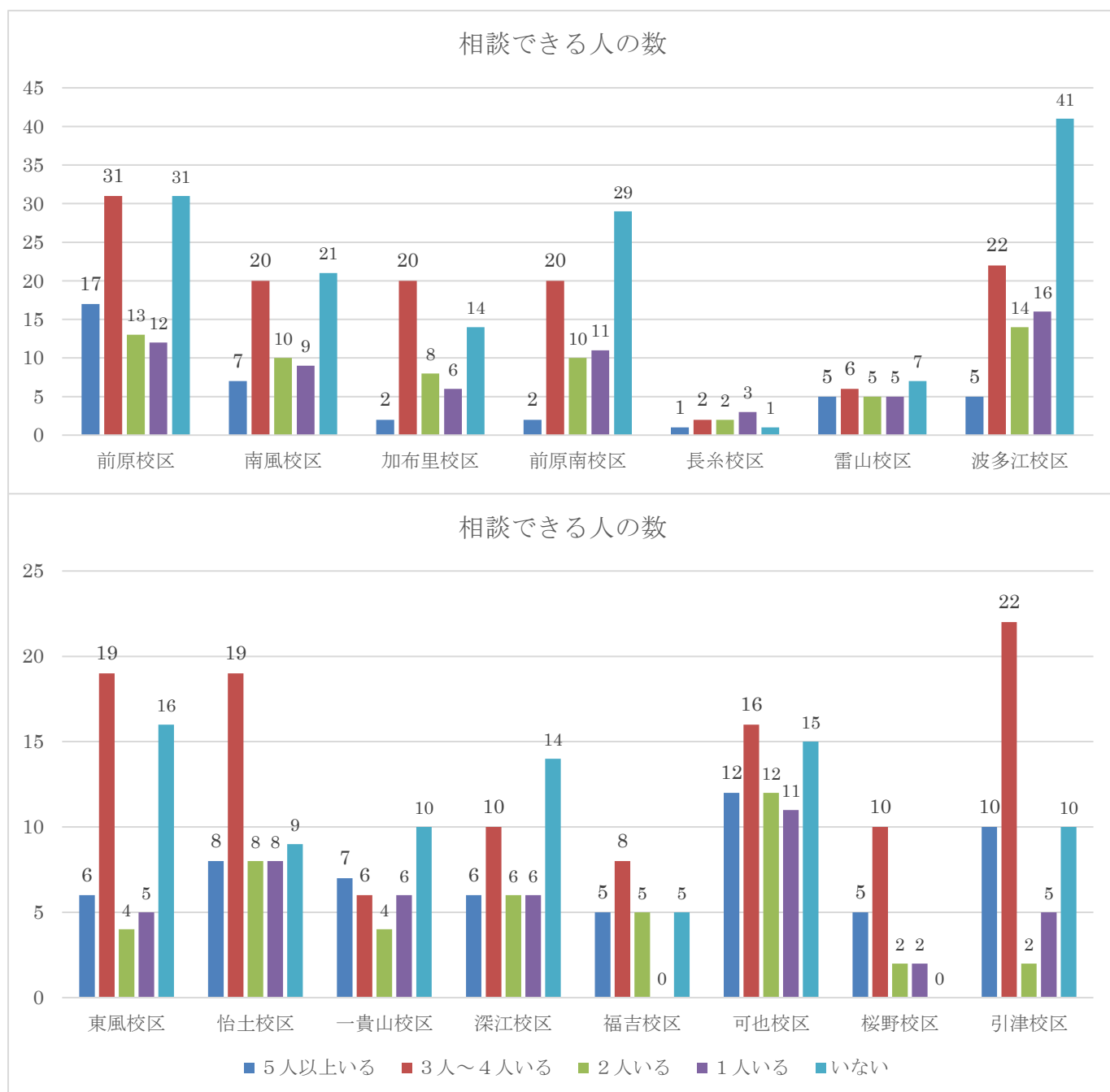


【校區別の近所付き合い】

全体的に「会えばあいさつや立ち話をする」が最も多く、次に「挨拶する程度であまり近所付き合いはない」が多い。

「近所の人とは全く付き合いがない」は少なく、長糸校区、怡土校区、福吉校区、桜野校区、引津校区は無かった。

問7 困ったことがあるとき、近所で気軽に相談できる人(校区別)

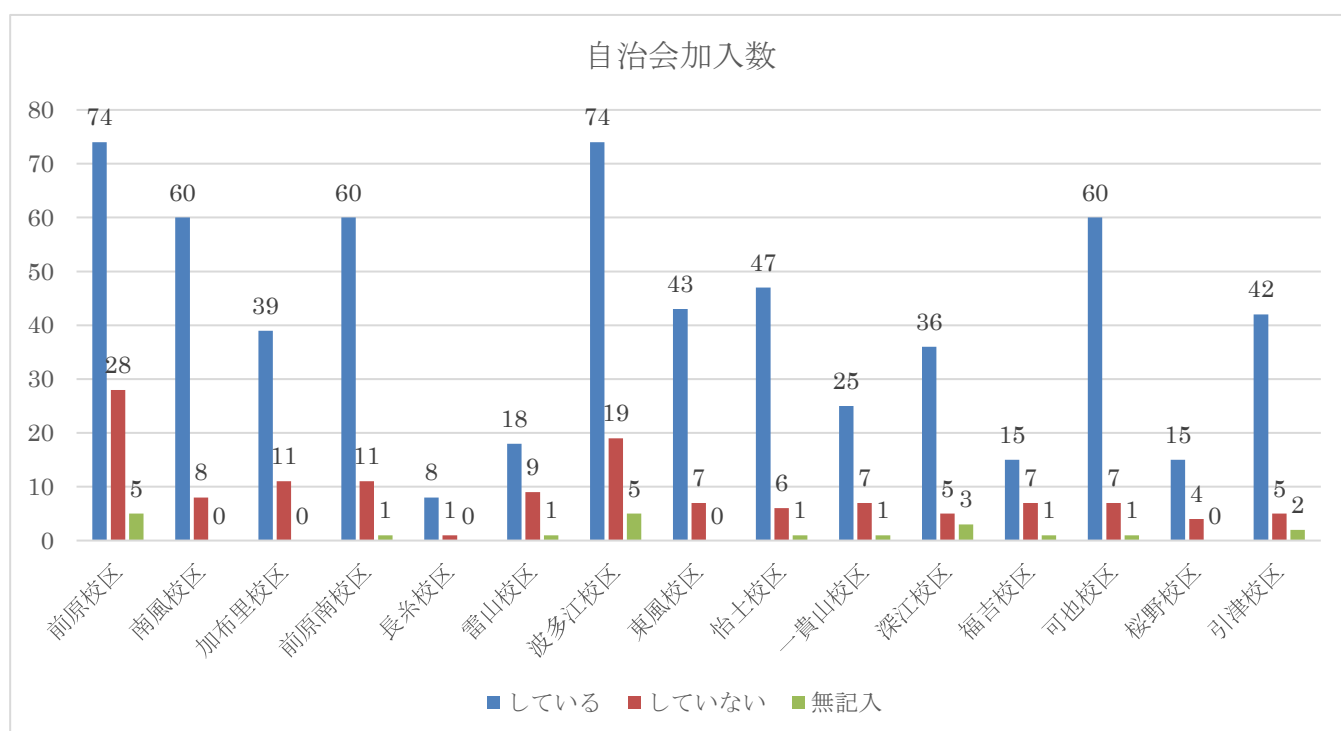


【校区別の困ったことがあるとき、近所で気軽に相談できる人がいますか】

全体的に「3人～4人いる」が多い。

「いない」の回答は、波多江校区、前原南校区、前原校区が最も多い。

問8 自治会に加入(校区別)



加入	前原	南風	加布里	前原南	長糸	雷山	波多江	東風	怡土	一貴山	深江	福吉	可也	桜野	引津
している	73%	88%	78%	85%	89%	67%	80%	86%	89%	78%	88%	68%	90%	79%	89%
ない	27%	12%	22%	15%	11%	33%	20%	14%	11%	22%	12%	32%	10%	21%	11%

【校区別の自治会加入数】

「加入している」率は、可也校区が最も多い。ほとんど80%を超えている。

「加入していない」では、可也校区が10%で、長糸校区、怡土校区、引津校区が11%と低い。

問 13 地域の課題(校区別)

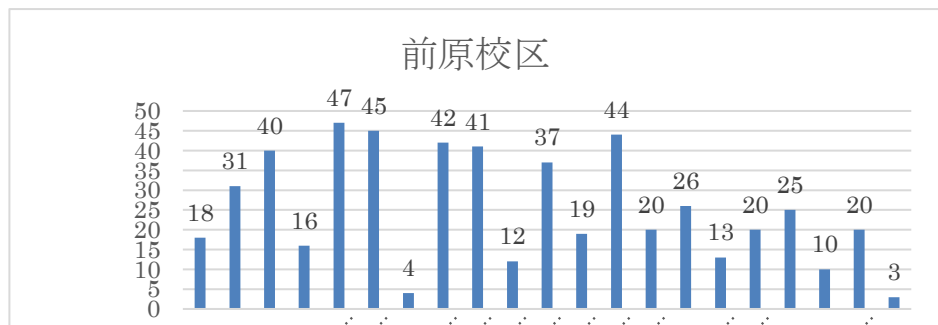
このグラフは、各校区の全体の割合を表しています。



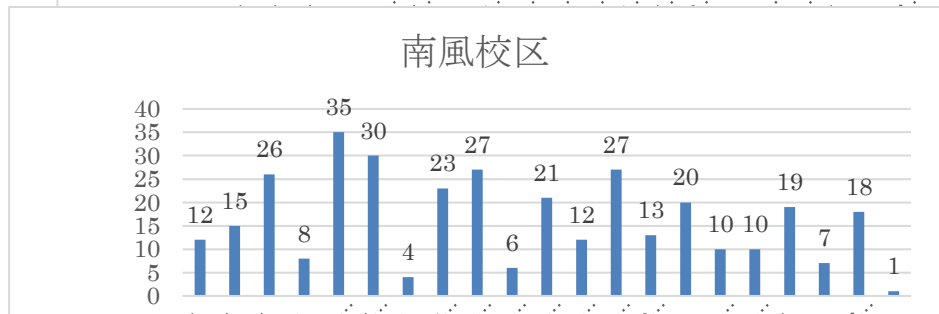
- ひとり親家庭の子育て支援
- 乳幼児の子育て支援
- 共働き家庭の子育て支援
- 子どもへの虐待防止対策
- 高齢者の社会参加や生きがいづくり
- 高齢者世帯の生活支援（声かけや安否確認、買い物支援など）
- 高齢者への虐待防止対策
- 障がいのある人が地域で自立して生活するための支援
- 障がいのある人に対する地域の理解、交流の促進
- 障がいのある人への虐待防止対策
- 青少年の健全育成、犯罪や非行の防止
- 生活習慣病予防など健康づくりへの取り組み
- 災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動
- 地域で孤立しているなど社会的孤立者への支援

問 13 身近な地域の課題(校区別)

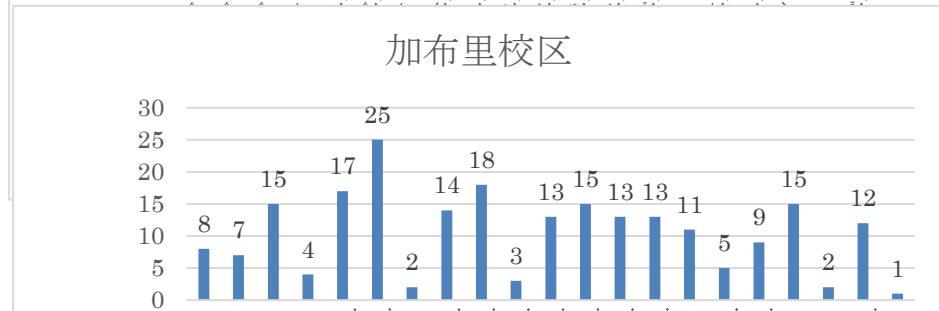
前原校区



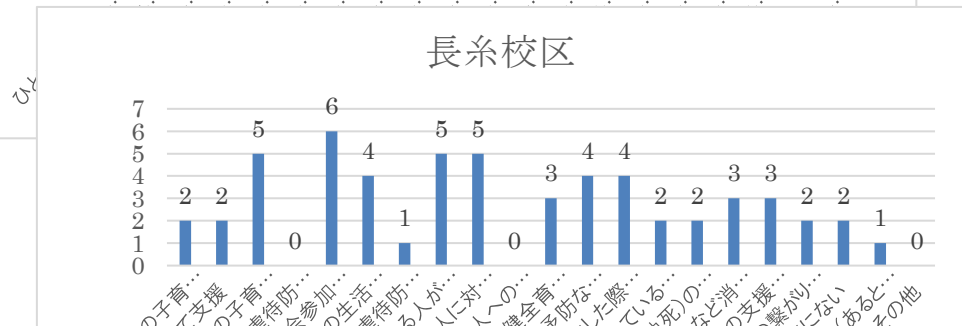
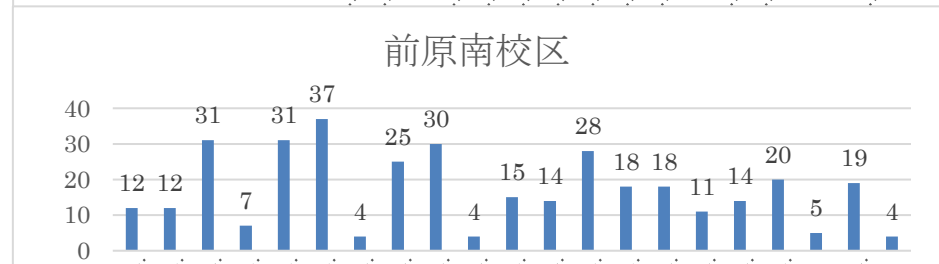
南風校区



加布里校区

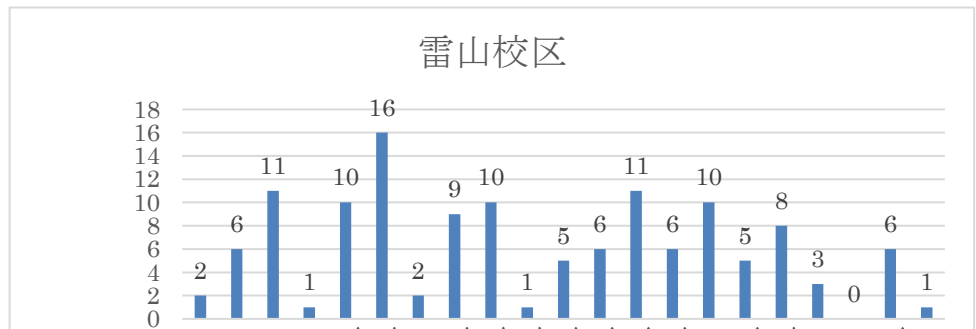


前原南校区

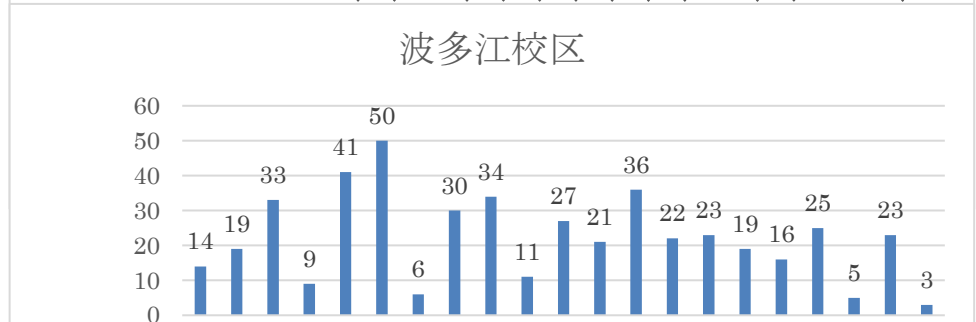


長糸校区

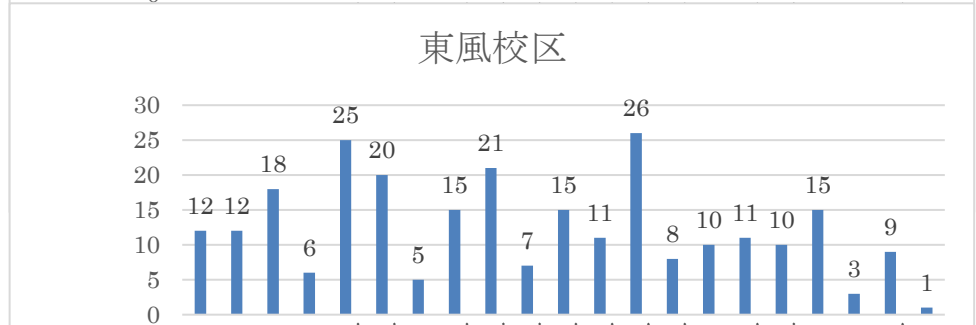
雷山校区



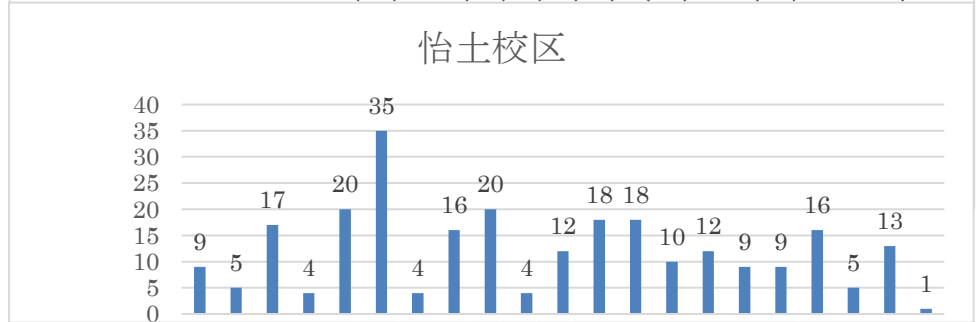
波多江校区



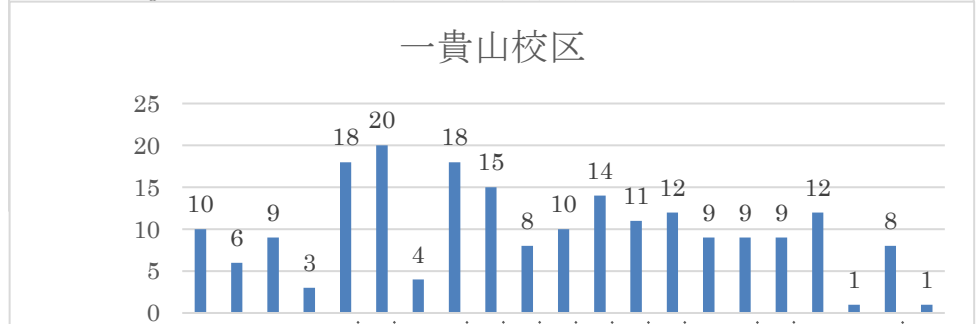
東風校区



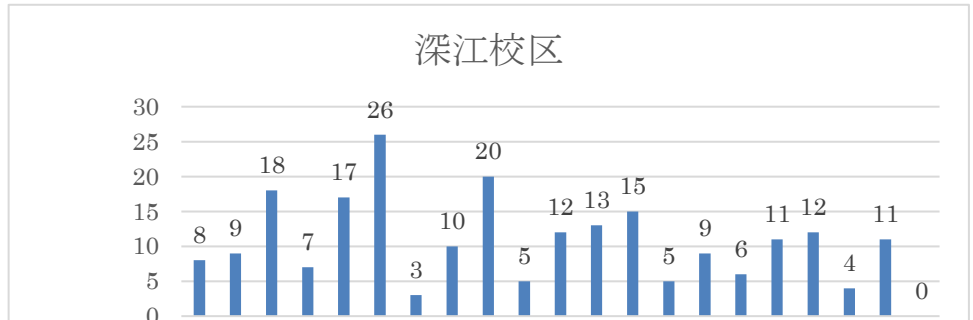
怡土校区



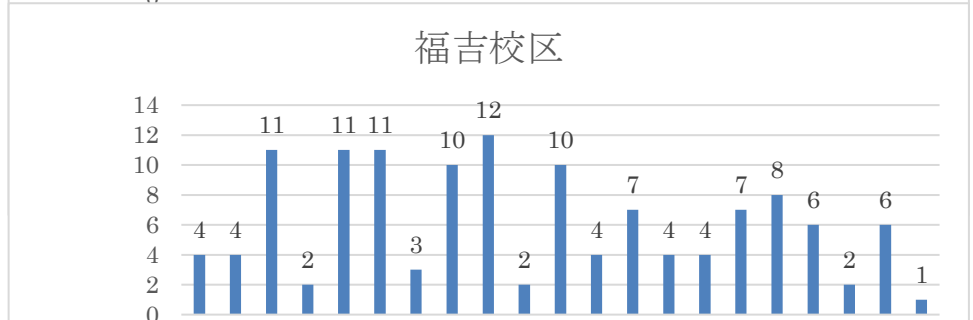
一貴山校区



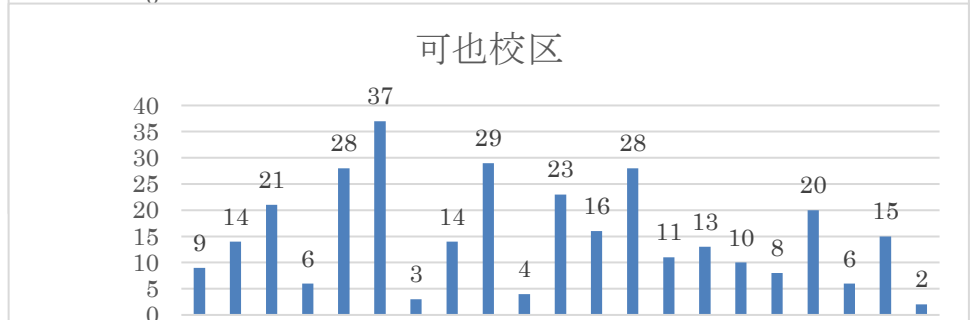
深江校区



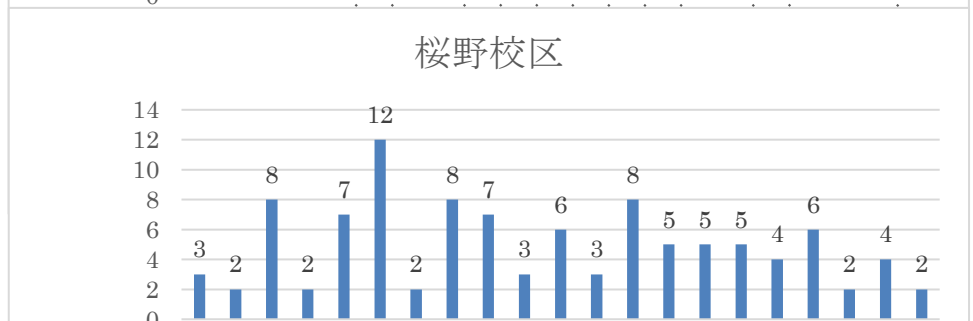
福吉校区



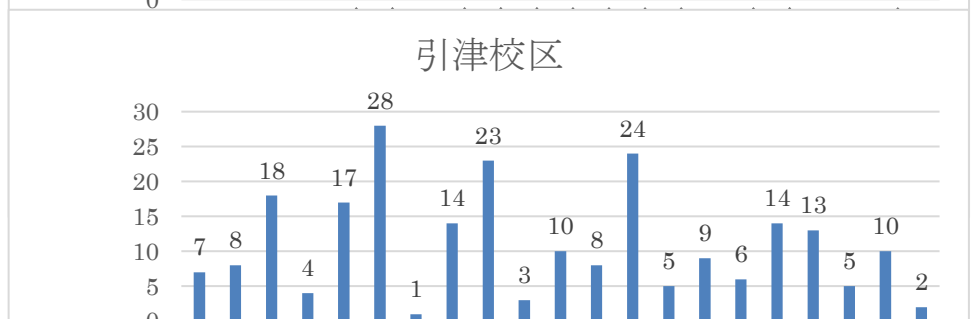
可也校区



桜野校区



引津校区

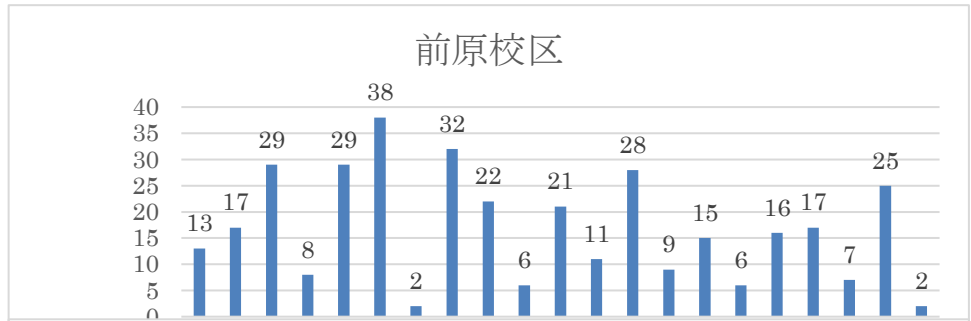


問 14 優先的に解決しなければならない課題（校区別）

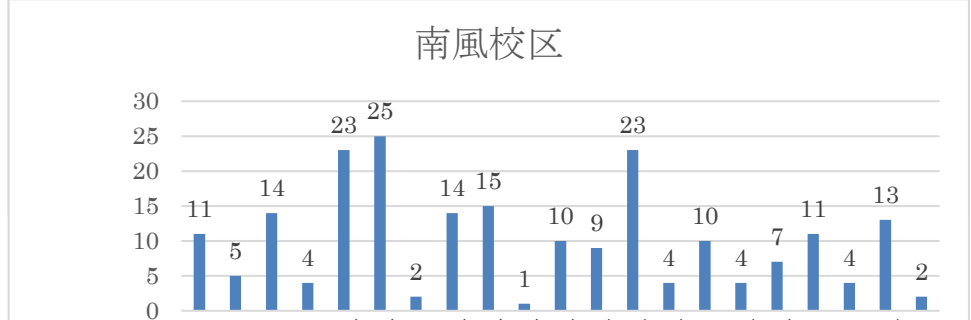


問 14 優先的に解決しなければならない課題(校区)

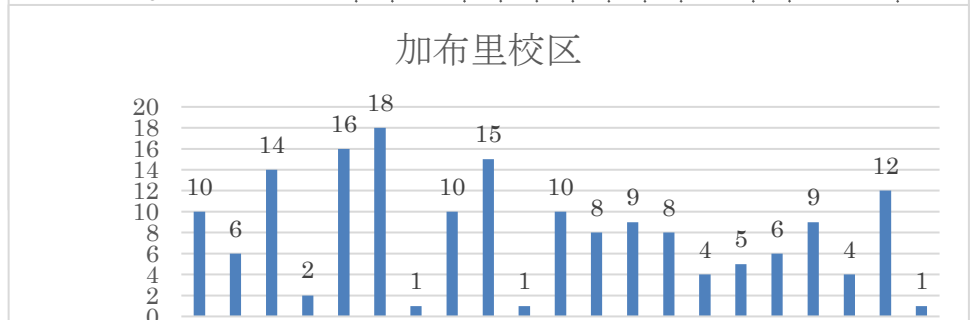
前原校区



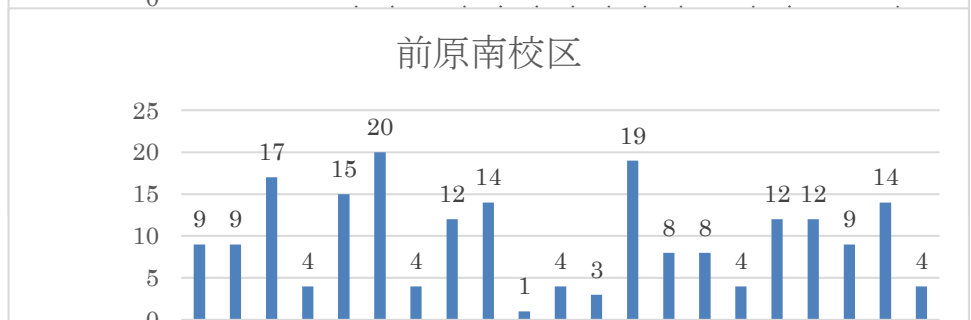
南風校区



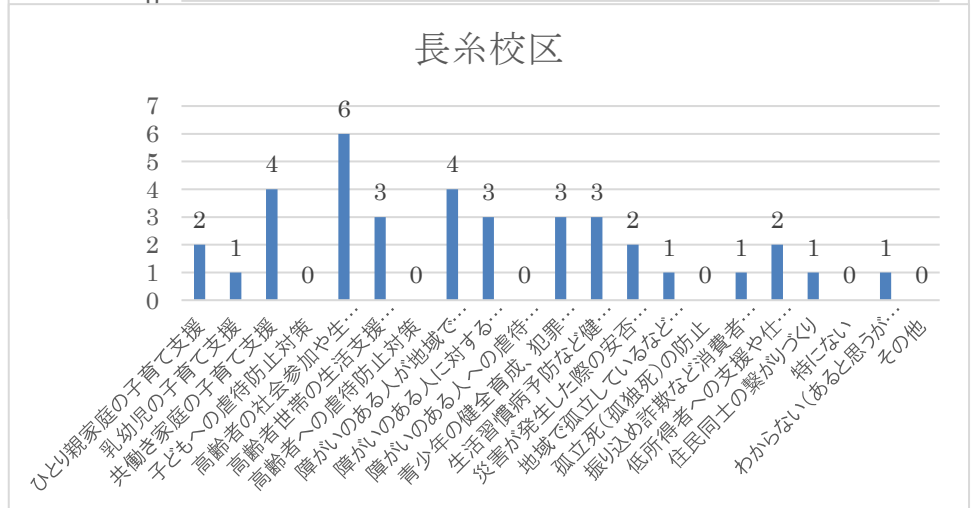
加布里校区



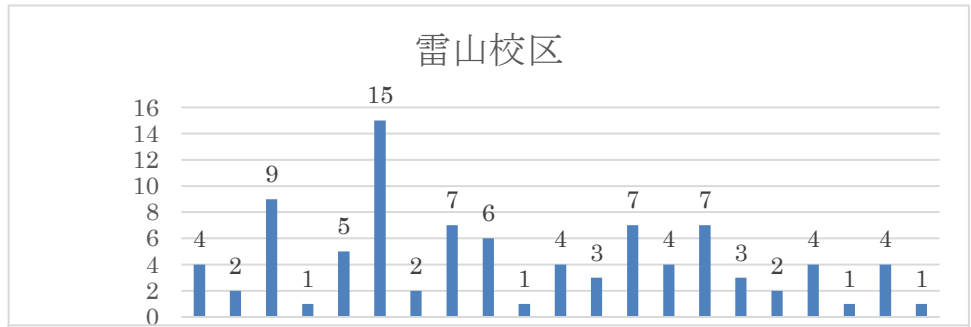
前原南校区



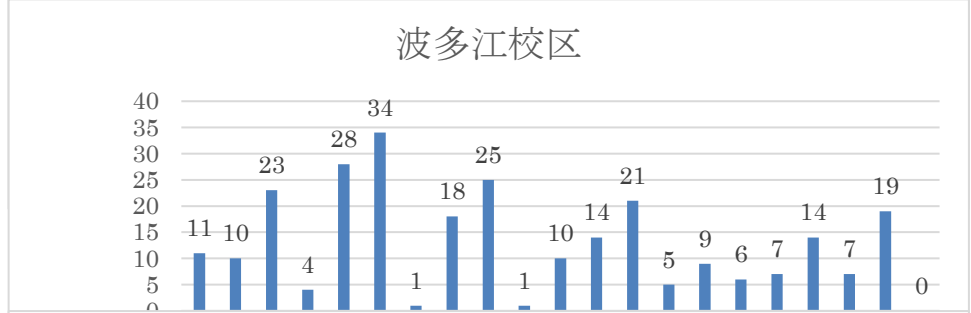
長糸校区



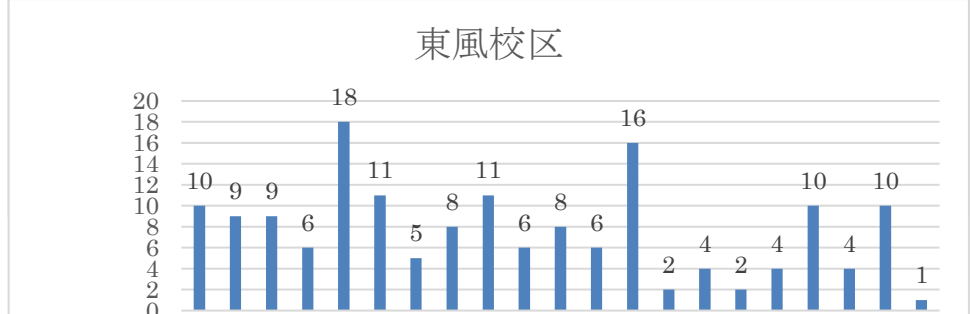
雷山校区



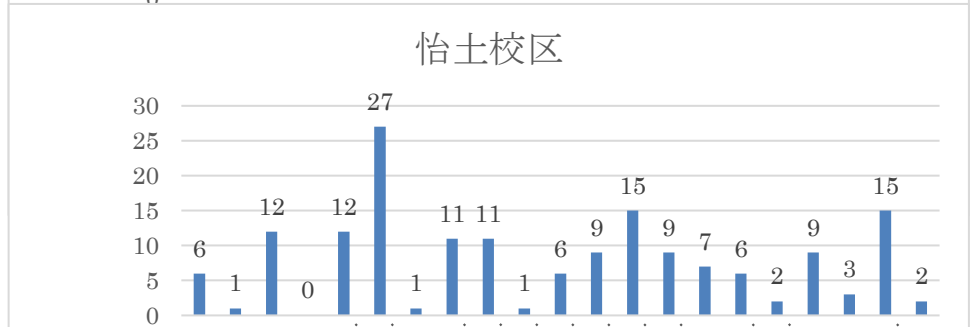
波多江校区



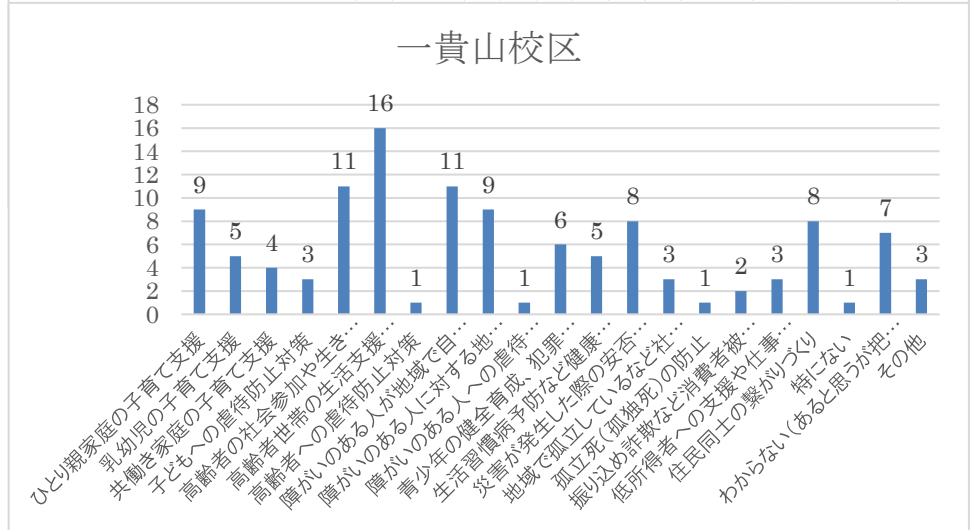
東風校区



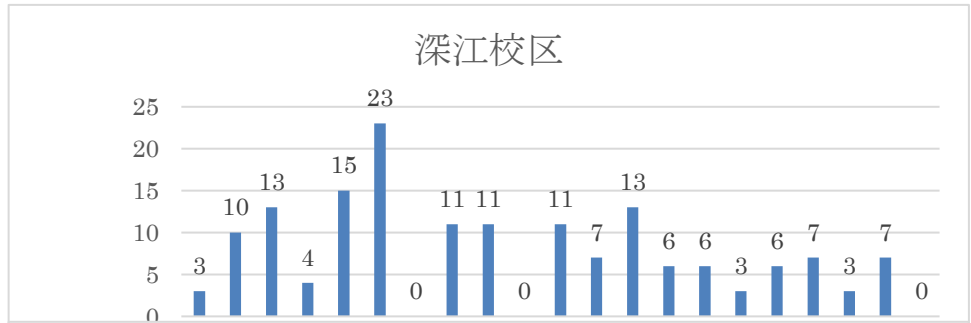
怡土校区



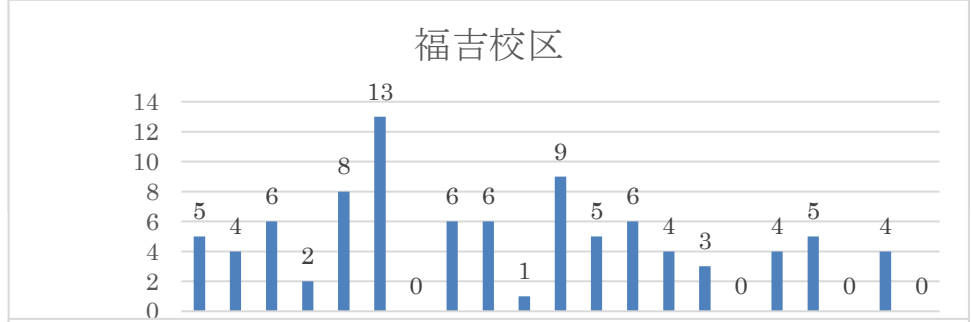
一貴山校区



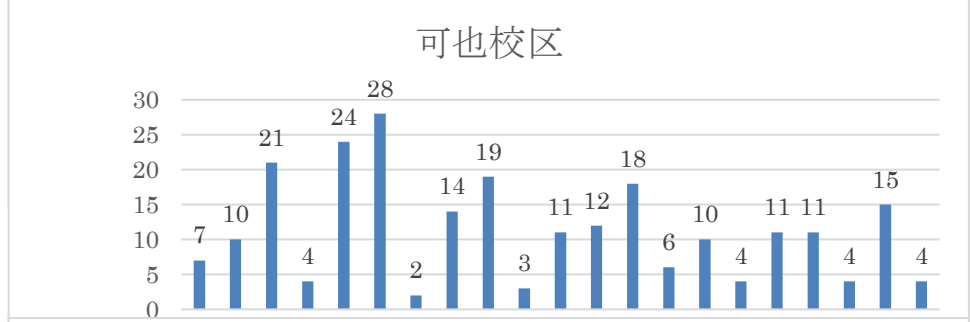
深江校区



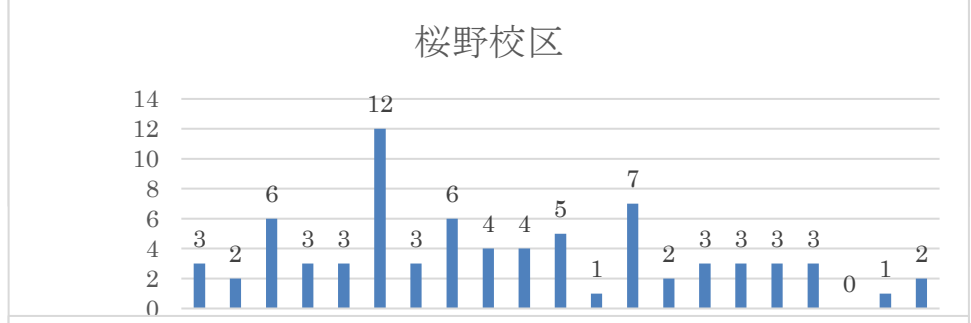
福吉校区



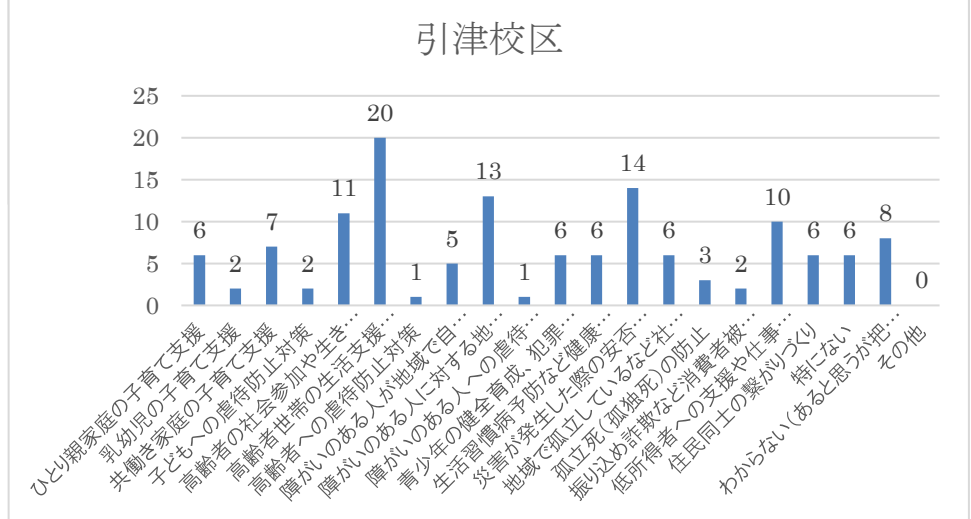
可也校区



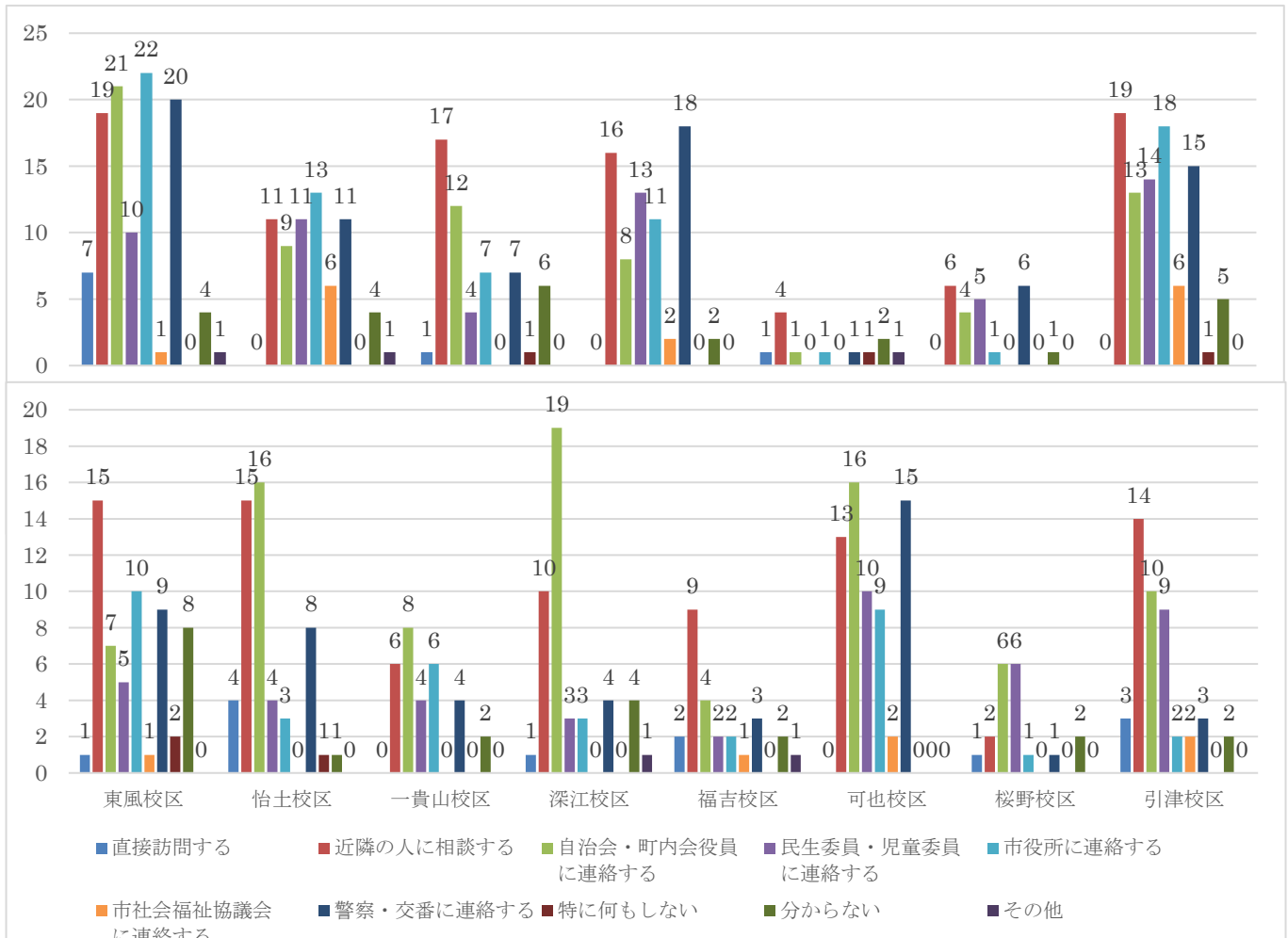
桜野校区



引津校区

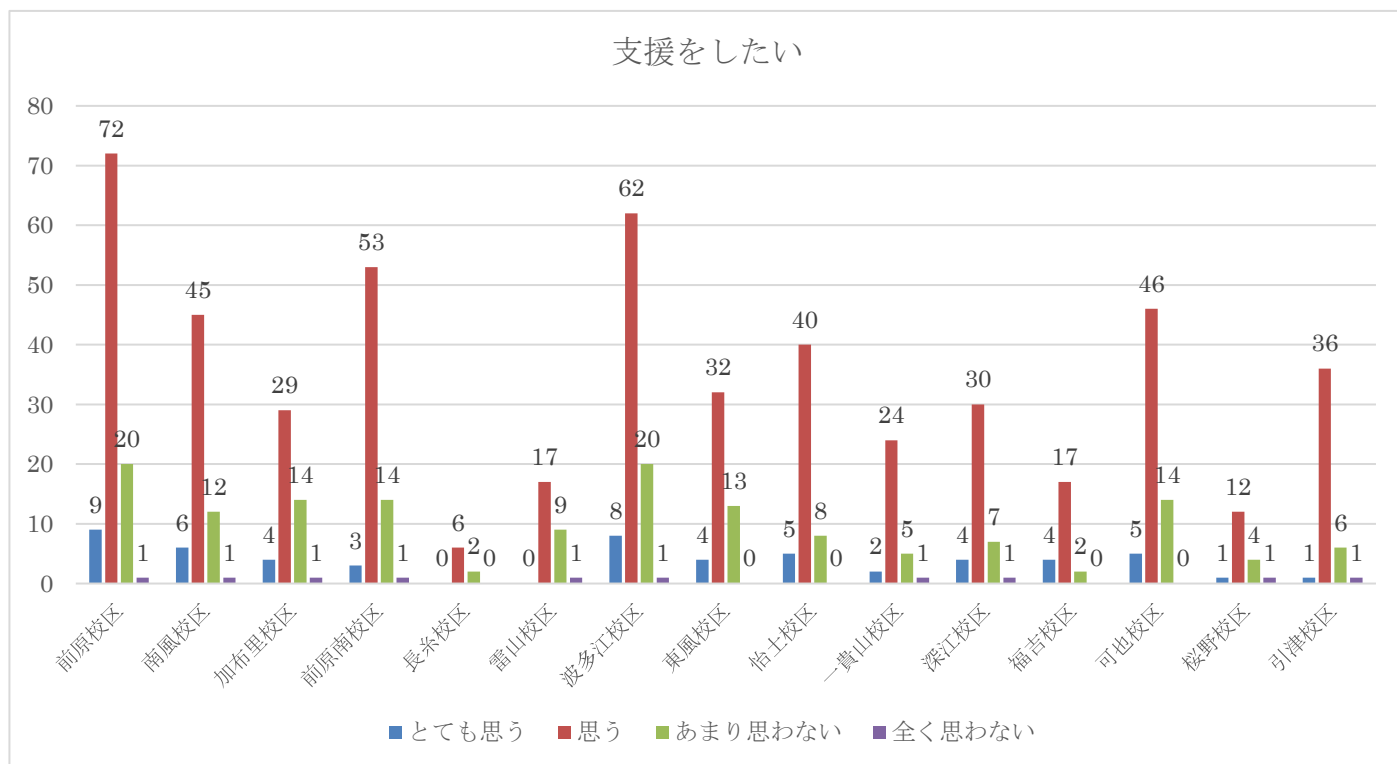


問 15 もし、あなたの周辺で孤独死や虐待等起こる恐れがある状況を知ったら、最初にどのように対応しますか？(校区別)



前原校区では、「市役所に連絡」、「自治会、町内会役員に連絡」が多い。
 南風校区では、「市役所に連絡」が多い。
 加布里校区では、「近隣の人に相談する」が多い。
 前原南校区では、「警察・交番に連絡する」が多い。
 長糸校区では、「近隣の人に相談する」が多い。
 雷山校区では、「近隣の人に相談する」、「警察・交番に連絡する」が多い。
 波多江校区では、「近隣の人に相談する」、「市役所に連絡」が多い。
 東風校区では、「近隣の人に相談する」が多い。
 怡土校区では、「近隣の人に相談する」、「自治会、町内会役員に連絡」が多い。
 一貴山校区では、「自治会、町内会役員に連絡」が多い。
 深江校区では、「自治会、町内会役員に連絡」が多い。
 福吉校区では、「近隣の人に相談する」が多い。
 可也校区では、「自治会、町内会役員に連絡」が多い。
 桜野校区では、「自治会、町内会役員に連絡」、「民生委員・児童委員に連絡」が多い。
 引津校区では、「近隣の人に相談する」が多い。

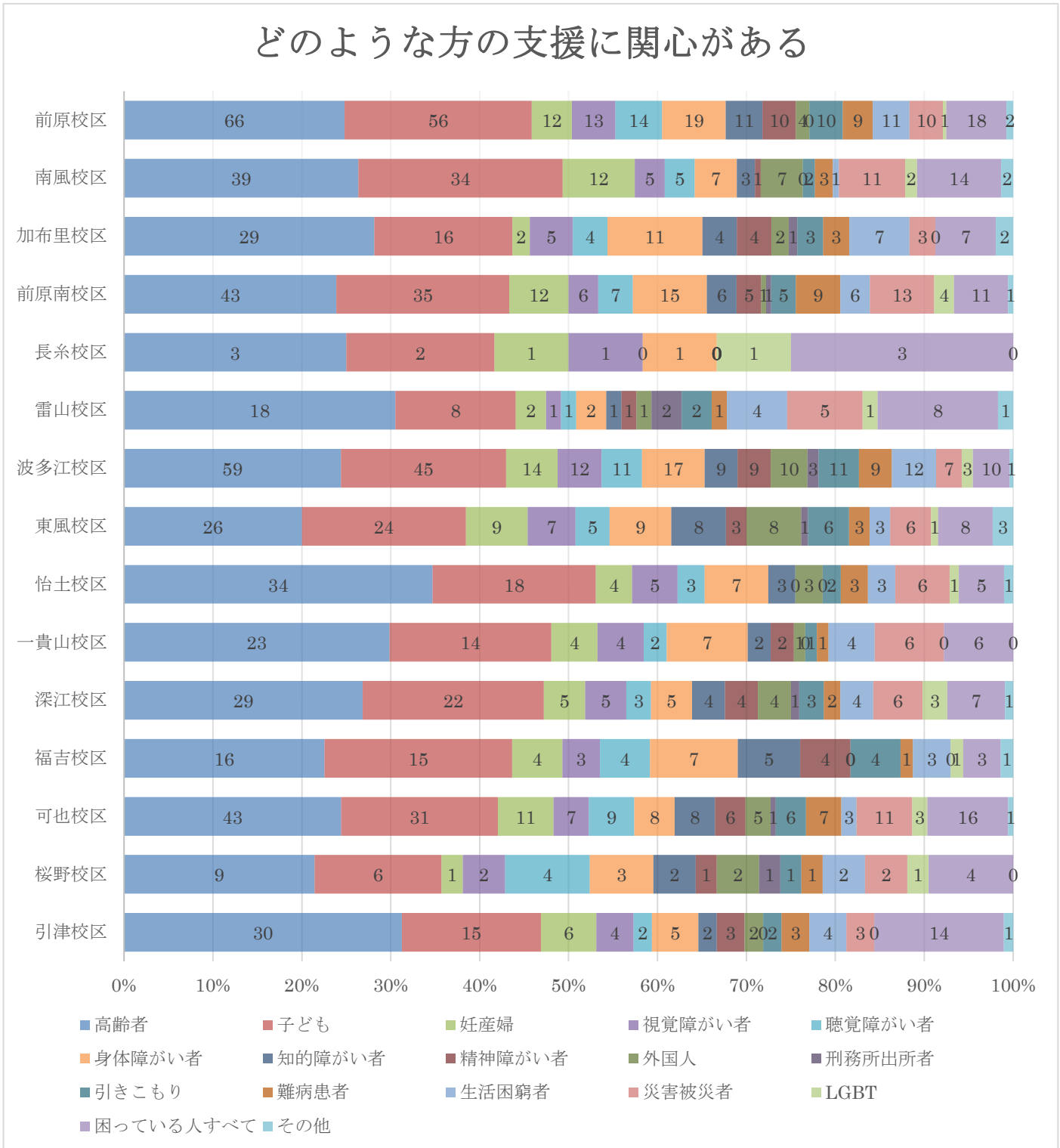
問 16 地域で困りごとを抱えている人や世帯に対し、何か自分に出来る事があれば支援をしたいと思えますか？



【校区別の何か自分に出来る事があれば支援をしたいと思えます】
「思う」が全体的に最も多い。

問 17 どのような方の支援に関心がありますか (校区)

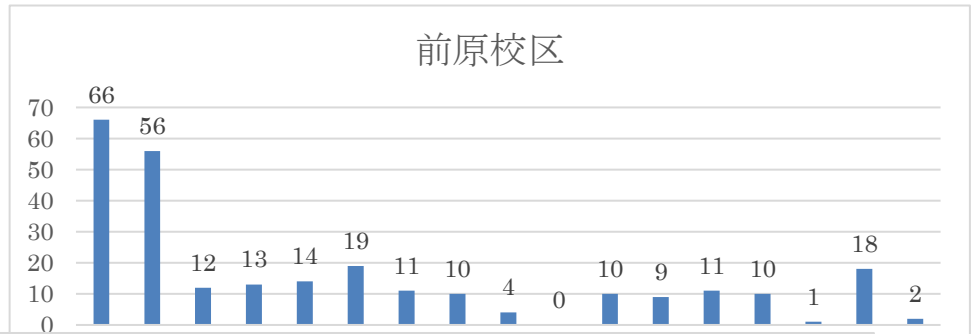
このグラフは、各校区の全体の割合を表しています。



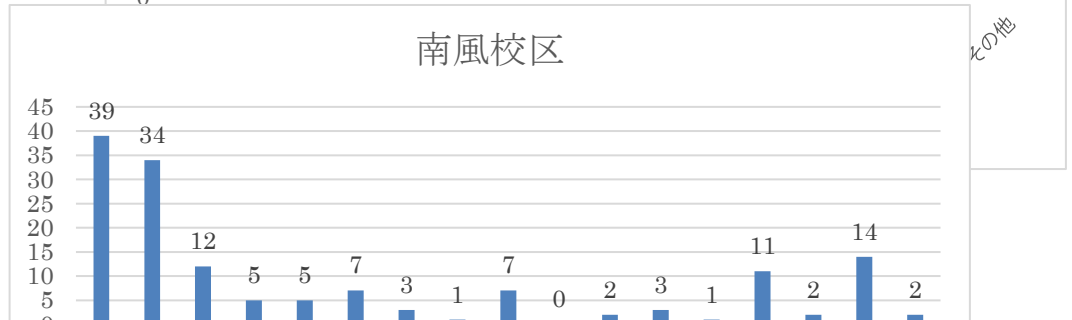
【校区別のどのような方の支援に関心がありますか】
 「高齢者」が全体的に多く、その中で「引津校区」、「怡土校区」が多い。
 次に「子ども」が全校区同じくらい多い。
 「困っている人すべて」では、「長糸校区」が多い。

問 17 どのような方の支援に関心がありますか(校区别)

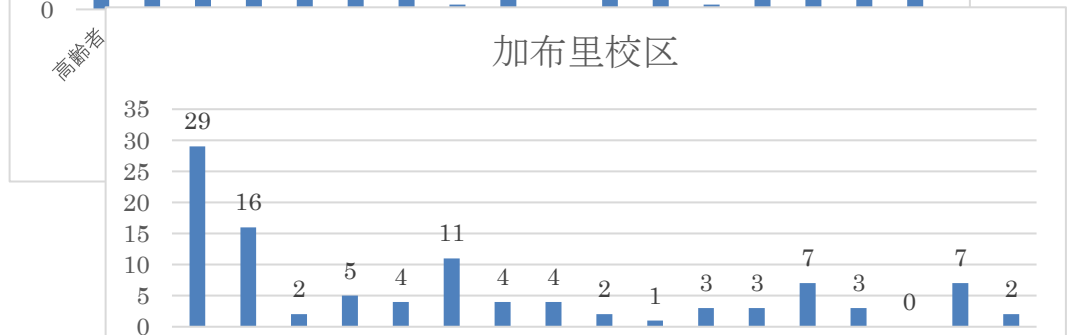
前原校区



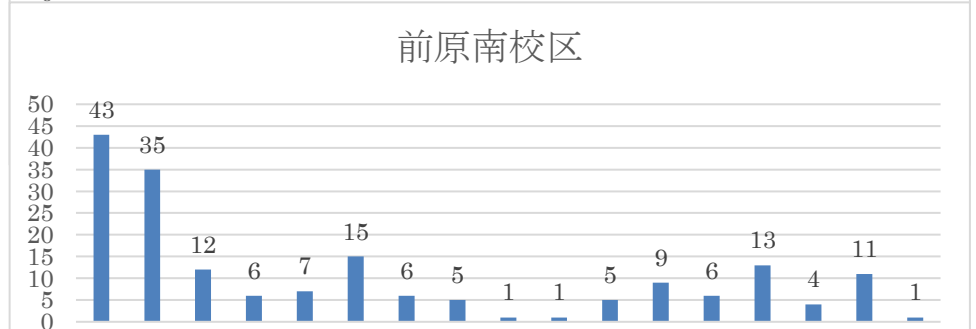
南風校区



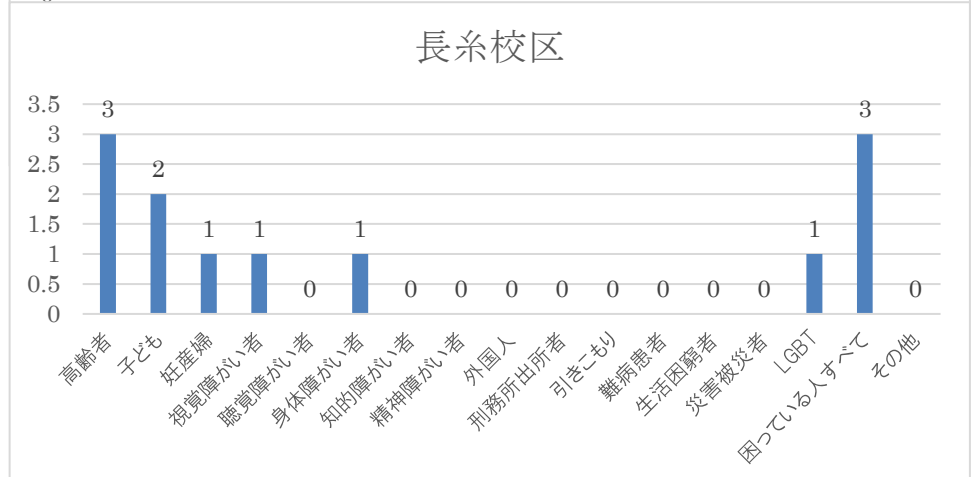
加布里校区



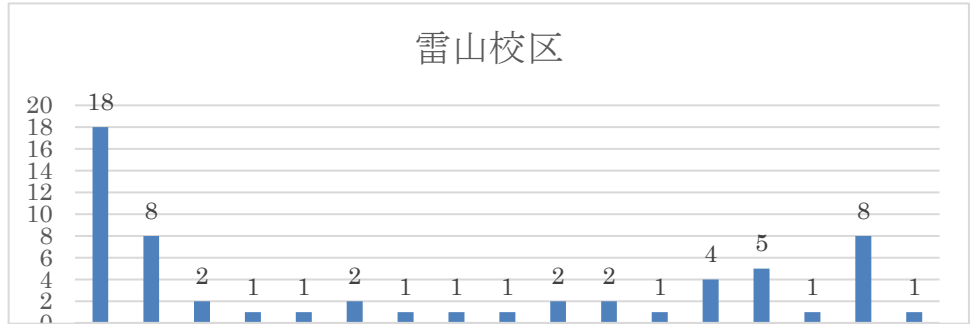
前原南校区



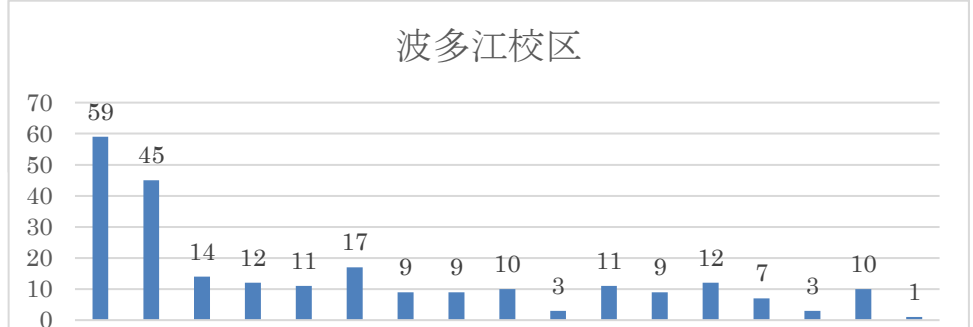
長糸校区



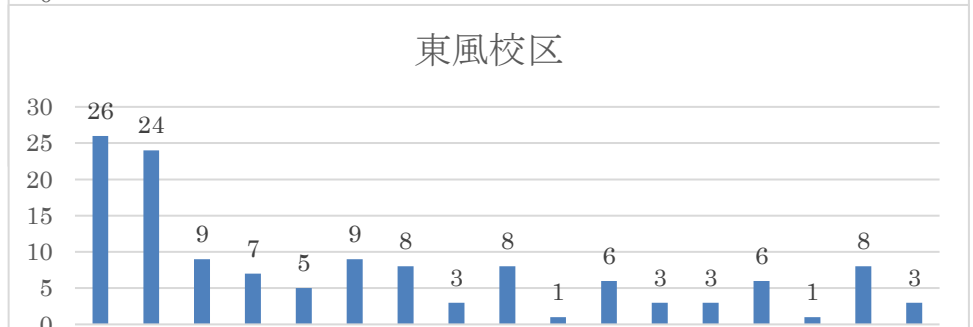
雷山校区



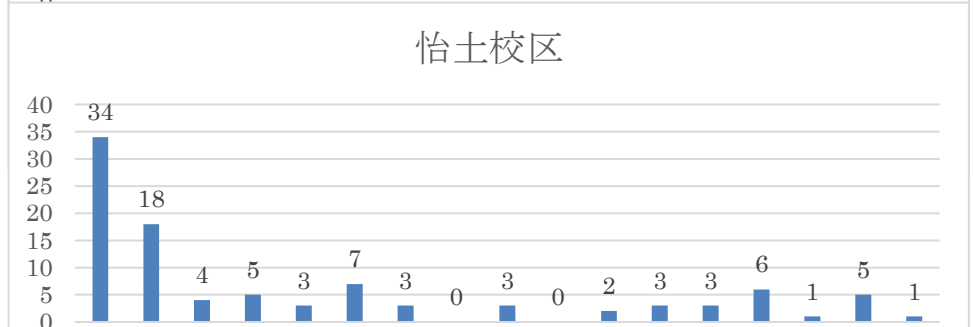
波多江校区



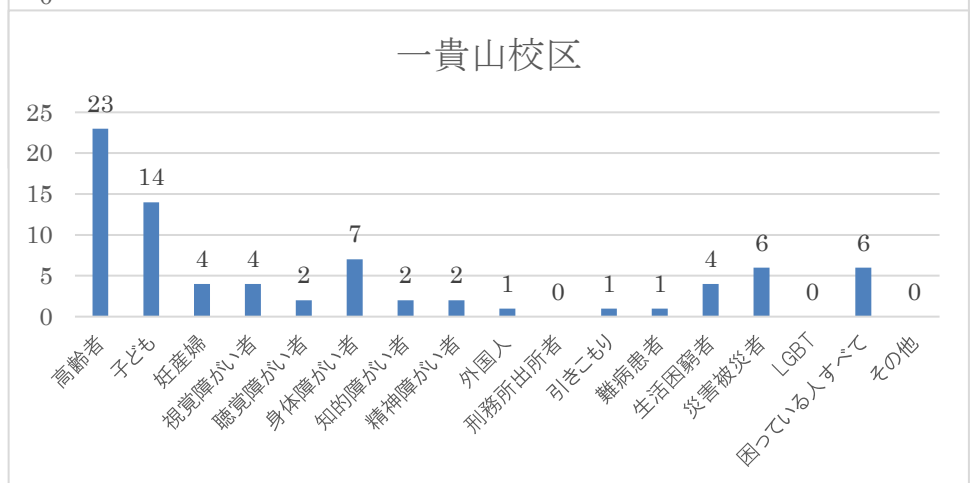
東風校区



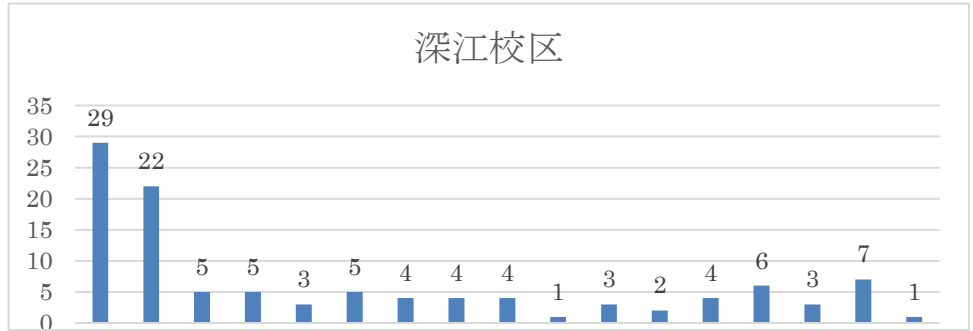
怡土校区



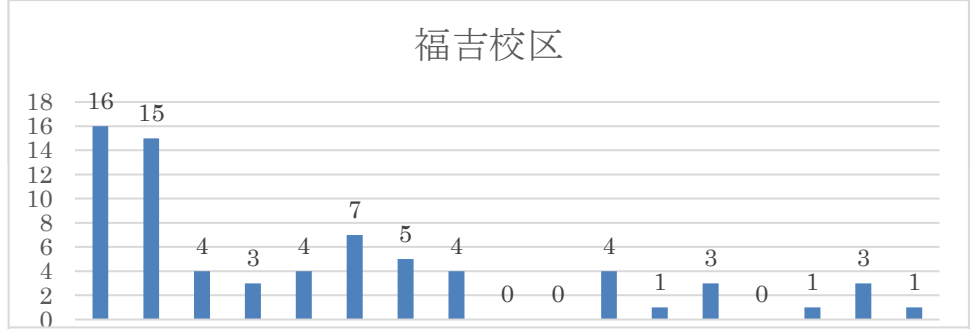
一貴山校区



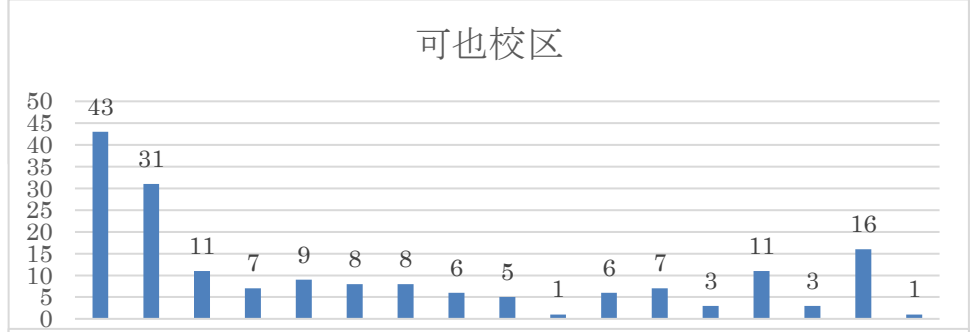
深江校区



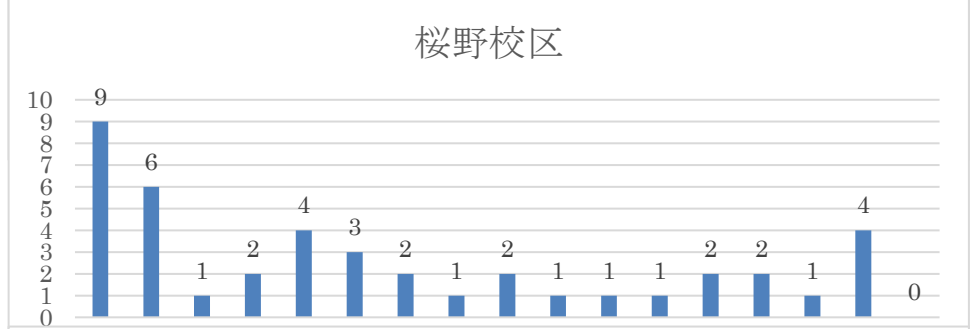
福吉校区



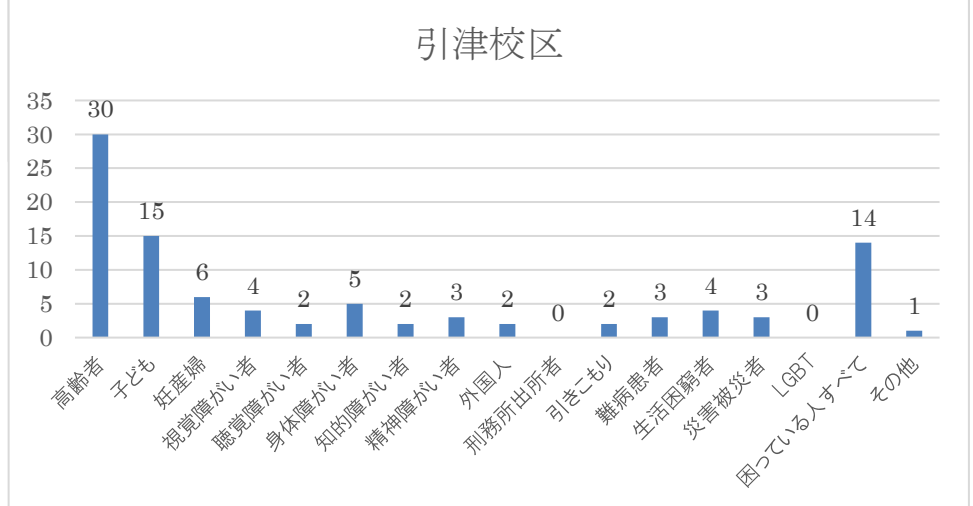
可也校区



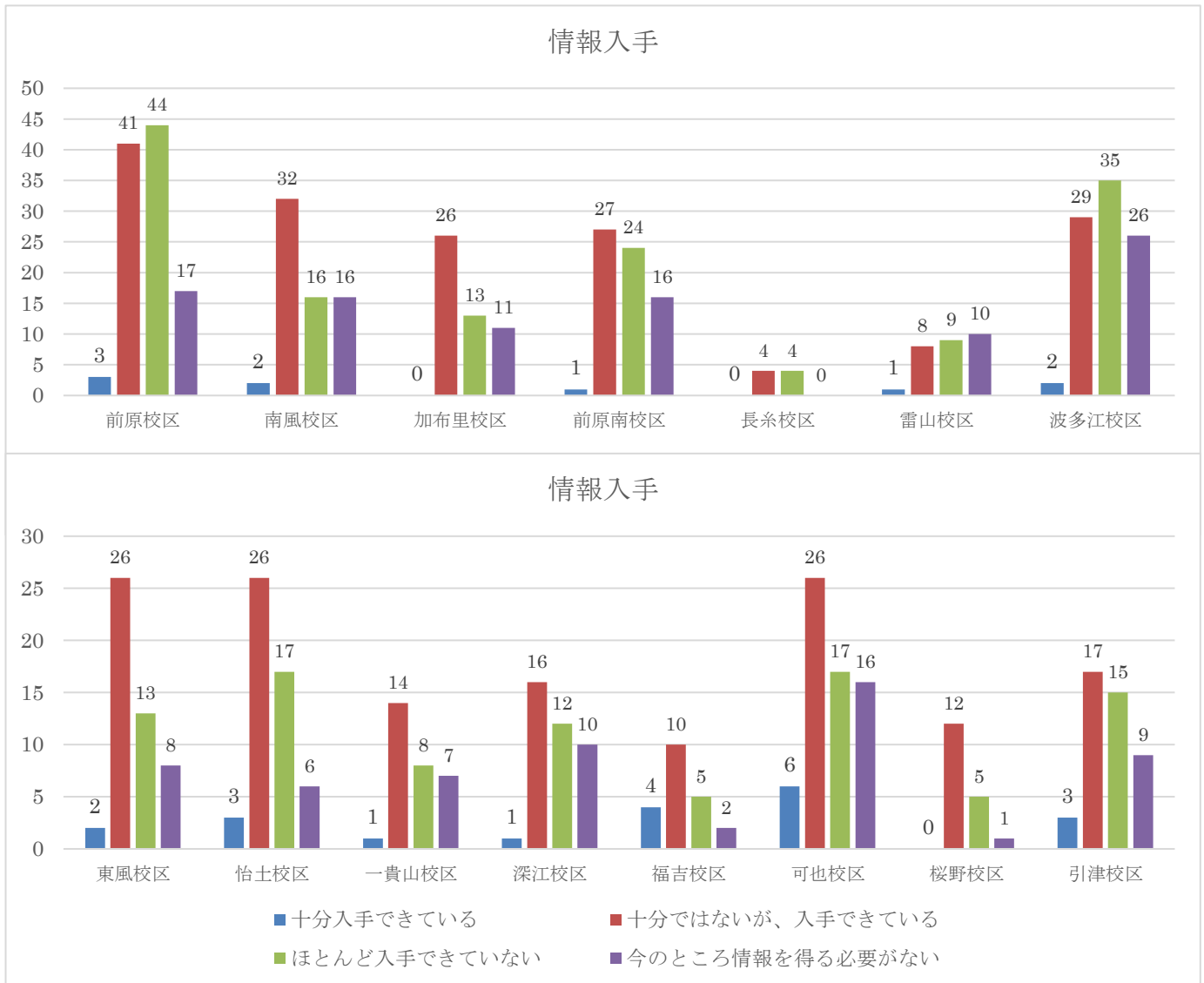
桜野校区



引津校区



問 20 福祉サービスの情報をどの程度入手できているとお考えですか(校区別)



【校区別の福祉サービスの情報をどの程度入手できているとお考えですか】

前原校区では、「ほとんど入手できていない」が多く、次に「十分ではないが、入手できている」が多い。

南風校区、加布里校区、東風校区、怡土校区、一貴山校区、深江校区、福吉校区、可也校区、桜野校区では、「十分ではないが、入手できている」が多い。

前原南校区、引津校区では、「十分ではないが、入手できている」が、「ほとんど入手できていない」より少し多い。

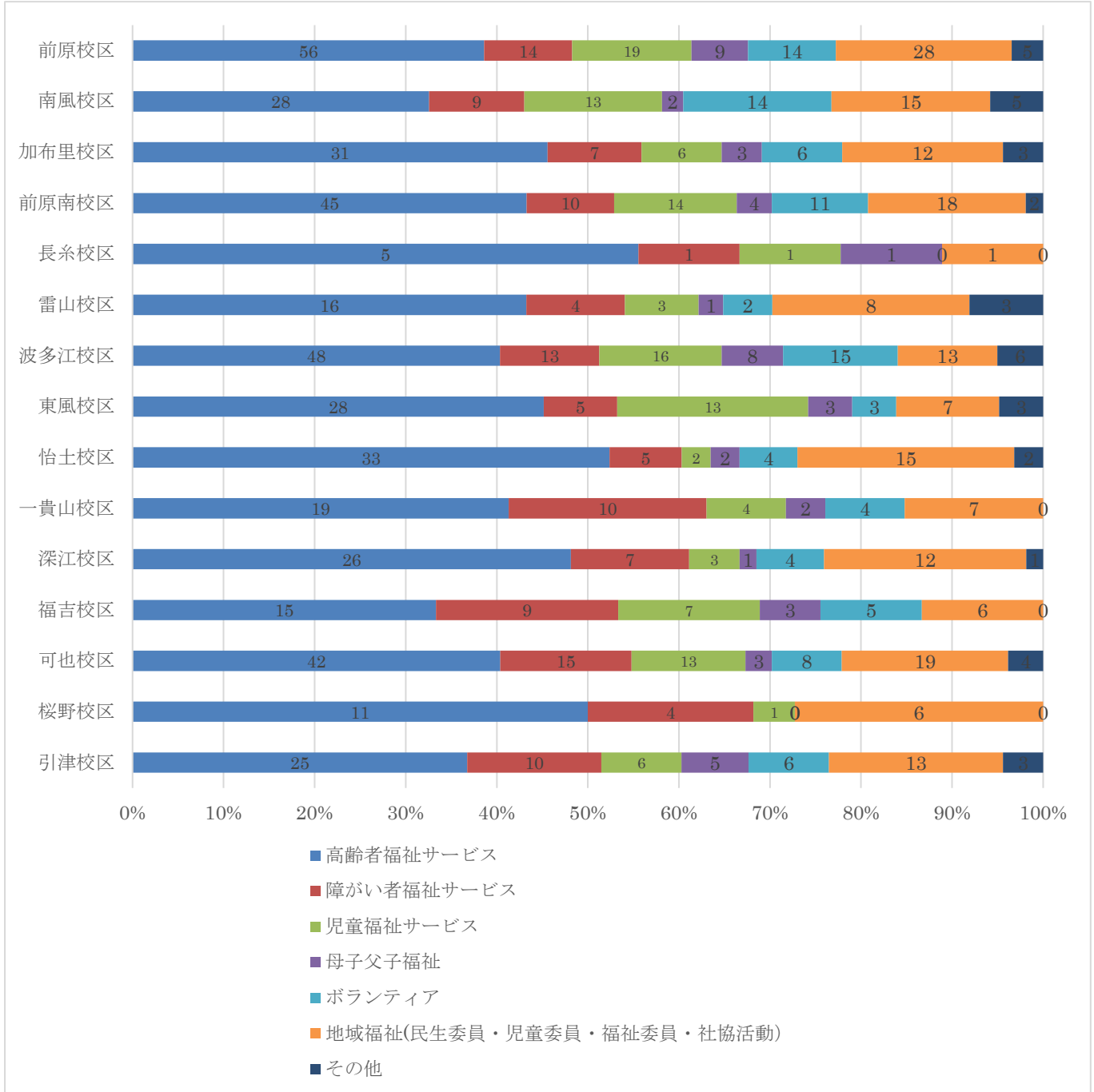
長糸校区では、「十分ではないが、入手できている」、「ほとんど入手できていない」が同じ。

雷山校区では、「今のところ情報を得る必要がない」が、他を上回っている。

波多江校区では、「ほとんど入手できていない」が、「十分ではないが、入手できている」より多い。

問 21 糸島市の福祉において、知りたい情報は何ですか(校区別)

このグラフは、各校区の全体の割合を表しています。



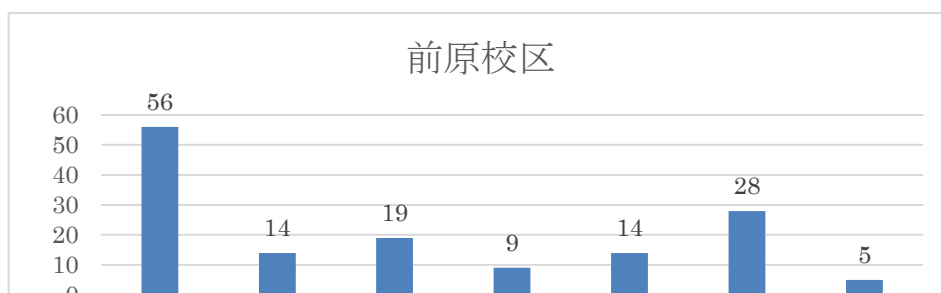
【校区別の知りたい情報】

「高齢者サービス」が全体的に多く、その中で「長糸校区」、「怡土校区」、「桜野校区」が多い。

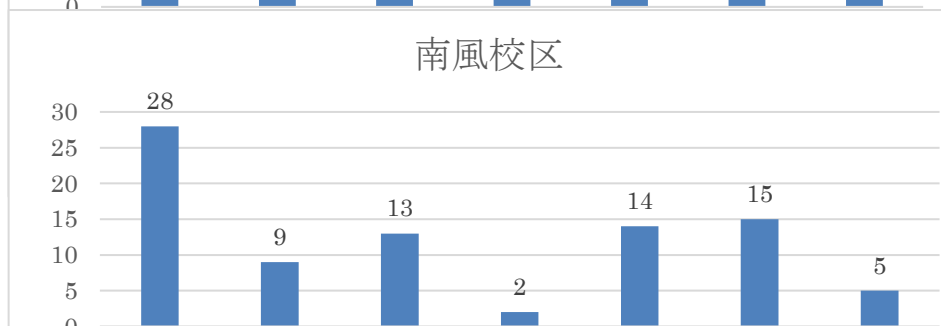
次に、「地域福祉」が全体的に多いが、「東風校区」は「児童福祉サービス」が多く、「福吉校区」と「一貴山校区」は、「障がい者福祉サービス」が多い。

問 21 糸島市の福祉について知りたい情報（校区別）

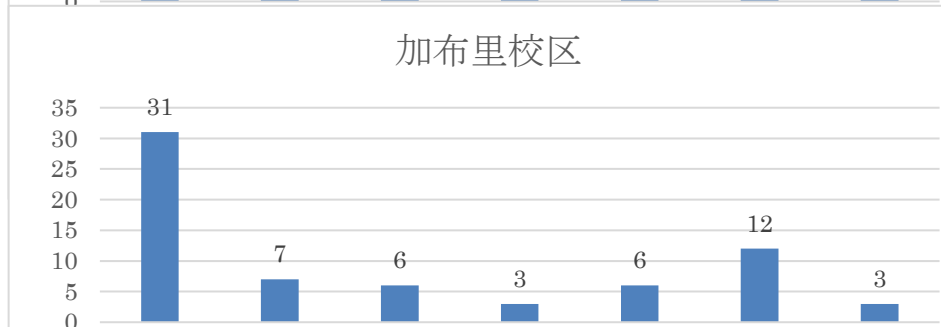
前原校区



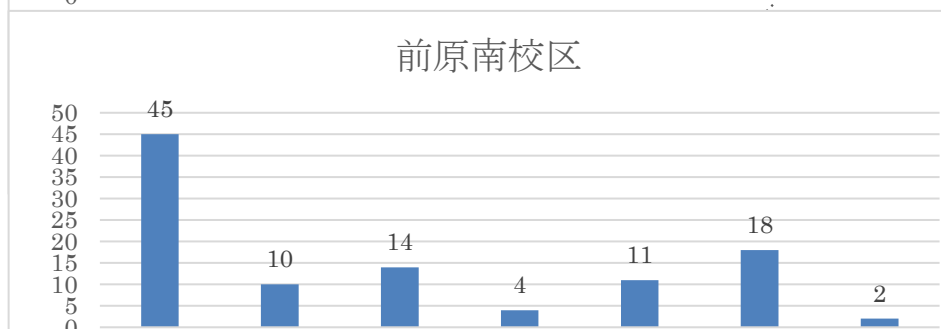
南風校区



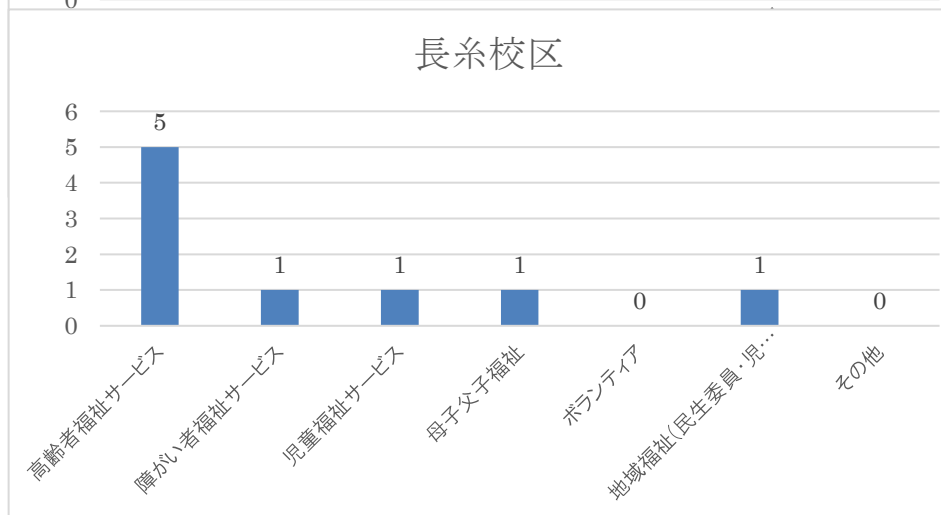
加布里校区



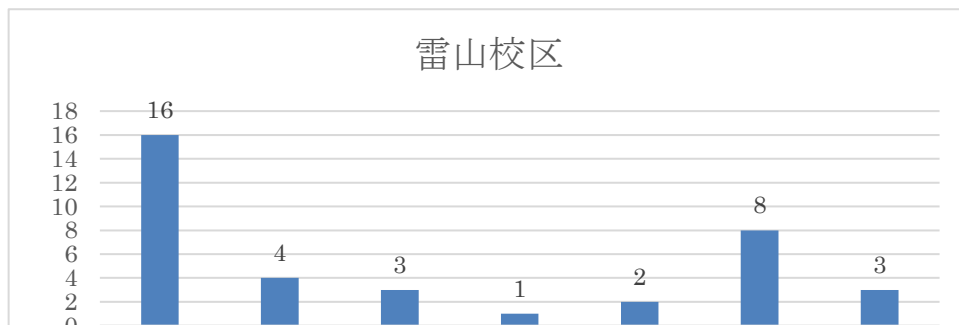
前原南校区



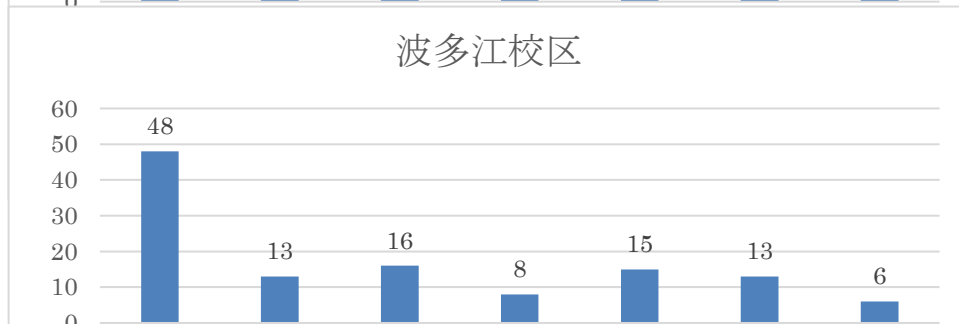
長糸校区



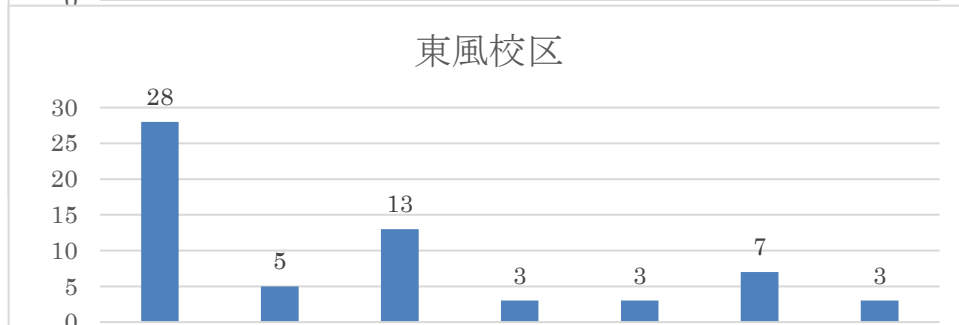
雷山校区



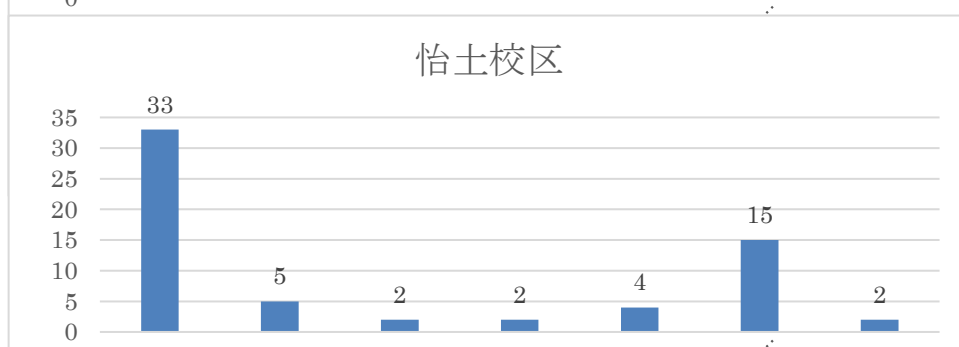
波多江校区



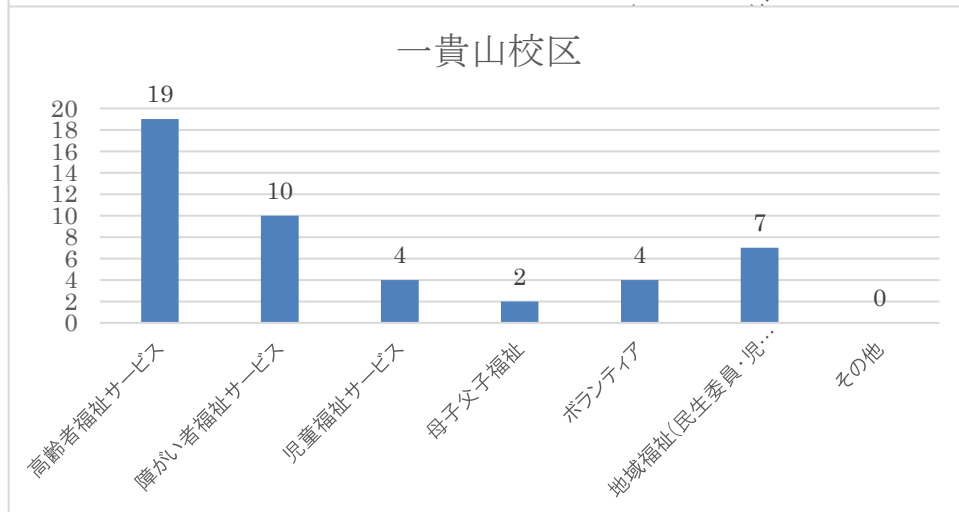
東風校区



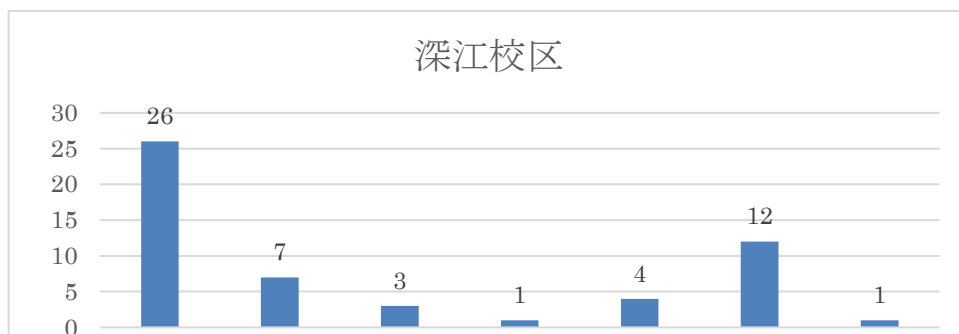
怡土校区



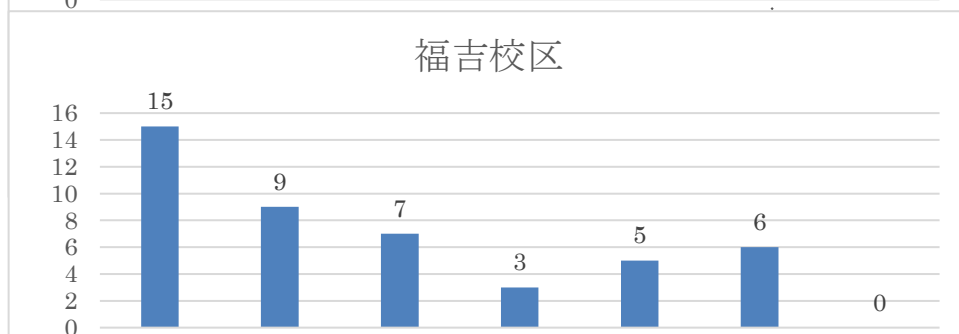
一貴山校区



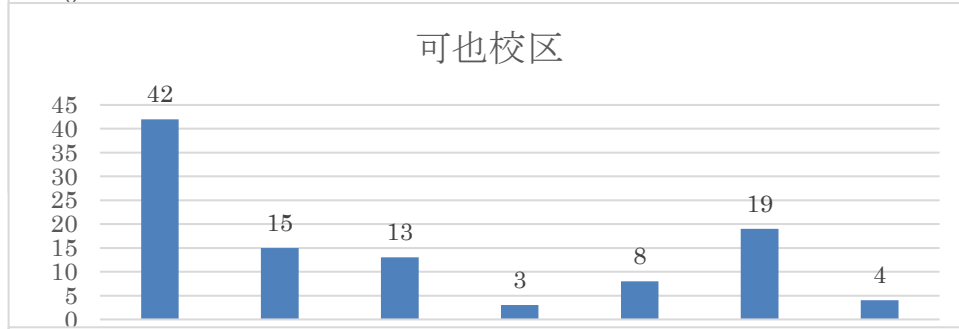
深江校区



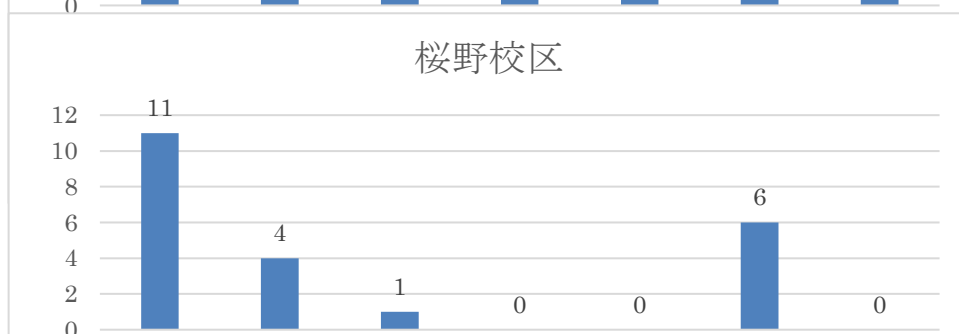
福吉校区



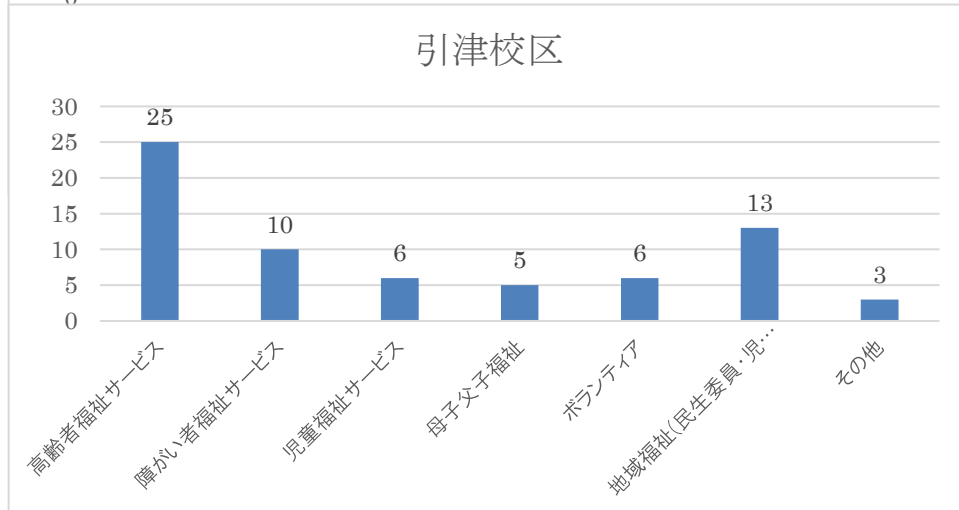
可也校区



桜野校区

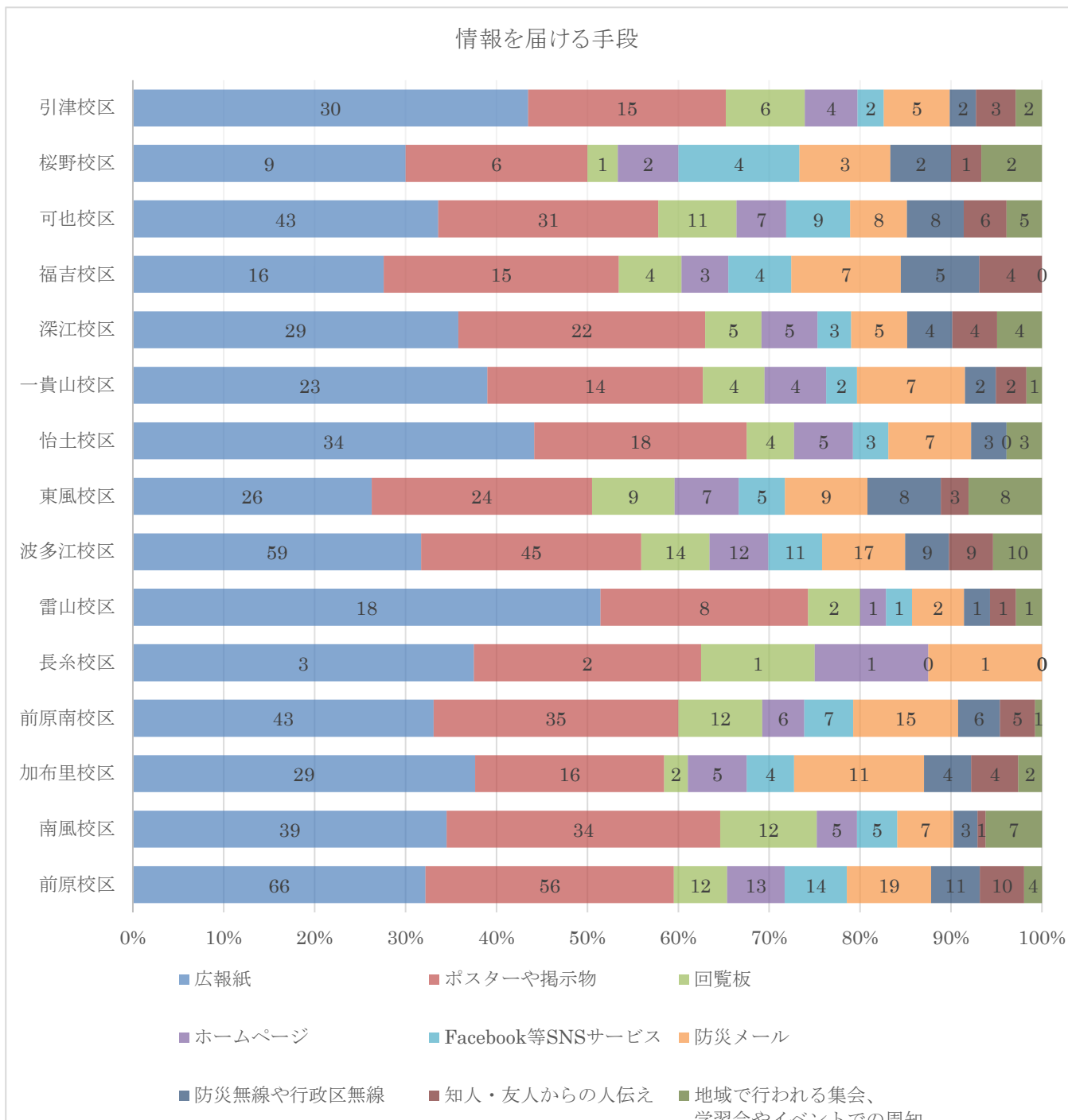


引津校区



問 22 情報を届ける手段として、有効だと思うものは何ですか(校区)

このグラフは、各校区の全体の割合を表しています。

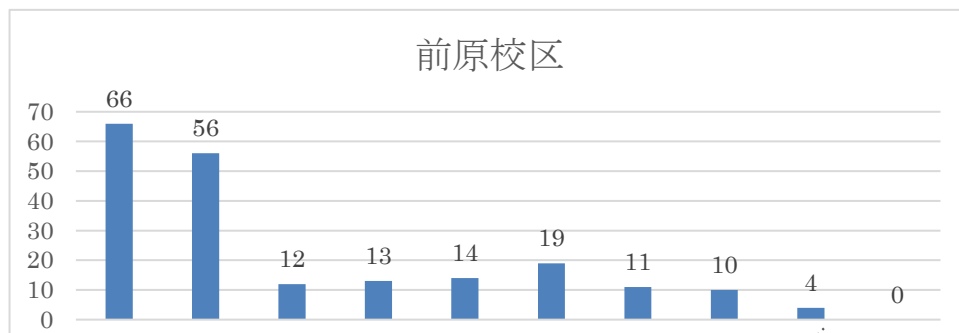


【情報を届ける手段として有効だと思うもの】

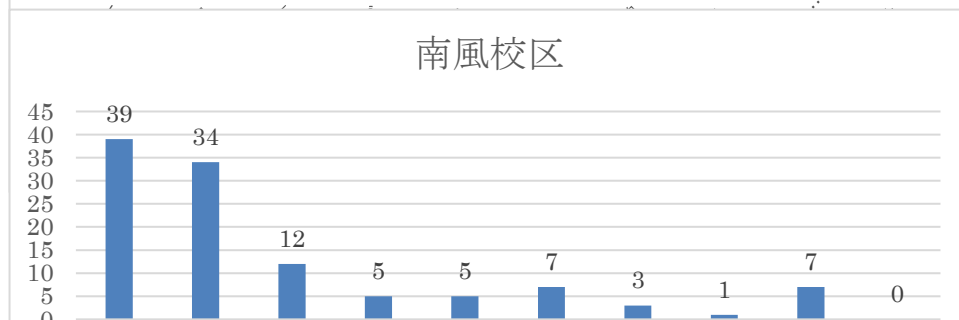
「広報紙」が全体的に多い。次に、「ポスターや掲示物」が多い。

問 22 情報を届ける手段として、有効だと思うもの(校区別)

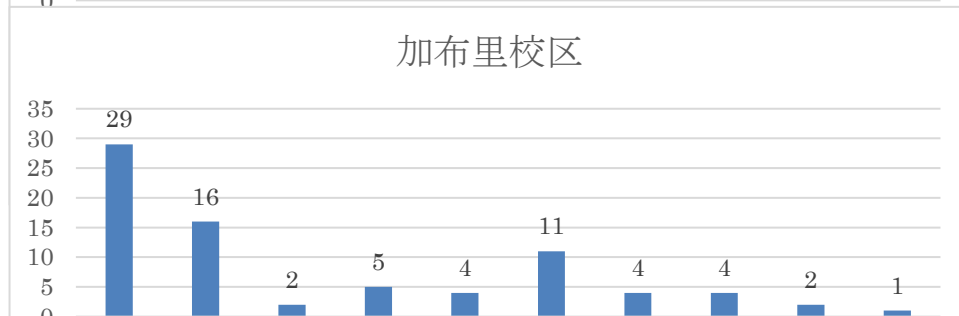
前原校区



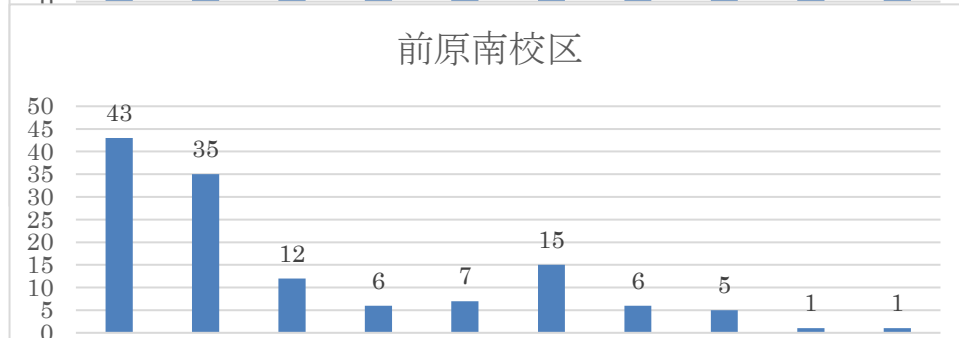
南風校区



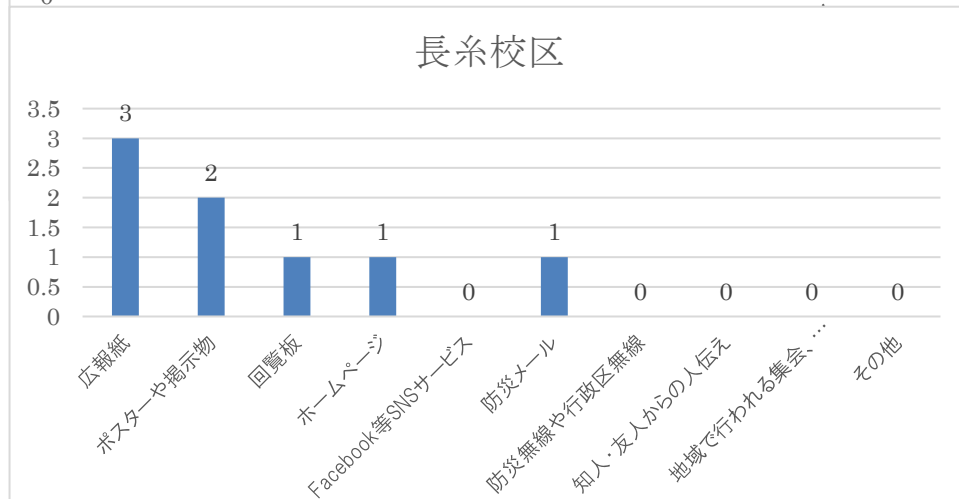
加布里校区



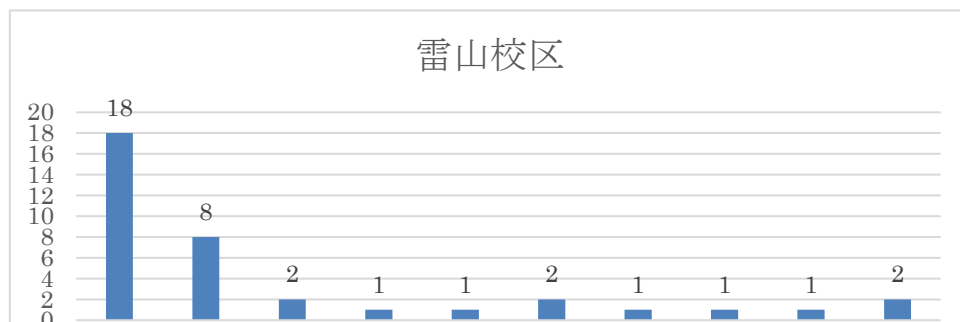
前原南校区



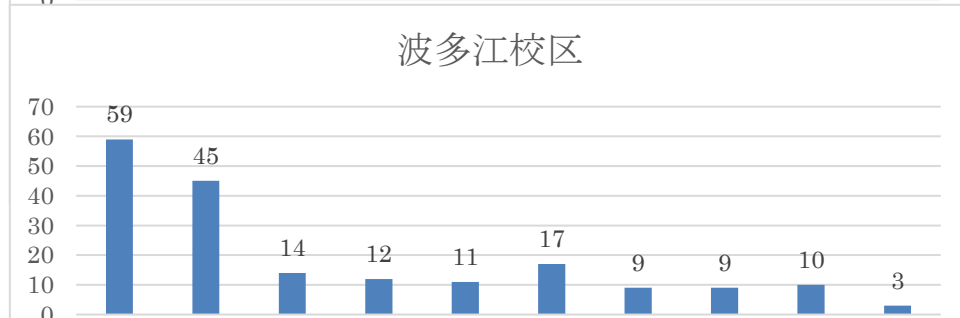
長糸校区



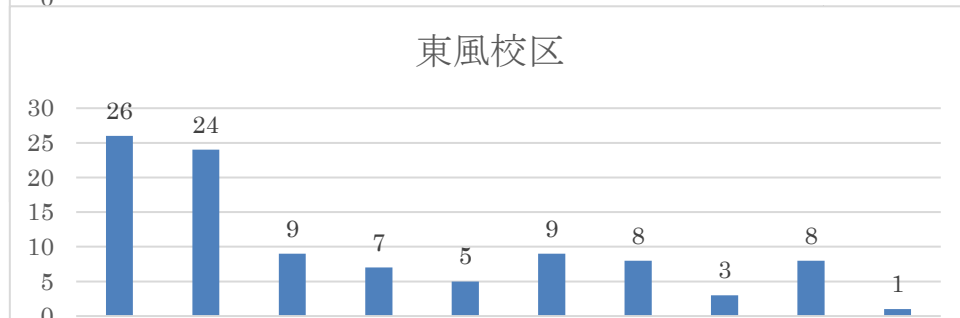
雷山校区



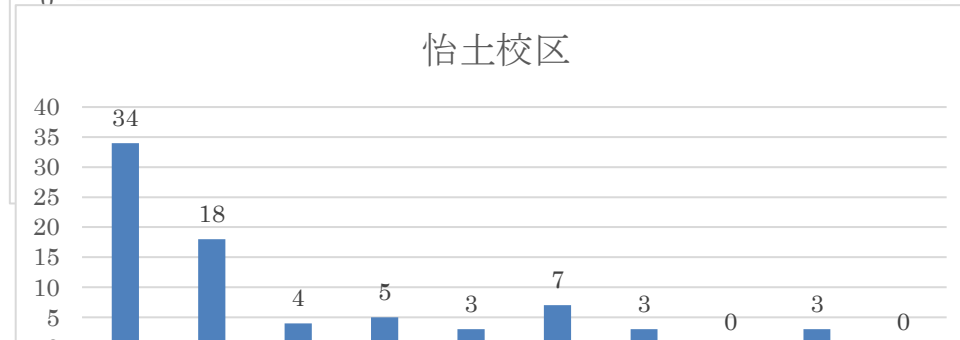
波多江校区



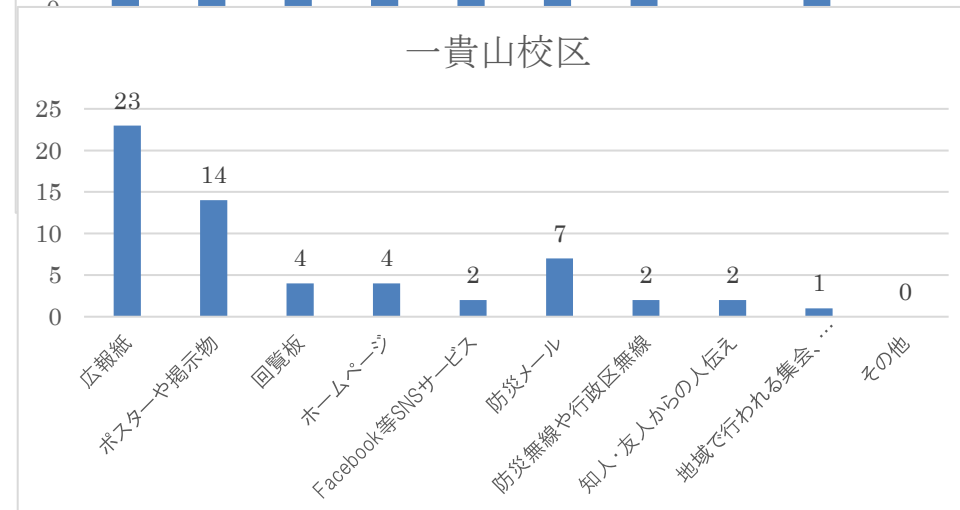
東風校区



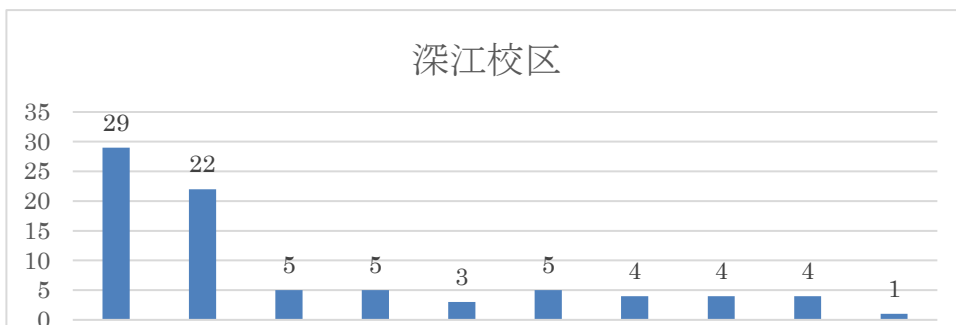
怡土校区



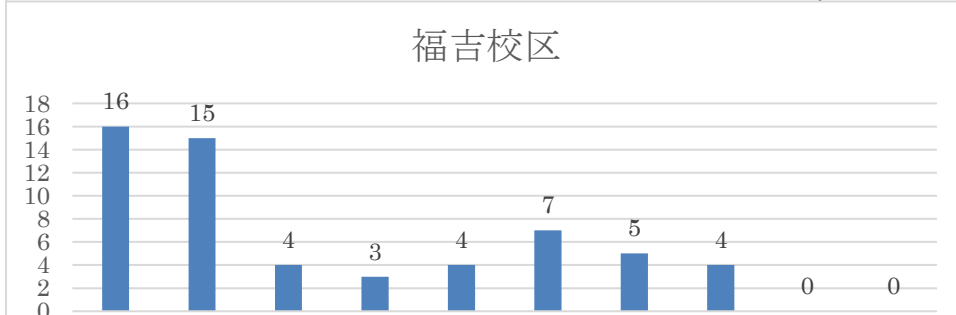
一貴山校区



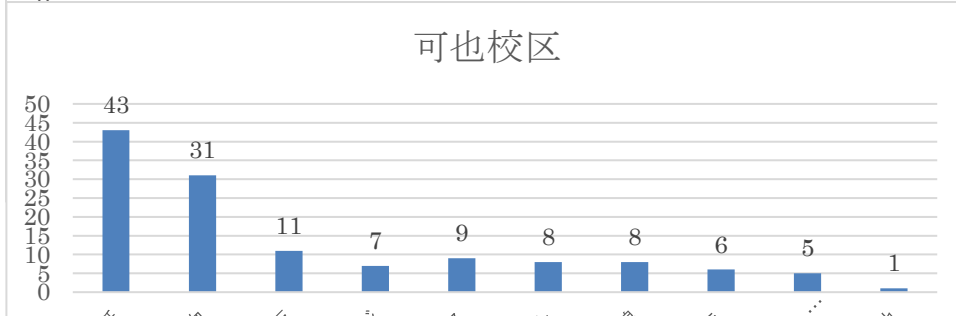
深江校区



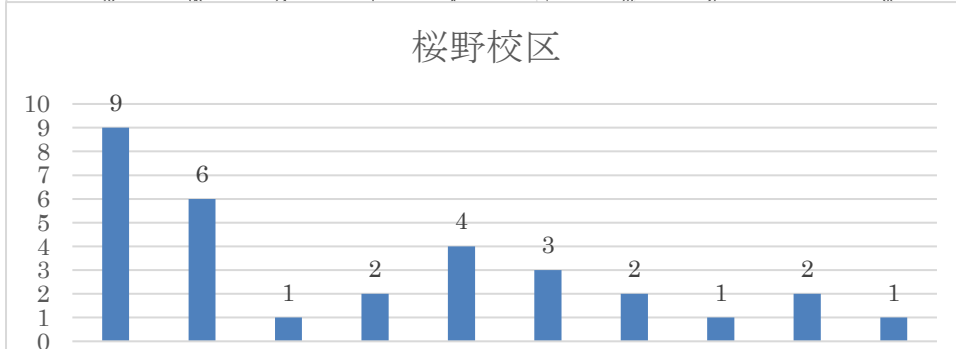
福吉校区



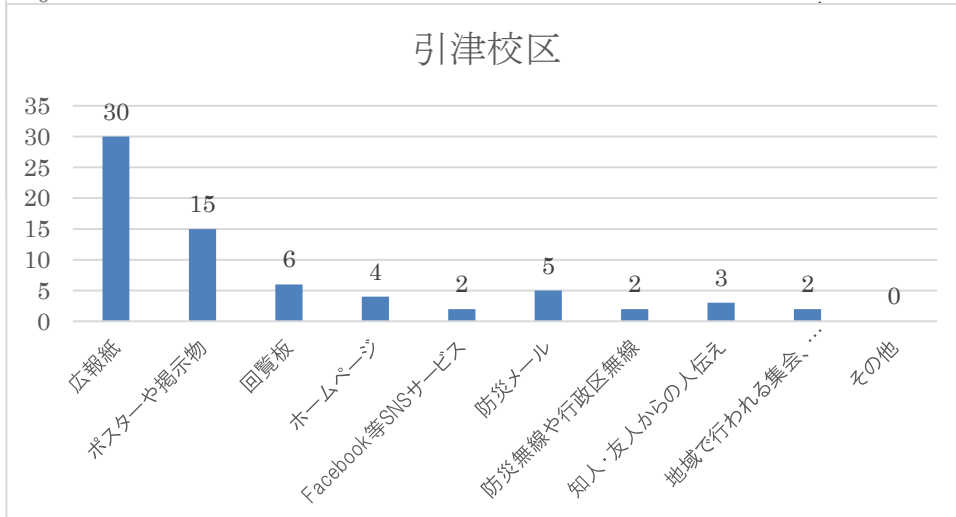
可也校区



桜野校区



引津校区



総 括

設問1 回答者の基本情報について

地域福祉や地域共生社会に関するアンケート調査について、糸島市が住民基本台帳に登録している20歳以上の中から無作為に抽出した2,000人を対象に調査を行った。

調査対象2,000人に対して、785人回答。回収率は、39.3%となった。

調査の「基本情報」では、回答者の多くは、60代70代で、若い世代の回答が低く、男女比では、概ね半々の結果となった。

また、回答者の居住期間は、高いところでは、50年以上が多く、低いところをみると、20年～29年が多く、家族構成では、親と子、夫婦のみ世帯が75%を超え、核家族世帯の割合が多い。

設問2 共生社会づくりへの意識調査について

共生社会づくりの意識調査について、まずは、近所付き合い、地域のコミュニティ組織である自治会・町内会、地域課題への関心度やその地域課題を我が事に変えることについて質問を設け、調査を行った。

近所付き合いでは、「会えばあいさつや立ち話をする（地域行事も含む）」が最も多かった。しかしながら、次いで「あいさつする程度であり近所付き合いはない」と回答した人が全体の26%となった。

また、「近所の人とは全く付き合いがない」では、怡土校区、長糸校区、福吉校区、引津校区はゼロであり、高齢化率が高くても隣近所の関係が構築されている結果となった。

次に相談できる人では、「3人～4人いる」が最も多く、次いで「いない」の順となり、前問の近所づきあいに比例した回答となった。特に「いない」は、それぞれ校區別でみるとマンション・アパートが多くある波多江校区が顕著である。次いで、前原南校区、前原校区、南風校区の順となった。

また後述の、もしも孤立死や虐待などのおこる恐れがあると状況を知った場合の対処としても「近隣の人に相談する」が最も多いことから、近所付き合いがある地域と相談できる人が地域にいるは相対的に比例して、付き合いの程度や距離感に違いはあっても、身近な地域の課題に対して、隣近所の関係が有効なことがわかる。

地域のコミュニティ組織である「自治会・町内会」では、自治会に加入していないと回答された人は、全体の20%となり、自治会の未加入世帯が高いことが分かる。

また、加入している方で良かった点では、「地域の行事・取り組みについて知ることができた」「ご近所の顔がわかり安心できた」「近隣との関わりが増えた」と50%以上が回答された。次に自治会加入の問題点では、「役員の負担が大きい」が最も多く、次いで「忙しくて行事に参加ができない」が多かった。

次に、現在の自治会・町内会活動の問題点では、大きく二つに分けると、そう思う・やや思うでは、「高齢者世帯が増えている」、「子どもが減っている」、「活動の運営が役員任せになっている」、「活動への参加が自主性にかけている（動員型）」、「特定の人に業務が集中している」、「活動がマンネリ化している」が順に多かった。逆にそう思わなかった・全く思わなかったでは、「活動の情報が住民にいきわたっていない」、「運営の実態が理解しにくい」が多かった。

次に実際に加入につなげるためには、どのようなきっかけや手法・仕組みが必要ですかの問いでは、「未加入者も含めた気軽に参加できるイベント」と「隣近所からのお誘い・声かけ」が40%で最も多く、次いで、「活動内容が分かる情報発信」が37%、「対象者を明確化した上での役員免除や負担金の軽減対策」が35%と多かった。

自治会・町内会については、その他で記述されている人も多く、関心は高い。

今後、少子・超高齢社会の中、家族構成や地域の実態、さらには雇用状況も変わっていくことが予測され、一般的な理論によって、自治会は必要・大事だから自治会をもっと活性化させていこう、自治会に加入してくださいと呼びかけるだけでは難しい。自治会があったからこそ住民の暮らしの安全・安心が守られていることや地域の身近な課題が解決されていることを加入世帯や未加入世帯を含めた地域住民に見える化し、次世代の子ども達をはじめ、多様な人たちに共感され、納得される運営や取り組みに変革していく必要が求められる。

また、住民の暮らしの安全・安心が守られていることや地域の身近な課題が解決した自治会の成功事例も積み重ね、加入世帯や未加入世帯を含めたすべての地域住民に共有することも大切である。

身近にある地域生活課題への関心度では、「高齢者世帯の生活支援」が半数を超え、次いで「高齢者の社会参加や生きがづくり」、「障がいのある人に対する地域の理解、交流の促進」、「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」「共働き家庭の子育て支援」の順に多かった。

また、優先的に解決しなければならない課題では、「高齢者世帯の生活支援」が40%と最も多く、次いで「高齢者の社会参加や生きがづくり」が29%、「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が27%、「共働き家庭の子育て支援」が25%となった。

次に、もしあなたの周辺で孤独死や虐待（児童、高齢者、障がいがある人）等が発生する恐れがある状況を知ったら最初にどのように対処しますかでは、「近隣の人に相談する」が最も多く、次いで「自治会・町内会役員」、「警察・交番」に連絡するが多かった。

次に、地域で困りごとを抱えている人や世帯に対し、何か自分に出来ることがあれば支援をしたいと思いませんかでは、「思う」が最も多く、「とても思う」を含めて全体の74%だった。支援内容では、「高齢者」が61%と最も多く、次いで「子ども」の44%で関心が高かった。

65歳以上の高齢者が21%を超える超高齢社会となっている今、自分や家族の問題としてとらえた高齢者世帯の生活不安や高齢者の社会参加や生きがづくりへの関

心が高い。

近年、自然災害が全国をはじめ、県内でも発生していることや玄海原発から概ね半径 30 km圏内の緊急時防護措置を準備する区域（Urgent Protective action planning Zone「UPZ」）であることから、身近な問題として、災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動に関心が高かった。とりわけ「共働き家庭の子育て支援」は、回答者に高齢層が多い中、とても感心が高い結果となり、現代社会のニーズとして、重要なテーマの一つであることが明らかになった。

支援では、自分に出来ることがあれば支援をしたいと思う人が7割を超えている状況から、支援の必要性を地域住民の多くが認識しており、その地域課題や課題解決のため、何をするのを明確にして周知できれば、幅広い地域住民の活動参加も期待できる。

「地域で困っている人や世帯の問題」を「我がこと＝自分のこと」として、とらえるのはどんな時ですかでは、「自分（家族）が、その問題を抱えたとき」、「身近な人（友人や知人）がその問題を抱えているとき」、「将来自分にも起こりうる可能性があるとき」の3つが全体の55%を超えていた。

次に地域活動において、「役員任せ」になりがちな現状に対して、地域住民が「我が事＝自分のこと」として、主体的に取り組んでもらえるための有効な手段は何だと思えますかでは、「見守りや支えあい・助け合い活動の推進」、「行政などによる地域支援の充実」が全体の44%と最も多く、次いで「若い世代への働きかけ（学校での福祉教育）」が36%と多かった。

記述のなかでは、「行事や役員負担を減らす」、「参加しやすい状況をつくる」、「活動への意欲を促すメリットをつくる」、「日々の人間関係づくりをする」、「意識の持ち方の改善」など前向きな意見が多かったが、「子育て、共働き世帯は、働き育てるのに精一杯」「個人情報の問題」など現実的な状況と課題についての記述も多かった。

地域共生社会の実現に向けての柱でもある「我が事に変える働きかけ」を推進していくためには、こうした現状や課題があることを前提に推進する必要がある。まずそれらを明らかにし整理すること。そして、住民同士がワークショップ等の対話を通してお互いに理解し合うこと。併せて、身近で小さな課題から具体的に解決をして、取り組みの成果が見えるよう発信すること。その課題解決方法を参考事例集として、まとめていくことも大切である。

また、共感から協働へ行動に移すするには、自分や身近な人の問題に我がこととして捉えている人が多いことから、地域社会とのつながりが切れている人の関係性を構築又は、再構築するために、お互いの顔が見える関係づくりの工夫が求められている。結果、コミュニティの強化が地域の安全・安心、災害時の共助、要援護者への配慮につながることから、今後、マンションやアパート、人の入れかわりがある都市部でのコミュニティについても個別的に成功事例を積み上げる必要がある。

設問3 情報共有の仕組みについて

情報共有の仕組みについては、「福祉サービス」の情報では、44%の人が「十分ではないが入手できている」、「十分入手できている」と回答された。一方、31%の人が「ほとんど入手できていない」と回答された。

次に、福祉についての情報入手先では、「広報いとしま」が最も多かった。次いで市社協だより「みんなのふくし」、糸島市のホームページとなった。また、広報媒体以外では、市役所窓口と友人・知人、家族・親族、近隣からの口コミの順となった。

次に糸島市の福祉において、知りたい福祉の情報では、「高齢者福祉サービス」が最も多く、次いで「地域福祉に関する情報」となった。

次に、その情報を届ける手段として有効なものでは、「広報紙」が最も多く、次いで「回覧板」が多い。その他の記述では、対象世帯を絞ったチラシ、ポスティング、各世帯への防災無線の設置、テレビ・ラジオの活用、DMでの配信などがあつた。

最後にすべての人々に情報を届けるための具体的なアイデアの記述では、大変多くの人からアイデアや意見をいただいた。

まず、福祉の情報共有については、三つの視点が必要であると考えます。一つ目は、普段、地域社会の一員として幅広く情報共有をする視点。二つ目は、情報が届きにくい高齢者、障がい等がある人への情報共有をする視点。三つ目は、時間的に制限がある人（いわゆる今の生活が忙しい方）や、自治会に加入していない人への情報共有をする視点がある。

一つ目は、広報紙や回覧板、ポスター・チラシの掲示物、チラシのポスティング等を活用した従来型の方法がある。

二つ目は、友人・知人、隣近所からの声かけや福祉情報を必要とする人を把握し、関係機関等を紹介し、関係構築を早期に行うこと等、地域と関係機関が連携していく方法がある。

三つ目は、メール・SNS等のインターネットを活用した方法がある。

今後、福祉に関する情報発信、情報共有については、既存媒体の効率的な運用・有効活用をするとともに、いずれも情報は膨大で常に更新されているため、世代や課題ごとに必要な情報がもっと入手しやすい工夫や仕組みで提供されることが望まれている。

設問4 相談支援の体制について

相談支援機関の認知度については、名称も活動内容も知っている「糸島市社会福祉協議会（あごら）」の16%が最も多く、次いで「地域包括支援センター」の13%、「子育て支援センター」の12%となった。

地域福祉を推進する担い手（団体・人）では、「民生委員・児童委員」の22%が最も多く、次いで校区社会福祉協議会が12%、「ふれあい生きいきサロン」が11%となった。

名称は知っているという人が一定以上いるなか、活動内容を知らない人が大多数である。一体なぜなのか、周知が足りていないのか、福祉サービスが今必要ではなく関心がないのか。機関・団体、担い手が多すぎて、活動の内容まで把握してないことが多いのか等、それらすべてを一度検証し整理する必要があるだろう。

地域住民が福祉に関する悩みや問題が発生したとき、その関連する分野に応じて、誰もが相談できる分かりやすい情報提供の方法。また、情報が届きにくい人への配慮による周知体制、提供の仕組みが一層求められる。

住民に分かりやすい窓口にすることはもちろん、住民からの多様な相談を、それぞれの窓口担当者が包括的に受け止め、適正な窓口の調整を図るような横断的かつ総合的な相談支援体制の仕組みが必要なことを踏まえ、分野や種別の垣根を超えた職員間の協働学習の場や研修、交流会等の開催に努め、市内の福祉関係機関の窓口業務体制の一層の向上を図る必要がある。

まとめ

「地域共生社会の実現」に向けて、「共生社会づくり」、「情報共有の仕組み」、「相談支援体制」の三つの柱から考察すると、地域住民には、多様な生き方や価値観があるということを理解しなければいけない。

この多様性が地域社会の変化と発展に不可欠な要素であることは間違いなく、その視点を失うと、生きづらさを感じ、暮らしにくい地域になり、閉塞感や不信感が生まれる。

地域共生社会とは、地域の中で多様性のある住民が、共に生きる社会のことである。言い換えれば、共に理解する地域でもあり、そのことが地域の安全・安心、災害時の共助、要援護者への配慮につながることを大切にしなければならない。

少子・高齢社会に伴う人口減少社会の進展が、今の暮らしをどう変えて、どんな課題が発生するのかについても丁寧な説明をしながら、暮らしの中で、高齢者世帯の生活支援、高齢者の社会参加や生きがい、障がいのある人に対する地域の理解や交流の促進、災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動、共働き家庭の子育て支援等様々な地域生活課題を積極的に把握し、その課題を解決する公私協働の取り組みを推進する必要がある。

また、地域には、コミュニティづくりを推進するさまざまな組織・団体があり、そ

れぞれに会員の高齢化、役員のみなり手がなく、仕事が多い等の課題を抱えている。

今後、組織・団体の現状や課題について整理をしながら、地域住民をはじめ、地域にある組織・団体、事業所等の相互の連携も必要である。

多様な人・団体が参画する幅広い住民同士の話し合いの場を設け、お互いに理解し合い、協働して身近にある小さな課題の具体的な解決を通して、組織・団体、そして地域の取り組みが見えるよう発信することが大切である。

最後に、地域住民が主体的に地域生活課題を把握し、その課題解決へつなげる取り組みを推進する上で欠かせないものとして、住民間での情報共有、地域を支える福祉の相談窓口体制の構築がある。

住民間での情報共有については、誰もが地域社会の一員として情報共有をする視点、情報が届きにくい高齢者、障がい者への情報共有をする視点、今の生活が忙しい等時間的に制限がある人や、自治会に加入していない人への情報共有をする視点、そして、必要な情報がもっと入手しやすい工夫や仕組みを踏まえ、三つの視点でそれぞれ対応していく必要がある。

また、福祉の相談窓口体制についても、現実に多様な福祉ニーズがあるがゆえに、専門職や窓口体制が多岐に渡り、専門分野や種別ごとの設置でありながら、対象が重なるものも少なくない。情報共有と同じく、各人の困りごとに違いもあり、解決するために適正な相談機関に速やかに結び付けていくことが重要である。

今後、分かりやすい相談連絡先を周知する工夫が必要であるとともに、課題を抱える人にとっての最初の連絡先となる相談窓口で、それぞれの相談員が課題をまるごと受け止める意識の徹底を図るため、学習の場や研修、交流会等の開催に努め、相談機関同士の拠点となるような総合相談体制の構築を図る必要がある。